



研究報告書

Nagoya Urban Institute Research Reports

2010.3

平成21年度 市民研究Ⅱ報告書

色彩を通してみる都市環境と都市文化

はじめに

これまでのまちづくりは行政の先導により進められてきた感がありましたが、近年市民と行政のパートナーシップによるまちづくりが重視される中で、市民の方々が主体となってまちづくりを進める場面が増えつつあります。

財団法人名古屋都市センターでは、平成11年度に名古屋のまちづくりについて市民の目で自主的に研究していただく「市民研究制度」を設けて以来、これまで、市民研究員によるまちづくりに関する様々なテーマの研究に取組んできました。

平成21年度には、当センターの調査研究全般を通じたメインテーマ「持続可能なNAGoyaへの変革－次世代に引き継ぐ魅力ある都市－」の元、あらかじめ定められた研究テーマについて応募者がグループで活動していただく市民研究Ⅰ（共同研究部門）と、応募者自身が市民の視点から研究テーマを設定して調査研究を行い、提言をまとめていただく市民研究Ⅱ（自由研究部門）を設置し、両部門で研究活動を進めてまいりました。

本報告書は、「色彩を通してみる都市環境と都市文化」と題し、その提言内容を研究成果としてとりまとめました。

当センターといたしましては、今後とも、市民、学識者、行政などの幅広い視点からの調査研究を通して、名古屋のまちづくりに貢献していく所存です。今後ともこれまでと同様、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成22年3月
財団法人 名古屋都市センター

I.概要編(本編要約版)

II.本編

第1章 研究概要

1－1. 研究の背景	1
(1) 日本の街並み	
(2) 色彩と街並み	
(3) 色彩によって街並みを魅力的に	
1－2. 研究の目的	3
1－3. 研究の方法	3
1－4. 研究の概要	3

第2章 現状把握・課題の抽出

2－1. 研究対象地の設定	5
(1) 研究対象地について	
2－2. 研究対象地の景観	6
(1) 大津通りの歩みと風景	
(2) 大津通りの現在	
(3) 大津通りの今後	
2－3. 課題の抽出	13
(1) 大津通りの景観	
(2) まちのいろ	
(3) 本研究の課題	

第3章 調査・分析

3－1. 調査の目的とその手法	14
(1) 目で見える「まちのいろ」	
(2) 市民がイメージする「まちのいろ」	
(3) エリアの分類	
3－2. 測色調査	15
(1) 測色調査の概要	
(2) 測色調査結果	
(3) 測色調査結果の分析	
3－3. アンケート調査	28
(1) アンケート調査概要	
(2) アンケート調査結果および分析	
(3) アンケート調査まとめ	
3－4. 調査・分析のまとめ	55
(1) 「まちのいろ」は“見えるいろ”と“見えないいろ”	
(2) “見えるいろ”と“見えないいろ”的関連性	
(3) まとめ～「まちのいろ」を感じること～	
(4) 今後に向けて	

第4章 提案・まとめ	
4－1. 景観への提案	57
(1) いろ（色彩・特徴・味わい）のあるまちとは	
(2) いろのあるまちへ	
4－2. エリアカラーを表現する	58
4－3. エリアカラーをよりよく見せるには	58
(1) 建物	
(2) 屋外広告物	
(3) 道路景観	
(4) 植栽	
4－4. 研究のまとめ	83
(1) “見えるいろ（景観色彩）”と“見えないいろ（文化）”のバランス	
(2) 良い景観を持続すること	

III.資料編

■アンケート集計結果

概 要 編

色彩を通してみる都市環境と都市文化

平成 21 年度 市民研究員 ながなわ久子 荘原温子 加藤裕之

熊田秀子 佐良木美保子 鈴木博正

千葉順子 西田智恵子 木村晃一

第 1 章 研究概要**1-1. 研究の背景**

戦後、日本の街は急激に変化した。

多種多様な建材により色やデザインが自由に表現できるようになり、また経済性や利便性が優先された結果、地域の調和を無視した建造物や構造物が次々に建設され、美しい景観や伝統ある良好な街並みが失われ、街そのものの趣が薄れてきたように感じられる。

混沌とした街並みが潤うには、長い時間が必要であろう。そのため 50 年、100 年先を見据えて行動しなければならない。地域の特色を尊重し、魅力あるまちの景観を形成・持続しつづけるため、今、都市景観を見つめ直すことが重要と感じる。

1-2. 研究の目的

名古屋の都市景観がもつ景観特性や地域性について色彩を通じて把握することで、名古屋の景観をより魅力的なものとするためのヒントを発見し、その魅力が将来にわたって輝き続けるような景観形成方針を提言することである。

今後の景観づくりの方向性を明確にすることで、メインテーマである持続可能な NAGOYA について都市景観面からアプローチし、次世代に残される名古屋の景観の良好な変革への足がかりとなることを目的とする。

1-3. 研究の方法

本研究では特定の研究対象地の景観について色彩を軸に把握することで、当該景観がもつ課題を抽出、課題の調査・分析を実施する。

その後、調査・分析結果をもとに課題となっている事象の原因を明確化し、今後名古屋の景観がより良好なものへ変革するための解決方法の一つを提言としてとりまとめるものとした。

1-4. 研究の概要

以下の通り研究を実施するものとした。

研究の流れ	実施内容				
	研究対象地の設定				
事前検討	研究対象地の把握				
	過去の景観	現在の景観	今後の景観		
課題の抽出	事前検討を基にした課題の抽出				
	課題の整理・調査方法の検討				
課題の調査	測色調査	街頭アンケート調査			
	色彩分布図の作成				
調査結果の分析	アンケートの集計 イメージスケールの作成				
	調査分析のまとめ				
提言・まとめ	都市景観における提案				
	研究のまとめ				

第 2 章 現状把握・課題の抽出**2-1. 研究対象地の設定**

名古屋市を代表する景観として、名古屋市都市景観形成地区に指定されている 6 地区を候補地として研究対象地の検討を行うものとした。

その結果、市内中心部を縦断し、多くの人々が行き来する「広小路・大津通り地区」を本研究の研究対象地として設定し、住宅・商業等、多くの景観特性をもつ大津通りを中心に研究を行うものとした。

2-2. 研究対象地の景観**① 大津通りの歩み**

大津通りは、本町通りと並ぶ南北の歴史・文化軸の通りとして位置づけられ、今日に至るまで歴史や文化軸の機能を果たしている。

上前津から大津橋、市役所へ向かうまでの通りは商店施設が多く名古屋の商業の中心として賑わい、昭和初期は柳の街路樹も美しい、名古屋の名所の一つであった。



②大津通りの現在

現地踏査の結果、大津通り全体の景観について、個々のエリア毎にソフト面・ハード面かなり印象に違いが見受けられ、「街の色を感じない」など、「今の名古屋の“街の色”を感じられることができないといった印象が強く感じられた。

③大津通りの今後

名古屋市都市計画マスタープランでは重点的に都市景観を創造し、または保全する必要がある地区として指定されており、平成19年3月に策定された「名古屋市景観計画」では、「都市景観形成地区」と位置づけられ、都市景観形成基準の見直しが図られ、名古屋の都心にふさわしい調和のとれた街並みとし、にぎわいと親しみと文化の香り高い人間優先の魅力ある都市空間とすることができている。

2-3. 課題の抽出

大津通りは古くから、経済・商業の中心軸として機能し、現在もなお、栄周辺や金山などでは多くの人にぎわい、商業が盛んな大津通りの姿を残している。

しかし景観は時代の変遷と共に大きく変化し、柳並木の低層建物が主体であった街並みも、技術の進歩とともに街並みとしての大津通りの姿は常に変化し続けている。

方向性が見えない無秩序な景観とならないよう、景観形成の基準を設け、変化していく景観を良好に保っていくルールが作られているが現在の大津通りを色彩の視点から景観を捉えた結果、大津通りの持つ「まちのイメージ」を感じることができないと感じられた。

私たちはそれを街のイメージである景観特色や文化を読み解くためのキーワード「まちのいろ」として捉え、大津通りの「まちのいろ」を探ることで市民の持つ街のイメージや、そのイ

メージが景観においてどのように視認されているのか、などを把握し、名古屋の「まちのいろ」についてのヒントを探ることを本研究の課題とした。

第3章 調査・分析

3-1. 調査の目的とその手法

「まちのいろ」を探るため、2つの調査を実施するものとした。

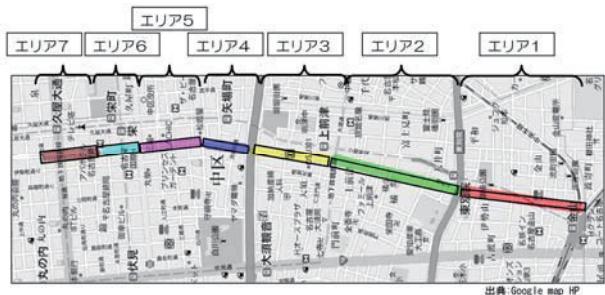
[測色調査]

：現在の街並みの色彩特性の把握

[アンケート調査]

：市民が市内景観に対して感じている名古屋の「まちのいろ」の把握

尚、調査実施において、視認性が大きく影響される調査と考えられることから、景観が異なるエリアを分類し、大津通り全体と各エリアについて調査を実施するものとした。



3-2. 測色調査

調査対象総数325件、うち建物238件、看板45件、その他（工造物・植栽・歩道）77件において有彩色の割合は88%（建物88%・看板96%・その他86%）であった。

①建物

（色相）顕著な違いが見てとれるのは金山エリアである。他のエリア全てが建物の中心がYRであるのに対し、このエリアはPBの割合が多く3割を超える。分布図からもわかるように色相にもばらつきがみられる。全エリアのじつ

に 75%が 5R～5Y の暖色系に集中していることを考えると突出した結果といえる。

②看板

(色相) 中心は R で 33%。ついで P B 21%、Y R 14% と続き、G Y～B は全体の一割程度であった。各エリア対象件数の違いも大きいが、栄南エリアは R が無く他エリアには見られない G が存在したことが特徴といえる。

(明度) 平均値はバリューアー 4.82。各エリア明度による大きな違いはみてとれない。結果として金山エリアがバリューアー 4.10 で最も低く、栄北エリアがバリューアー 5.05 で最も高い。

(彩度) 平均値はクロマ 9.63。金山・東別院・上前津(大須) エリアの平均値がいずれもクロマ 10 以上なのに対し、都市景観形成地区でもある矢場町・栄南・栄北・久屋大通エリアの平均値は最も高い栄北でもクロマ 9 であった。

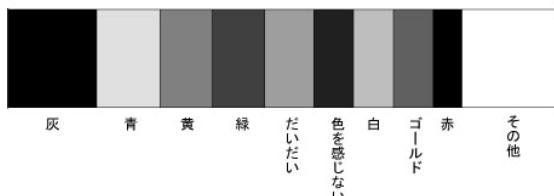
3-3. アンケート調査

ヒアリング内容については現在感じている「いろ」と今後目指すべき「いろ」のそれぞれが把握できるよう設問に配慮するものとした。また、分析は景観の変化による「まちのいろ」の相違を集計数とイメージスケールによる 2 手法によって分析することで、より感覚的な「まちのいろ」を掴むことをねらいとした。

■名古屋をイメージする色

合計 21 色の回答があり、多い順に [灰]・[青]・[黄]・[緑]、この 4 色でほぼ半数になる。次いで [だいだい]・[色を感じない]・[白]・[ゴールド]・[赤] という回答があり 8 色と「色を感じない」と合わせ 80% を超える。

「名古屋をイメージする色は？」



色を選んだ理由に象徴的なものを回答した色は [ゴールド] である。理由として「金鯱」という回答が 9 割を超えて、その 9 割が 30 代以下であった。他には「ドラゴンズカラー」の [青] グランパスカラーの [赤] が多くあった。少數ではあるが [青] に「市バスの色」 [赤] に「名鉄の色」というものもあった。最後に [白] はやはり「歌のイメージ」といった回答が多くあり、回答者の年齢は 50 代以上が 8 割を占めた。

次に街を構成するものを色の理由とした色は [灰] と [緑] である。[灰] という回答は名古屋をイメージする色で最も多い色という結果がでた。[灰] は「ビル」「コンクリート」「道路」からイメージされていることが多い。[緑] は「街路樹が多い」・「自然が多い」・「緑が多い」という回答からイメージされている。

次に感情を表現する回答であるが、「明るい」「活気がある」「元気」「賑やか」といったプラスイメージの回答からイメージされたのは [だいだい] [赤] [黄] がある。特に [だいだい] はこの理由がほとんどであった。次に「清涼感がある」・「スッキリ」といったイメージからは [青] があり、「ホッとする」・「落ち着く」では [緑] がイメージされている。

多くの回答があった [色を感じない] については「未回答」が多く、はつきりとした理由はない。

今回、回答者が色を選んだ理由の 2/3 が感情を表現する語句を理由にしていて、中には今の社会情勢を反映して「不景気だから」という回答もあった。したがって、街の色は単に建物の色や看板の色や洋服の色などだけで決まるものではなく、そこで生活する人の感覚というものが大きく影響を与えると考えられる。その中で名古屋の色は [灰] という色味のないものが選ばれたのは残念である。

3-4. 調査・分析のまとめ

2つの調査により「まちのいろ」は“見えるいろ”（モノの色）だけでなく、その街を象徴するものや、街が持つ雰囲気“見えないいろ”（街の文化）からイメージされるものであることが分かった。また大須エリアでは高彩度の看板が多いといった測色調査結果にも拘らず好感度が比較的高い傾向が伺えることなどから、“見えないいろ”を大きく阻害する“見えるいろ”について市民は嫌悪感を抱くのではないかと考えられる。

「まちのいろ」は景観と文化から構成されており、まちによって大きく異なる。今後の景観形成においては「まちのいろ」の“見えないいろ”を読み解き、“見えるいろ”的ルールを決めて「まちのいろ」のバランスを保つことが重要であると考える。また「まちのいろ」は画一的に決められるものではないため、広範囲の画一的なルール設定が結果的に「まちのいろ」をなくしていく要因となる可能性があることが今後の課題と考えられる。

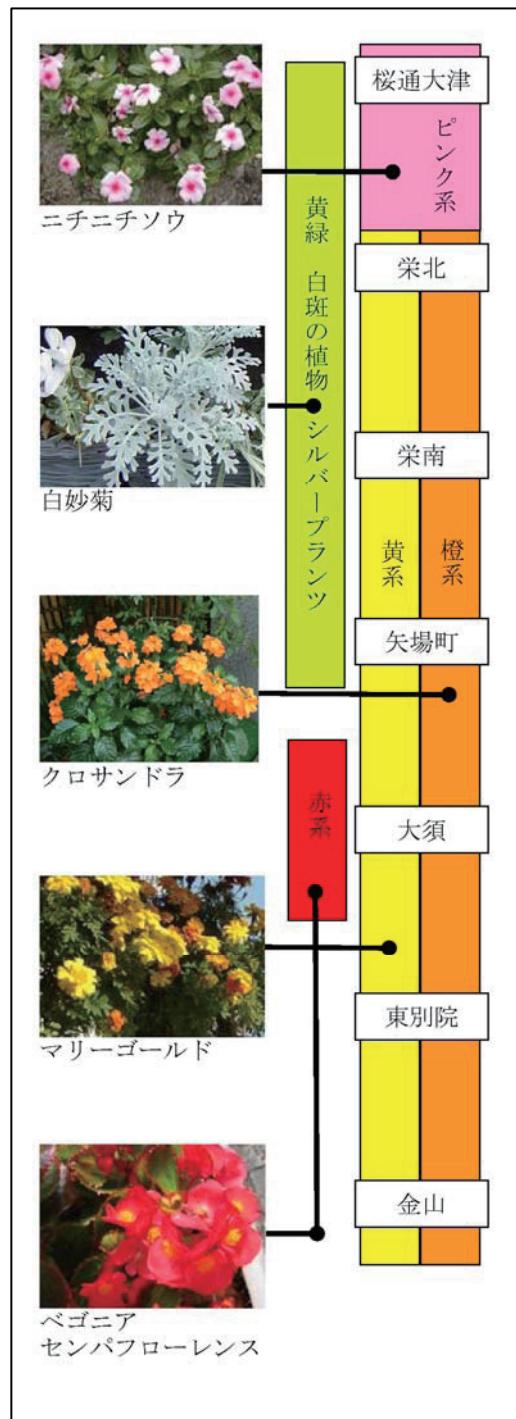
第4章 提案・まとめ

4-1. 景観への提案

「いろのあるまち」を実現させるため、以下の2つの手法を大津通りを例に示す。

4-2. エリアカラーを表現する

エリアカラーを表現するための一手法として「植栽」を用いる案



4-3. エリアカラーをよりよく見せるには

街のアクセントをより良く魅せるために、街の景観要素となる建物・屋外広告物・道路の色や、植栽のあり方について以下に提案する。

『(1) 建物』

① 「周囲の建物との調和について」

- ・建物の色相は 10YR を中心とした暖色系にする
- ・建物の高さを揃える

② 「高彩度の壁面について」

- ・壁面 2 色以上で配色する場合も低彩度にする
- ・鮮やかな色は変化を楽しむところで用いる

③ 「名古屋市における建物の色彩基準について」

- ・外壁色としてふさわしくない色は用いないよう誘導する

- ・彩度の基準を色相ごとに設けるとよい

『(2) 屋外広告物』

① 「安全性について」

- ・安全色の近くでは鮮やかな色を禁止する

② 「大きさについて」

- ・広告物の大きさの制限をする
- ・原色の使用面積は最小限にとどめる
- ・ランドマークとなるような視覚的クオリティの高い広告物を考える

③ 「色やデザインについて」

- ・建物と一体化した優れたデザイン
- ・白地の広告物
- ・トーンを抑えた広告物 (低彩度～中彩度の奨励)
- ・地域の特性にあったコンセプトを作り、広告物の方向性を定める

『(3) 道路景観』

① 「路面のカラー舗装について」

- ・**<歩道>**カラー舗装にするなら弁柄舗装がよい
- ・**<車道>**彩度を落すか、ラインにする
- ・**<自転車通行帯>**地道色にする

② 「道路付属物 (歩道橋等) について」

- ・地道色にする彩度を下げるか 10YR を中心とし

た暖色系にする

→**<歩道橋><防護柵・照明灯等><変圧器><ネットフェンス>**

『(4) 植栽』

① 「街路樹について」

- ・奨励する樹種
- ・植栽マスの工夫を工夫する
- ・車からの目線で見た植栽についても考慮する

② 「歩道のコンテナ・ハンギングバスケットについて」

- ・手入れの楽な植栽をする
- ・花で美觀と放置自転車対策を兼ねる
- ・自動灌水システムを設置する
- ・“色の群れ”で見せる
- ・治安にも効果のある花飾りの好例
(矢場町高速道路高架下)

③ 「花壇について」

- ・高さのある植物を植える
- ・ボランティア活動による花壇の好例
(桜通大津)

④ 「民有地の植栽について」

- ・店舗ファサードでの植物の利用
- ・壁面緑化、緑のカーテン
- ・植栽を利用したコンペの実施

4－4. 研究のまとめ

名古屋の都市景観には数多くの“見えるいろ”が存在し、まちなみを構成している。色彩によってそのまちなみをコントロールすることは可能であるが、まちなみには“見えないいろ”が存在し、息づいていることを忘れてはならない。

文化をないがしろにした“見えるいろ”的コントロールだけでは良い結果をもたらさず、また“見えないいろ”だけでは日々進化する技術や時代の流れに追従し、変化することはできない。重要なのは“見えるいろ”と“見えないいろ”的バランスである。

今回対象地として選んだ大津通りでは古くから商業が栄え、“にぎわい”的文化が息づいている。その中でも通り沿いの各エリアにおいて“見えないいろ”が存在し、それぞれ異なる“いろ”を持っていた。市民はそれを無意識に感じ取り、そのエリアに似つかわしくない色彩に不快感を表している。逆に一般的に特徴ある色彩であってもそれを許容するほどの文化がそのエリアにあれば、そこは良い景観となり得るのである。

都市景観をよりよいものにしていくためには、それぞれの“いろ”を読み解きバランスを整えることであるが、それを実現させるために必要なものは“いろ”的バランスを感じ取ることができるわれわれのバランス感覚である。

名古屋の都市景観をよりよいものとし、それを持続させるためには、“いろ”を感じ取ることができる良い環境を整えることだけでなく、変化していく社会環境の中でも“いろ”を見失うことのない市民感覚を育て、後世に伝えていくことである。

本 編

第1章 研究の背景と目的

1-1. 研究の背景

(1) 日本の街並み

海外旅行からの帰り飛行機を降り立ったとたん、日本の風景の汚さを見てがっかりしたという経験は誰しもあるだろう。

建物の色や形状、高さはバラバラで、電線があちらこちらに張り巡らし、原色の看板が乱立する街並みには全く秩序が見られない。

日本の都市はおもちゃ箱をひっくり返したようだと形容される所以である。

そのような日本の街も幕末から明治期にかけては、外国人もうらやむほど優れた景観をしていた。当時日本を訪れた多くの外国人が、日本の風景の美しさに魅了され、その感動を記している。

現在でも、江戸時代の町屋が残る「重要伝統的建造物群保存地区」における景観は、西欧の伝統的な美しい街並みにも引けを取らない。そこには歴史や文化的情緒があり、訪れる人の心を豊かにし、潤いや安らぎをもたらしてくれる。

日本の伝統的な家屋は木造であり、瓦や茅葺き屋根、漆喰や土壁、木板など地域の気候や風土に合った建材が使われていた。それらがもつ素材色は、穏やかで自然と調和し、地域特有の色として街の表情を豊かにしていた。

白、黒、銀鼠、木肌色などを基調とした伝統的な木造家屋が連なる街並みはまだ戦前にはたくさん残っていた。

戦後復興の中で経済性や利便性が優先された結果、日本の街は急激に変化した。

多種多様な建材により色やデザインが自由に表現できるようになり、地域の伝統や調和を無視した建造物や構造物が次々に建設されていった。

その結果、美しい自然景観や伝統ある良好な街並みが失われてしまった。

(2) 色彩と街並み

近年、環境や街並みへの意識が高まり、地域の特色や伝統を生かした魅力ある景観形成への取り組みが行われるようになった。

2005年には景観法も全面施行され、自治体が良好な景観形成を行うための方針を策定し、建築物等の規制を行うことができるようになった。

しかし、建築物の色やデザインなど細かい規制を行っているところは少ない。

2007年、東京都武蔵野市の閑静な住宅街に奇抜なデザインの住宅が現れ、物議を醸した。著名な漫画家が新居の外壁に自身のトレードマークである赤・白のボーダー模様を施そうとしたのである。

近隣住民は、「横縞模様の住宅の建設は色彩の暴力であり周辺環境を破壊する。良好な景観から恩恵を受ける権利（景観利益）の侵害に当たる」と主張し、塗装を中止す

るよう申し立てたが、東京地裁は、建設地の周辺が都条例の対象地域外であることから、「特別な景観がある場所ではなく、法律上保護に値する景観利益があるとは認められない」と判断し、横縞模様のデザインについても、「景観利益の侵害になるような公序良俗違反には当たらない」とし、申し立てを却下した。

この判決結果は、日本の景観に対する意識がまだ発展途上であることを示すと同時に、色彩が及ぼす影響の大きさが十分に理解されていないことを物語っている。

著名な漫画家だったため注目を浴びたが、外壁の色が周囲の景観を損ねているケースはさほど珍しくない。

まちの印象は色の使い方一つで随分変わる。

個々の建物や看板がまち並みを形成することを考えず個人的な趣味で色を選べば、街並みに秩序はなくなり、まち全体の価値が損なわれる。

建築物などは単体としてではなく、まち全体として考えなければならない。

まち並みと調和した色を用いることで、まちの景観は随分よくなる。

色は住む人の生活に安らぎや潤いをもたらし、私たちの心を豊かにしてくれるが、使い方を誤ると、心を不安にさせたり不快感を与える。

色彩のコントロールは快適な生活環境には欠かせない。

「色彩が変われば、まち並みが変わる」そして、「まち並みが変われば、人も変わる」のである。

(3) 色彩によって街並みを魅力的に

名古屋はまちづくりが始まり今年で400年になる。

開府400年を記念し、歴史を振り返るイベントがあちらこちらで行われている。

先人が築いた名古屋の魅力を掘り起こし、住民が誇りをもち、活気を呼び起こすのがテーマなようだが、色に対する意識を高め、景観についても見直す良い機会といえよう。

建物は何十年もかけて建て替わる。混沌とした街並みが潤うには50年後、100年後を見据えて考えなければならない。

街の色を考えるには歴史認識が必要である。

均一な街並みが全国に広がった今、地域の特色が残されているところではそれらの色を尊重し、失われたところでは新たなまちの個性を育てていくことが大切である。

個性あるまちの景観は魅力的であり、私たちの心を惹きつける。

まちの景観が魅力的になれば、そこに住む人の愛着心・連帯感が芽生え、まちに活力が生まれる。

1-2. 研究の目的

名古屋の都市景観がもつ景観特性や地域性について色彩を通じて把握することで、名古屋の景観をより魅力的なものとするためのヒントを発見し、その魅力が将来にわたって輝き続けるような景観形成方針を提言することである。

今後の景観づくりの方向性を明確にすることで、メインテーマである持続可能なNAGOYAについて都市景観面からアプローチし、次世代に残される名古屋の景観の良好な変革への足がかりとなることを目的とする。

1-3. 研究の方法

本研究では特定の研究対象地を設定し、対象地の景観について色彩を軸に把握することで、当該景観がもつ課題を抽出、課題の調査・分析を実施する。

その後、調査・分析結果をもとに課題となっている事象の原因を明確化し、今後名古屋の景観がより良好なものへ変革するための解決方法の一つを提言としてとりまとめるものとした。

(研究対象地については次章「2-1. 研究対象地の設定」参照)

1-4. 研究の概要

本研究の流れと実施内容については以下の通り。また各項目の実施に際しては本研究メンバーによる打合せ協議により決定し、実施するものとした。

研究の流れ	実施内容		
事前検討	研究対象地の設定		
	研究対象地の把握		
	過去の景観	現在の景観	今後の景観
課題の抽出	事前検討を基にした課題の抽出		
	課題の整理・調査方法の検討		
課題の調査	測色調査	街頭アンケート調査	
調査結果の分析	色彩分布図の作成		アンケートの集計 イメージスケールの作成
	調査分析のまとめ		
提言・まとめ	都市景観における提案		
	研究のまとめ		

第2章 現状把握・課題の抽出

2-1 研究対象地の設定

市内には多くのフィールドが存在するため、本研究では、将来的に名古屋全域へ展開できる方法を検討することを視野に入れ、特定の研究対象地を設定し、そのフィールドについて研究を実施するものとした。

(1) 研究対象地について

名古屋市を代表する景観として、名古屋市都市景観形成地区に指定されている6地区を候補地として研究対象地の検討を行った。

その結果、市内中心部を縦断し、多くの人々が行き来するNo.2「広小路・大津通り地区」を本研究の研究対象地として設定し、住宅・商業等、多くの景観特性をもつ大津通りを軸に研究を行うものとした。

No.	研究対象候補地	特徴・イメージ
1	久屋大通地区	スケールの大きな空間と豊かな緑
2	広小路・大津通地区	名古屋一の繁華街を有する中心市街地
3	名古屋駅地区	名古屋の玄関口
4	四谷・山手通地区	坂・緑・曲線で構成された居住・教育のまち
5	築地地区	名古屋の海の玄関、整然とした港まち
6	今池地区	商業・娯楽・文化などが混ざり合うまち



2-2 大津通りの景観

研究対象地として設定した大津通り沿いの景観について、歴史や文化などの観点も含め、以下の通り整理する。

(1) 大津通りの歩みと風景

①名古屋城下町と大津通りの歩み

名古屋の町づくりは 1610 年、名古屋城の建設と共に始まり、商業都市として発展していくことを目指して碁盤割りによって城下町が整備されていった。

大津通りは、名古屋と熱田を結ぶ本町通りと並ぶ南北の歴史・文化軸の通りとして位置づけられ、特に明治 40 年の改修工事以降と市電の開通をきっかけに、それまで中心的機能を担ってきた本町通りに代わり、明治・大正・昭和戦前から今日に至るまで歴史や文化軸の機能を果たすこととなった。

②大津通りの風景

大正 9 年に大津通りが拡幅されてからは、大正 14 年(1925)松坂屋の進出、昭和 5 年(1930)にオリエンタル中村と相次いで近代デパートの新設で名古屋の中心通りとなる。また、大正初期ごろから金融の町としても発達し、東海銀行(東京三菱 UFJ 銀行)や三井銀行、住友銀行などが相次いでヨーロッパのルネッサンス様式を取り入れた大型建築物を立て、金融資本のモダンな建物が並んだ。上前津から大津橋、市役所へ向かうまでの通りは商店施設が多く名古屋の商業の中心として賑わった。

昭和初期の大津通りは柳の街路樹も美しい、名古屋の名所の一つであった。



「大津町通り」
：大正 14 (1925) 年 5 月 1 日
←当時の松坂屋屋上より名古屋
市外を北方に望む写真
出典：
『名古屋絵はがき物語』2009
井上善博 風媒社

「昭和初期の大津通り」→
：松坂屋の横に柳が美しい並木
をつくりだしている
出典：
『名古屋広小路ものがたりー第 4 講大正
時代の広小路』」
沢井鈴一(HP 「Network2010」 より)



(2) 大津通りの現在

①都市景観形成の経緯と現状

広小路・大津通は昭和 62 年に策定された都市景観基本計画の 19 の重点地区の一つとなり、平成 3 年に都市景観整備地区に指定されている。「海風や緑地による冷気がにじみだす「風の道」を利用したまちづくりとして、広小路・大津通地区では、せせらぎの緑道や壁面の緑化、歩道の舗装や室内素材の連続性を作り出す」取り組みが推進された。しかし、十数年が経過し、様々な演出による広告物の氾濫等々、運用面で実態に合わない状況が生み出されて来ている。東別院の近辺や久屋大通公園を中心に緑の多い所以外は別として特に金山近辺は雑多な広告物が氾濫し美しい都市景観が損なわれてきている。

平成 16 年景観法の制定と共に名古屋市では都市景観形成基準の見直しを行い、「広小路・大津通都市景観整備地区」を「広小路・大津通都市景観形成地区」と位置づけ、平成 19 年より良好な景観形成の指導が行われている。

②現在の大津通りの風景を見る

現在の大津通りの景観について、調査員全員で現地の踏査を実施した。実施区間は以下の区間(金山駅～久屋大通り)の大津通り沿いや、通りに交わる市道沿いを対象とし、各自写真撮影とメモにより印象を記録した。



← 「現地踏査位置図」

- ・踏査日：2009年6月9日
- ・踏査区間：大津通り

出典:Google map HP

■現在の大津通り沿いの景観

	
金山駅前より北方向を望む	金山橋交差点～金山交差点(北方向)
	
市民会館前	市民会館～東別院(北方向)
	
東別院交差点より北方向を望む	下茶屋公園前より北方向を望む
	
上前津交差点より北方向を望む	万松寺交差点より北方向を望む



赤門交差点より北東方向を望む



矢場町交差点南より北東方向を望む



矢場町交差点北より北方向を望む



松坂屋南西角交差点より北東方向を望む



栄交差点より南東方向を望む



錦通南より北方向を望む



錦通北より北方向を望む



桜通南より北方向を望む

■現地踏査のまとめ

現在の大津通りを実際に体感し、景観について感じたことを調査員全員によるワークショップを実施、大津通りの印象をとりまとめた。以下に要点を示す。

大津通りの景観についての印象まとめ（2009.6.7）

ハ ー ド	大	一部分(全体の)	悪いと思う建物について。なぜ？どこが悪いのか？どこを変えれば良くなるか？(鈴)	
		全体(一部分)	良いと思う建物について。なぜ？どんな感じで？どんな所が良いのか？(鈴)	
		桜通大津交差点(久屋大通駅)	茶系の建物(東京海上・住宅供給公社ビル)。落ち着き。屋上の赤青の広告が目立つ(熊)	
		金山～上前津	広い道。すっきりしたケーブル系の小奇麗なビル。静か・清潔感。	
		下町(裏通り)の気配を感じられる(熊)		
	中	上前津交差点	三井住友銀行:古くて落ち着きのある建物(熊)	
		東別院～上前津	建物の高さが(低く)揃っていてレトロな印象を残す場所あり(西)	
		大須	コムロード(パソコンショップ)の看板。黄と青のギラギラ配色が違和感(熊)	
	小	歩道全体	十分な広さがある割に、歩きやすさを感じない(加)	
		全体	大津通りとしてのつながりを感じない(加)	
		全体	歩道の幅が狭いわりに自転車が多く、危険を感じる(西)	
		東別院辺り?	歩道橋の色が暗い。汚れている(千)	
		大須	赤い色のサインが目立つ、ケバケバしい。若者が大勢歩く(千)	
	ソ フ ト	金山駅周辺	昔からの建物・サインが残っているため、コチャコチャ感がある(千)	
		全体	禁止の看板が目につく(特に金山駅側)(西)	
		部分	駐輪の柵が逆効果(鈴)	
		金山交差点	パンチ屋の看板:強烈な赤で、周囲とそぐわない(熊)	
		大須全体	赤の派手な看板が突出して多い。街灯も赤(熊)	
△				
ソ フ ト	やすらぎ	東別院から金山	大津通りは一本中へ入ると意外と公園が多い(加)	
		金山～栄	通りの樹木:日蔭を作るには少ない(千)	
		メーテレ付近	静かな公園。緑・水もあり、やすらぐ(千)	
		下茶屋公園	緑が多くて安らぐ(熊)	
	やすらぎ ⇔ 空気感	全体の高さ(立木と植木)	植木の高さと市の問題。低くて車道と舗道の両方を含めての広がりを…考える(鈴)	
		全体	極めて都市的で、名古屋を代表するとまでは言えない(木)	
		全体	裏に一本入ると面白そう(木)	
		上前津～金山	街としての色を感じない(加)	
		上前津～金山北	商業施設が少なく活気を感じない(加)	
		全体	平日か休日かによって、街の印象が変わる(全員)	
	空気感	金山→矢場町(北上)	通りの西側は賑やかで、東側は静か(千)	
		全体	本通りの一本裏(奥)に面白い神社、建物あり。楽しくてなごむ(市民の生活の場？)(千)	
		場所不明	通りを一本入ると朝市(ちょっと違いますが)を行っていて印象深かった(西)	
➡				
<p>◎現地踏査のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハードについては強いサインに対する意見と歩道上の構造物に対する意見が多かった ・ソフトについてはところどころに「やすらぎ」、「ひと」を感じさせる空間があることへの意見が多かった ・全体に対する意見として「名古屋のいろ」を感じ取れないといった内容の発言が多くあった。 				

大津通り全体の景観について、個々のエリア毎にソフト面・ハード面かなり印象に違いが見受けられた。また全体的な印象として「街の色を感じない」など、今後の名古屋を探る以前に、「今の名古屋の“街の色”」を感じられることができないといった意見傾向も見受けられた。

(3) 大津通りの今後

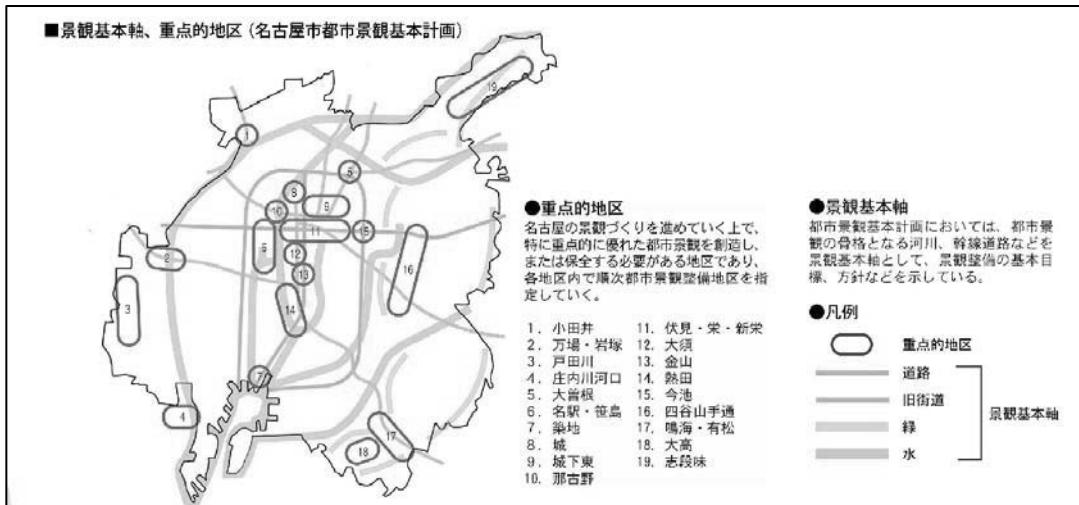
今後の大津通りの景観が歩む方向性を把握するため、市内の都市景観及び地域別の景観について名古屋市にて取り組まれている施策について整理する。

①名古屋市都市計画マスターplan

「名古屋市基本構想（昭和 52 年策定）」をもとに、その第 3 次長期総合計画として策定された「名古屋新世紀計画 2010」（平成 12 年 9 月）とあわせて策定され、都市計画に関わる部分を広くとりまとめたものとして将来の都市像、土地利用の方針、都市整備に関連する計画、地域別の将来構想などが示されている。

その中で大津通りは「都市景観の整備方針」の中で重点的に都市景観を創造し、または保全する必要がある地区として指定されている 19箇所のうち、「伏見・栄・新栄」、「大須」、「金山」の計 3 箇所が該当している。

また「中区の将来構想」では、『都心のにぎわいを楽しむまち』『安心して居住できる都心のまち』『歴史と文化が薫るまち』『快適な水辺空間でいこうまち』として目指す姿が示され、大津通りにおいては金山地区が“人々が行き交う交流の場”として位置づけられている。



「名古屋市都市景観基本計画」出典：『名古屋市都市計画マスターplan』

②名古屋市都市景観基本計画

「名古屋市都市景観基本計画」（昭和 62 年 3 月）は「都市景観条例」（昭和 59 年 3 月）に基づいて策定されており、〈重点的に優れた都市景観を創造し、又は保全する必要があると認める地区〉として都市景観形成基準を定めた都市景観整備地区を指定している。大津通りは「広小路・大津通り地区」として平成 3 年 2 月に指定されている。

③名古屋市景観計画

平成 16 年には景観法が制定されたこともあり、平成 19 年 3 月に策定された「名古屋市景観計画」では、「広小路・大津通地区」は都市景観形成基準の見直しが図られ、「都市景観形成地区」と位置づけられ、大津通りは錦通大津交差点から若宮大通まで区間について、沿道奥行き 30 メートルの範囲が指定されている。



「広小路・大津通都市景観形成地区区域図」出典：『名古屋市基本計画』

④都市景観形成地区

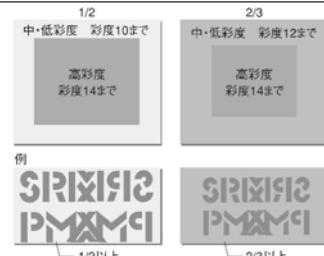
「広小路・大津通り地区」の基本方針として名古屋の都心にふさわしい調和のとれた街並みとし、にぎわいと親しみと文化の香り高い人間優先の魅力ある都市空間とすることが示されている。

都市景観形成基準では、各地区の建築物・工作物・広告物に対しての基準が示されており、色彩については広告物に対してのみ以下のような基準が設けられている。

大津通地区 都市景観形成基準（広告物）※色彩のみ抜粋

■高彩度色は、使用する面積を抑え、アクセントとして効果的に用いるなど注意して使用する。
蛍光色は、使用しない。

■表示面の上端の高さを地上 10m 以上とする場合は、以下のとおりとする。
・彩度 14 を超える色は使用しない
・表示面積の 1/2 以上は彩度 10 以下又は表示面積の 2/3 以上は彩度 12 以下とする。
ただし、街並みとの調和に 1 分な配慮を行うもので、市長が特に認めたものについては、この限りでない。



■補色関係など刺激の強い配色をする場合は、彩度を下げるなど注意して使用する

■文字や図柄は、バランス良く配置する。また、雑然とした印象を与えないよう、使用する色数や文字の量に注意する。

2-3 課題の抽出

(1) 大津通りの景観

大津通りは古くから、経済・商業の中心軸として機能し、名古屋の文化の中心としても発展してきた。現在もなお、栄周辺や金山などでは多くの人でぎわい、商業が盛んな大津通りの姿を残している。

しかし、景観は時代の変遷と共に大きく変化する。柳並木が続き、低層建物が主体であった街並みも、建物の高層化や機能的で多種多用な建材の使用により、面影も見えない。所々、歴史的建造物などによって昔の姿を思い起こされる風景も存在するが、街並みとしての大津通りの姿は常に変化し続けている。

そういうたった変化によって方向性が見えない無秩序な景観とならないよう、景観形成の基準を設け、変化していく景観を良好に保っていくルールが作られている。

(2) まちのいろ

現在の大津通りを色彩の視点から景観を捉えた結果、大津通りの持つ「まちのイメージ」を感じることができない部分が存在することに着目した。

私たちはそれを街のイメージである景観特色や文化を読み解くためのキーワード「まちのいろ」として捉え、その街のイメージと景観によって視認される「いろ」がその街がもつ文化やイメージを表現している「いろ」として機能することで、今後も変化し続ける景観において、普遍的にその街の記憶を継承し持続できる可能性があるのではないかと考えた。

(3) 本研究の課題

大津通りの「まちのいろ」を探ることで市民の持つ街のイメージや、そのイメージが景観においてどのように視認されているのか、などを把握し、名古屋の「まちのいろ」についてのヒントを探ることを本研究の課題とした。

第3章 調査・分析

3-1 調査の目的とその手法

「まちのいろ」を探るため、私たちは以下の2つの調査を実施するものとした。

尚、調査実施において、視認性が大きく影響される調査と考えられることから、景観による相違を把握するため、景観が異なるエリアを分類し、大津通り全体と各エリアについて調査を実施するものとした。

(1) 目で見える「まちのいろ」

大津通り沿いの景観について測色調査を実施することで現在の街並みの色彩特性を把握するものとした。尚、測色については設定エリア毎に行い、各エリア同士の比較や全体における各エリアの特性を把握できるよう配慮した。

→3-2 測色調査

(2) 市民がイメージする「まちのいろ」

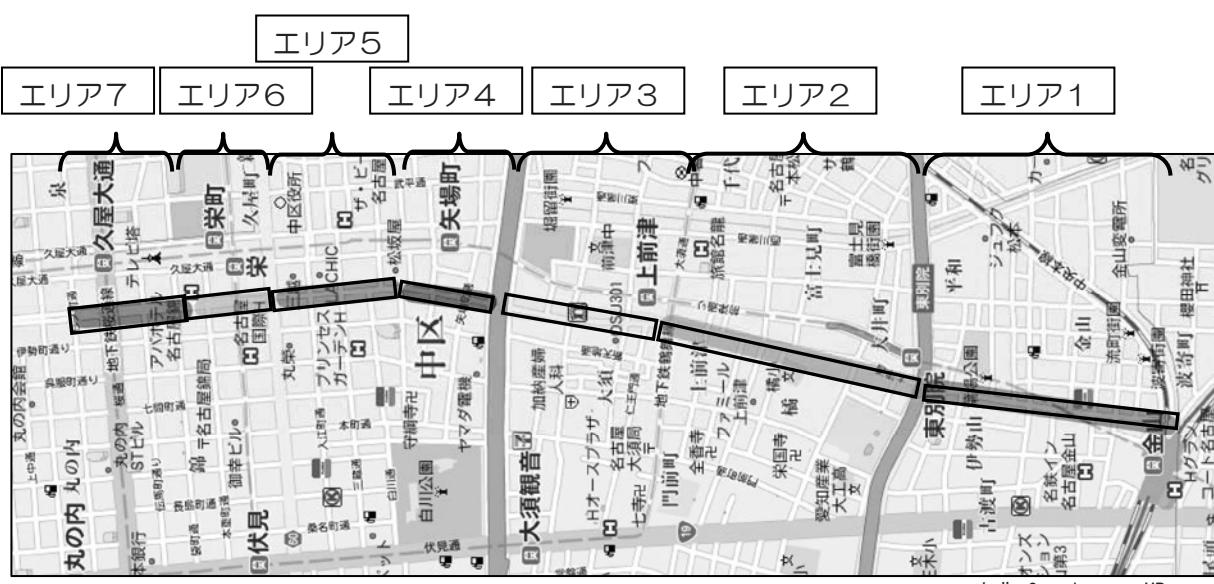
市民が市内景観に対して感じている名古屋の「まちのいろ」についてアンケートを実施するものとした。アンケートも測色調査同様、各エリアにて実施し、名古屋全体と各エリアの両方を対象にヒアリングを行った。

また本調査は感覚的要素が高いため、集計数を軸にした現状分析とイメージスケールを用いたものの2つの手法により分析を行うものとした。

→3-3 アンケート調査

(3) エリア分類

調査対象区間を大津通りの金山～久屋大通に設定し、設定区間において景観印象の異なるエリアを以下の通り分類した。



出典:Google map HP

3-2 測色調査

(1) 測色調査の概要

大津通りの景観がどのような「色」で構成されているか把握するため、カラーコーディネーションにおける色彩計画の調査方法として実施される「視感測色」を実施し、分布図により分析を行った。

■測色対象物

測色対象物は注視されやすいものではなく、調査員が各エリアイメージに近い景観を切り取り、その景観に含まれる対象物を測定するものとした。尚、実施に際しては色票を直接対象物にあてて測ることを原則としたが、対象物が上空にある場合など、直接図ることが不可能な対象物については、写真を基に「Irodio Photo & Video Studio」(リコー)と「TOCOLRPhoTocolor Tool Web 版」(トーコル)というソフトを使用し測色するものとした。

■実施概要

実施日および実施場所（大津通り沿い）

- ・2009年8月13日（調査員5名）
 - エリア1…JR金山駅北側
 - エリア2…東別院交差点北から上前津交差点南側、
- ・2009年8月30日（調査員4名）
 - エリア3…上前津交差点北側から矢場町交差点南側
 - エリア7…桜通大津交差点南北
- ・2009年9月23日（調査員4名）
 - エリア6…サンシャイン周辺
 - エリア5…ラシック周辺
 - エリア4…矢場町交差点北側・パルコ周辺

■調査方法（視感測色）

- ①色を測りたい対象物（建物、建物以外、看板）に、調査用の色票（写真1・2）を接近させる



写真1 塗料用標準色（ポケット版）
クロマリズム/サウザンドカラー
コレクション

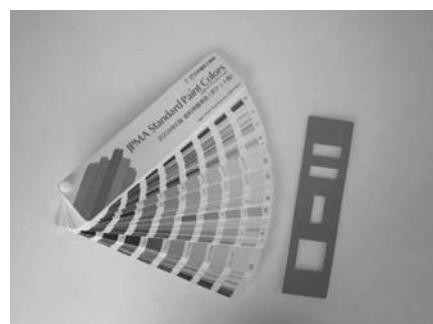
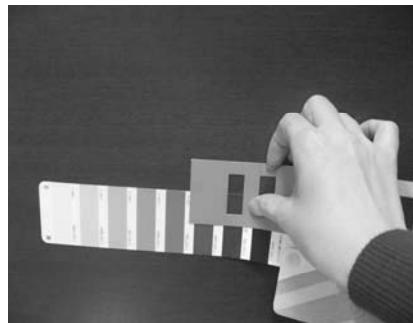


写真2 色票とマスク

②その際、大きさによる影響を避けるためグレーのマスク(写真2・3)を使用し(*)、最も近似していると思う色を色票の中から選択する。



(*) 同じ色でも面積により色の見え方は異なるため、マスクを使って大きさを揃える。

写真3 視感測色

③選択した色票の色番号を対象物の色とする。

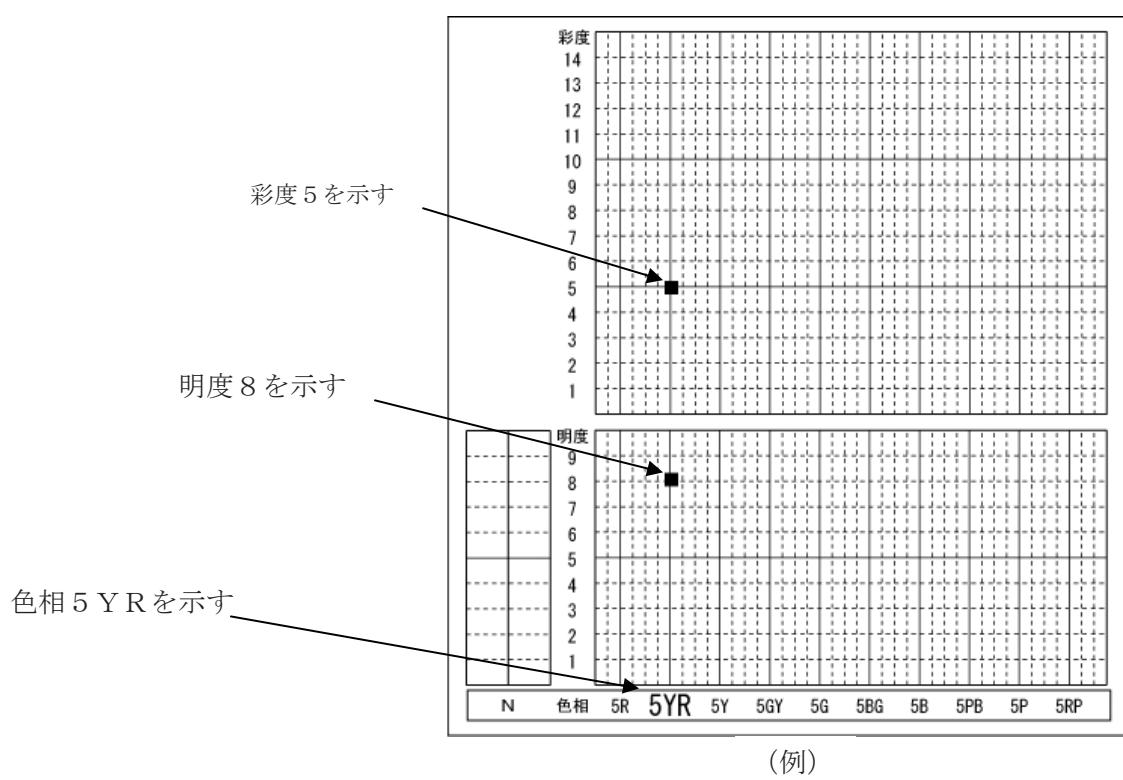
この色番号は、JIS（日本工業規格）に基づいたマンセル値（三属性）に対応しており、対象物の色相・明度・彩度を測ることができる。

④この方法【視感測色】(写真3)で実際に現地調査しデータ収集を行った。

■分布図の表示方法

①図は横軸を色相、縦軸に彩度・明度とする。

②図は二段になっており、有彩色は色相と彩度（上段）・色相と明度（下段）のふたつ分布図からひとつの対象物を表す。無彩色は彩度がないため、“N”の図に明度のみ表す。
(例は5YR 8/5の場合)



■ 色の表示方法

この研究報告書に記載されている色の表示方法は、JIS（日本工業規格）に基づきマンセルシステムというカラーシステムを使用している。

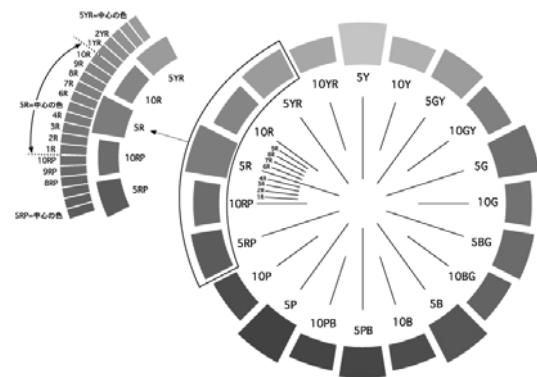
物体の色は、『色相・明度・彩度』という色の三属性によって系統的に表すことができる。

【三属性による分類】

①色相 (Hue : ヒュー、略号 : H)

色合い、色みを指す。

色相は、アルファベットの前に数値を付けて表し、アルファベットは各色相の頭文字R（赤）、YR（黄赤）、Y（黄）、GY（黄緑）、G（緑）、BG（青緑）、B（青）、PB（青紫）、P（紫）、RP（赤紫）となる。アルファベットの前に付く数値は色みの偏りにより10等分され、1から10の数字によって表示される。各色相を代表するのは5のついた色である。

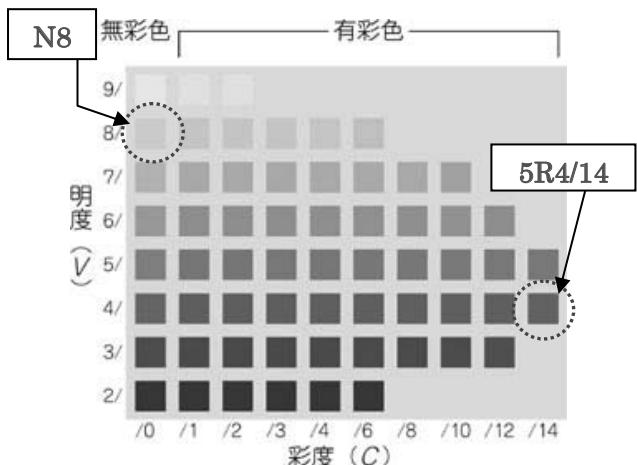


マンセル色相の構成

②明度 (Value : バリュー、略号: V)

色の明るさの程度を指す。

1~9.5の範囲で示され、数値が大きいほど明るく、数値が小さい程暗くなる。



同じ色相における明度と彩度の構成 (例: 5R の場合)

■ マンセル値の表記方法

〈無彩色〉

N V
Neutral Value
明度

表記例) N8

<有彩色>

Hue 色相

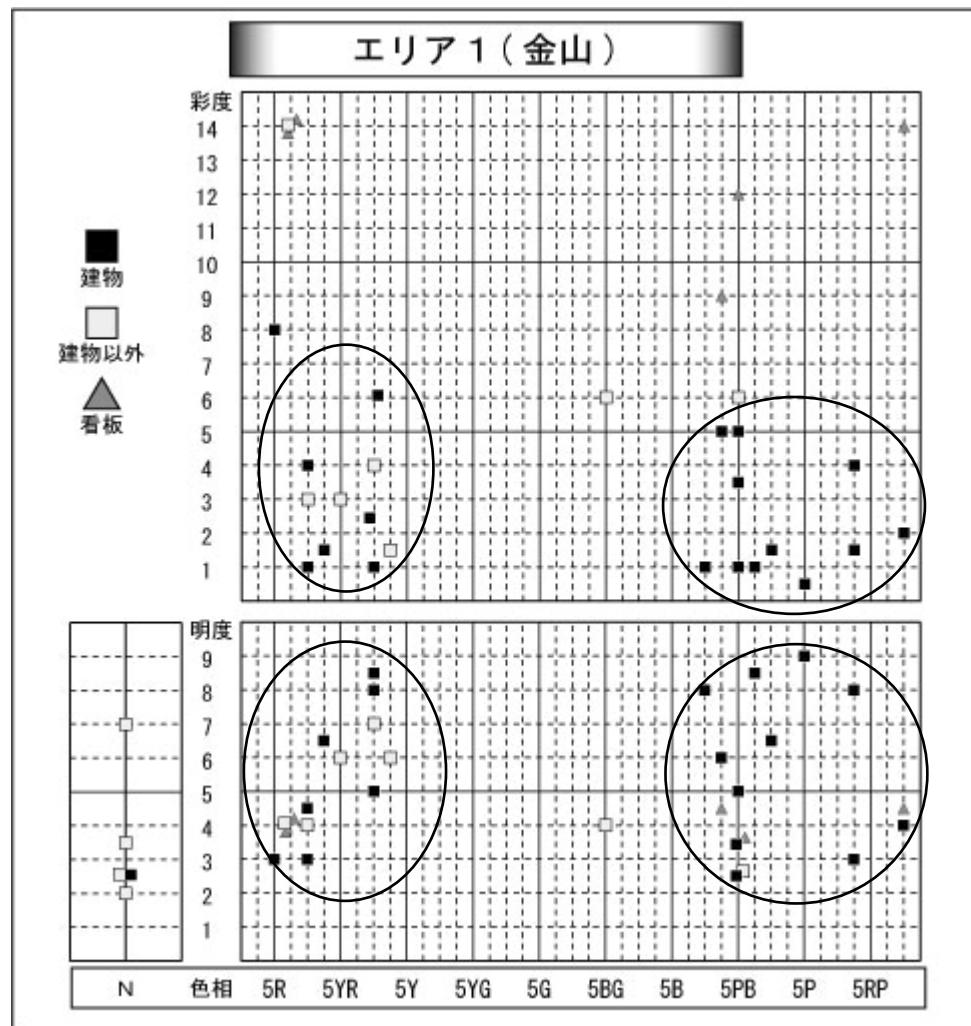
Value 明度

Chroma 彩度

表記例) 5R4/14

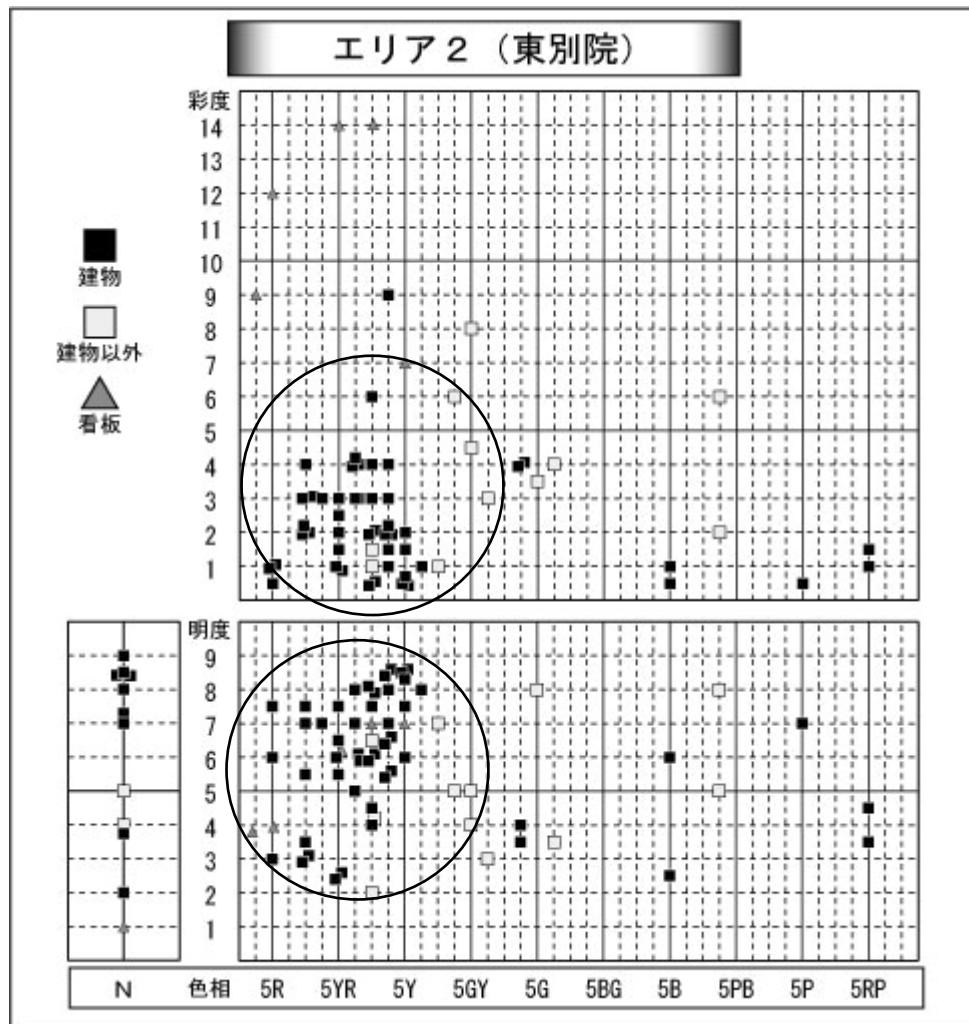
(2) 調査結果

■エリア1の特徴 →建物の色相が2分されており全体にまとまりがない



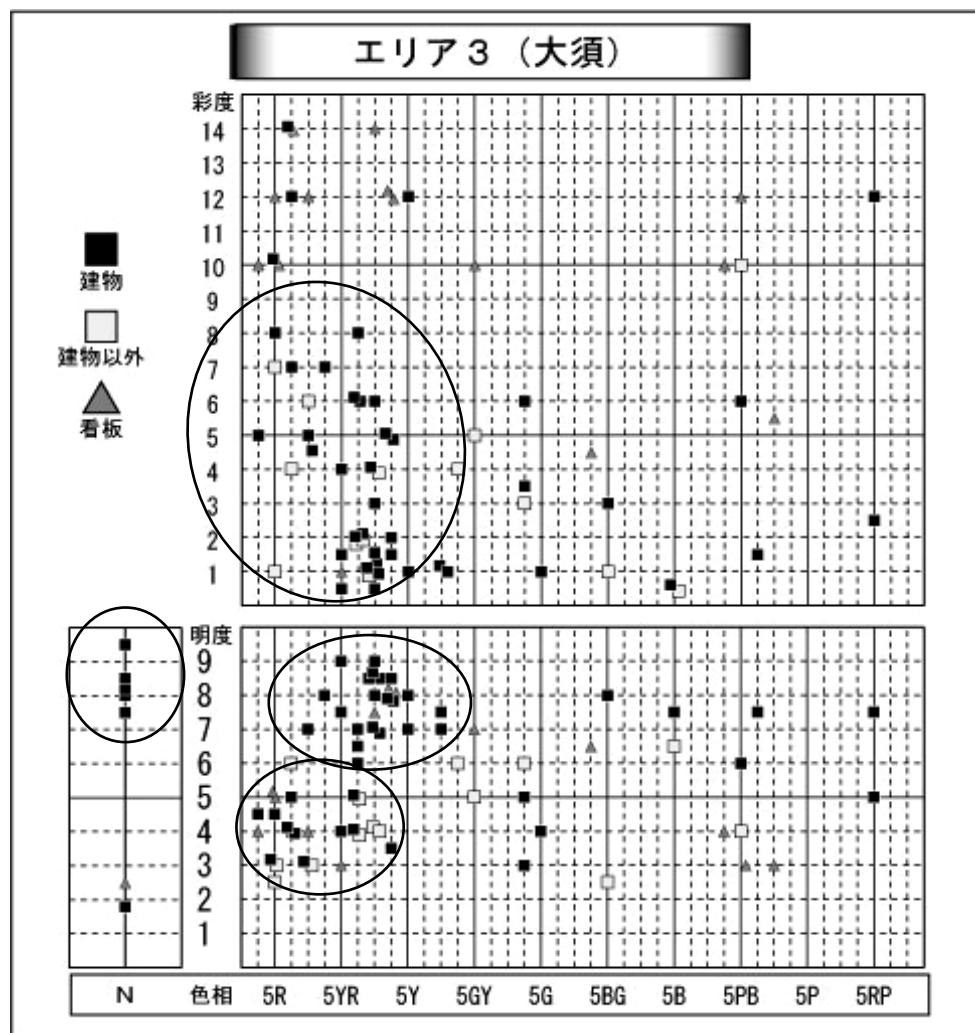
	分布図からの分析結果	エリアの印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 暖色系（5R～10YR）と寒色系（10B～10RP）に2分されている。 ■明度 低～高明度に広く分布している。 ■彩度 低～高彩度に広く分布している。 	<p>色彩のみならず、建物の高さ・形状がバラバラで、互いに主張し合い全体的なまとまりがない。</p> <p>歩道幅も狭く歩きづらい。また駐輪・ゴミが多く整理整頓がされていない印象を受ける。</p>
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 7. 5R～2. 5Y・BG・PB、Nの領域に分布している。 ■明度 2～7のほぼ中明度である。 ■彩度 低～中彩度。一部高彩度のものもある。 	<p>威圧的な巨大看板、さまざまな屋上看板、店前看板・のぼりも多く、全体的に煩雑な印象である。</p>
看 板	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 R・PB・RPの領域に分布している。 ■明度 ほぼ中明度である。 ■彩度 ほぼ高彩度である。 	<p>植栽も極めて少ない。</p>

■エリア2の特徴 →全体的に落ち着いた色調でまとまりがある



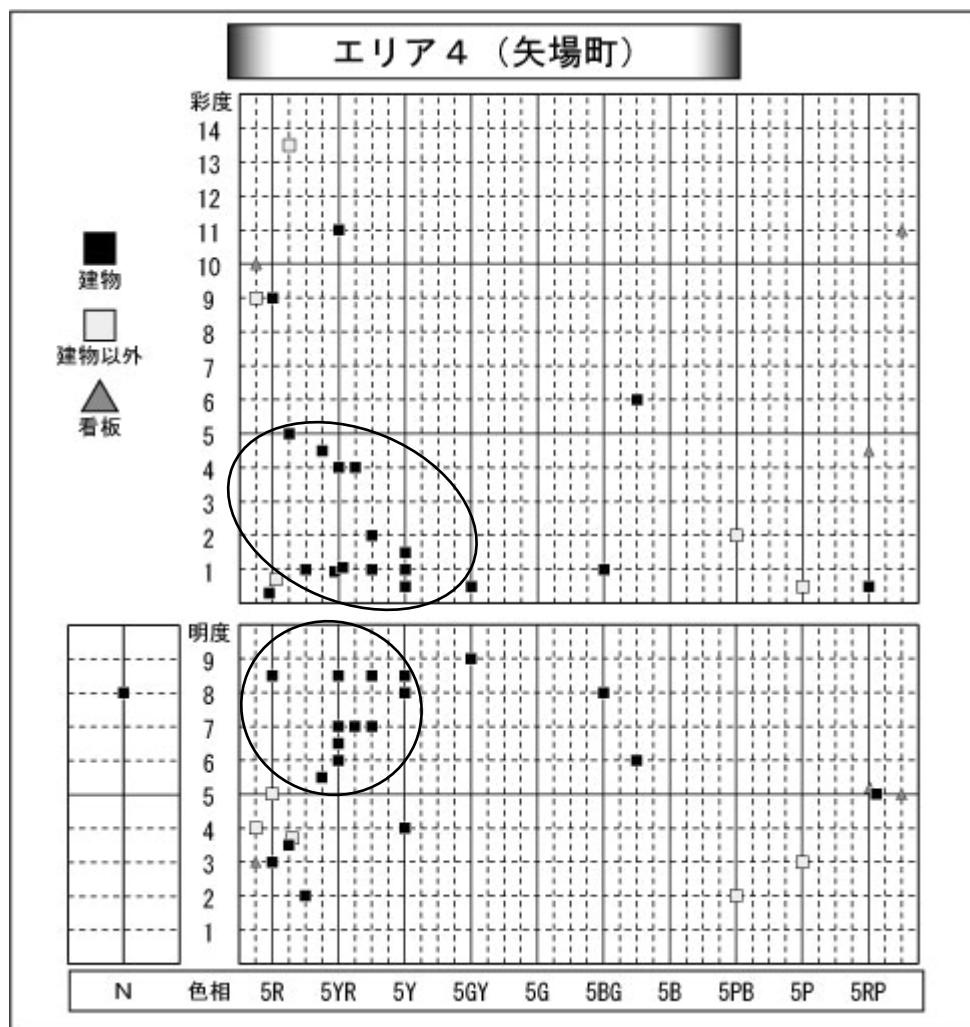
分布図からの分析結果		エリアの印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 白～グレー、ベージュ系でまとまっている。（5R～7.5Y、N） ■明度 中～高明度が中心で、低明度は少数である。 ■彩度 比較的低彩度である。 	交差点北、通り東側に明らかに周囲と違う低層の一角があり、落ち着いた色調でまとめられていて、味わい深い。
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 10YR～2.5PB、Nの領域に分布している。 ■明度 低～高明度にほぼ均等に分布している。 ■彩度 低～中彩度に分布している。 	街路樹・植栽が多く、公園もあり、穏やかな印象である。 コインパーキングとブックオフの看板に違和感があり、周囲の景観と合っていない。
看 板	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 2.5R～5Yの領域に分布している。 ■明度 4～7の中～高明度である。 ■彩度 ほぼ高彩度である。 	全体的に落ち着いているが、どことなく寂しさも感じる。

■エリア3の特徴 →建物はまとまっているが看板の彩度が高い傾向にある



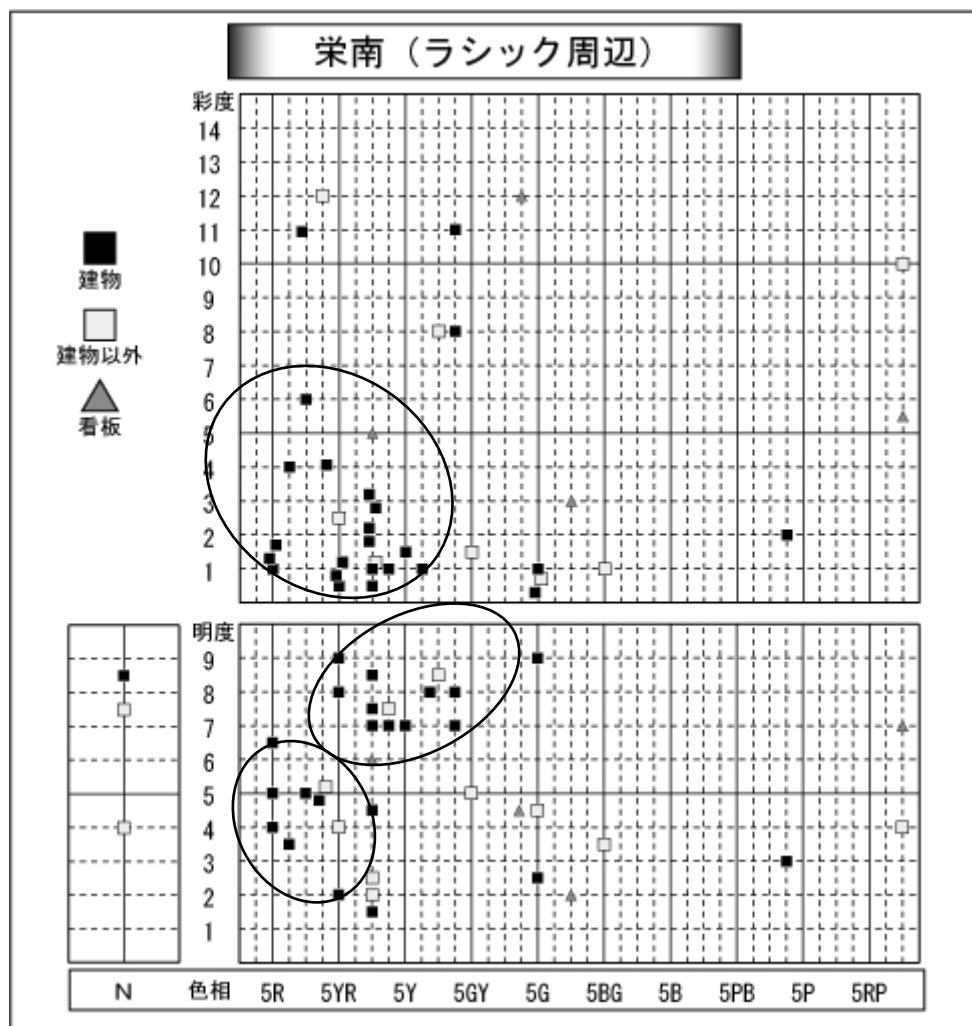
分布図からの分析結果			エリアの印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 R～Y, Nの領域を中心に、各色相に分布している。 ■ 明度 中～高明度、とくに高明度が多い。 ■ 彩度 低彩度でまとまっているが、高彩度も目立つ。 		高彩度の看板多いが、外壁の色調が白系にまとまっており、また特異な街でもあるため、違和感はない。ほぼ店舗で、それぞれがこだわりを持ち主張し合っていて、活気を感じる。一本奥に入れば、古い町並みも残り、無国籍な印象も受ける。
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 5 R～5 P Bの領域に分布している。 ■ 明度 低～中明度に分布している。 ■ 彩度 低～高彩度に広く分布している。 		
看 板	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 R～R Pの領域に広く分布している。 ■ 明度 2. 5～8の低～高明度に分布している。 ■ 彩度 一部彩度の低いものもあるが、ほぼ高彩度である。 		意外に街路樹も多いが、とにかく賑やかな印象のエリアである。

■エリア4の特徴 →色相にはまとまりがあるが、明度・彩度にはばらつきがある



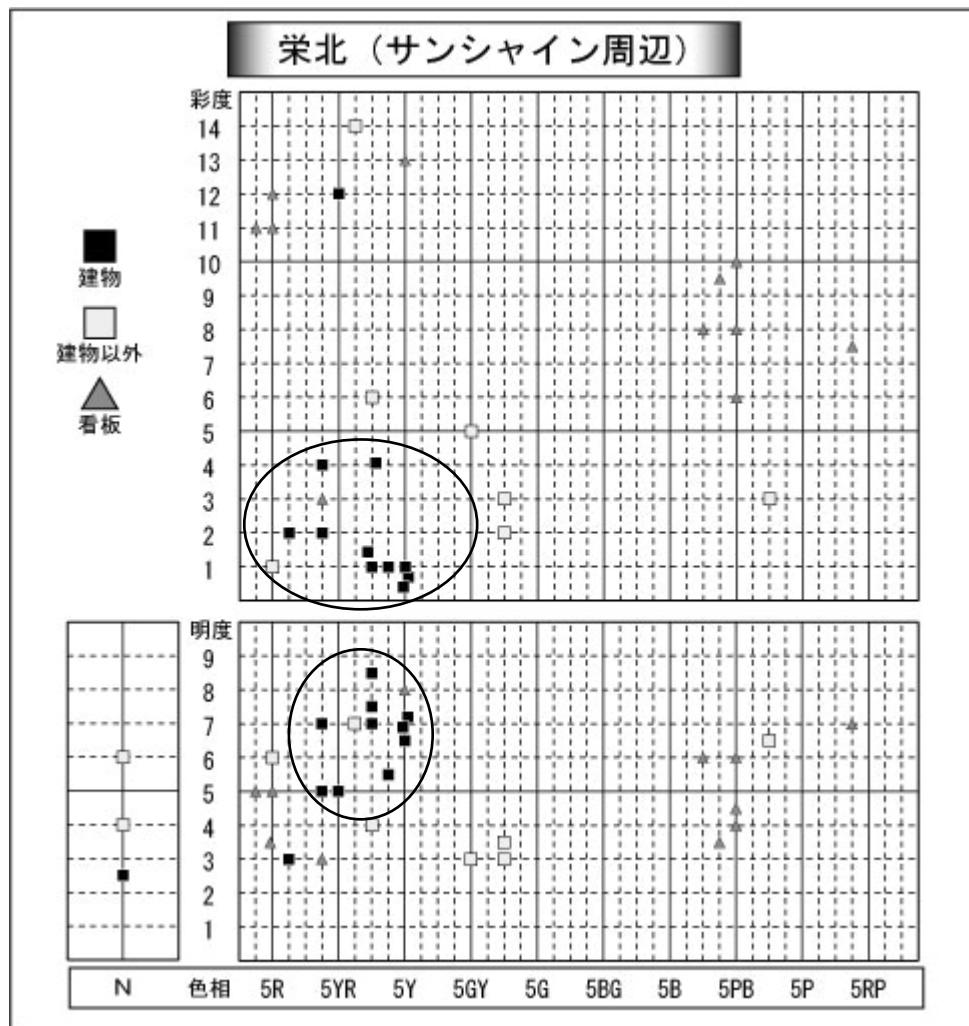
分布図からの分析結果			エリアの印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 ほぼ 5 R ~ 5 G Y の領域に集中している。 ■ 明度 低~高明度に広く分布。比較的高明度のものが多い。 ■ 彩度 低~中彩度が中心。一部高彩度のものもある。 	交差点北は、東側大規模、西側小規模店舗と対照的な街並みである。西側の金融機関・寺院・店舗の並びに色調の繋がりがなく、不自然な印象を受け、また景観に配慮されていない看板もあるため、嫌悪感が残る。パルコ・松坂屋側	
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 R・P B・Pに分布している。 ■ 明度 2~5 の低~中明度である。 ■ 彩度 低彩度であるが、高彩度のものもある。 	は高明度の爽やかな色調、また西側も赤系をアクセントとした風雅なイメージでまとめられているため、残念である。	
看 板	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 5 R P ~ 2. 5 R に分布している。 ■ 明度 3~5 の低~中明度である。 ■ 彩度 ほぼ高彩度である。 		

■エリア5の特徴 →暖色系低彩度でまとまっている



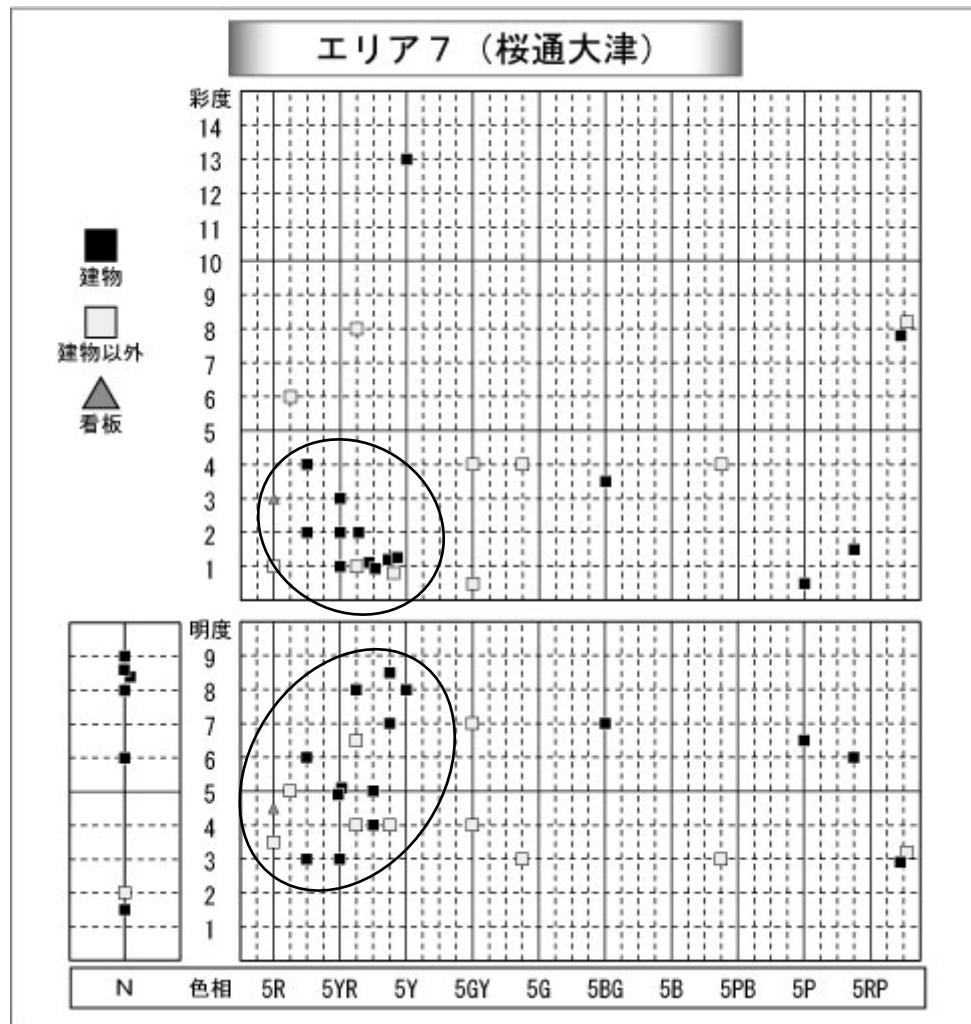
分布図からの分析結果		エリアの印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 R～Y以外に G Y・G・P に分布している。 ■ 明度 低明度もあるが、中～高明度中心である。 ■ 彩度 ほぼ低彩度でまとまっている。 	高明度・低彩度の外壁で、洗練されていて、植栽とのバランスもよく、景観に配慮されている印象を受ける。デパートのラグジュアリーブランドのディスプレイが広面積で、ちょうどよい“アクセントカラー”にもなっている。
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 R P～B G、N の領域に分布している。 ■ 明度 2～8、5 の低～高明度に広く分布している。 ■ 彩度 比較的低彩度であるが、一部高彩度のものもある。 	歩道も広く、整備されていて、心地よい。
看 板	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 Y R・G・R P に分布している。 ■ 明度 2～7 の低～高明度である。 ■ 彩度 比較的低い彩度抑えられているが、高彩度のものもある。 	

■エリア6の特徴 →彩度が低く、落ち着いた雰囲気である



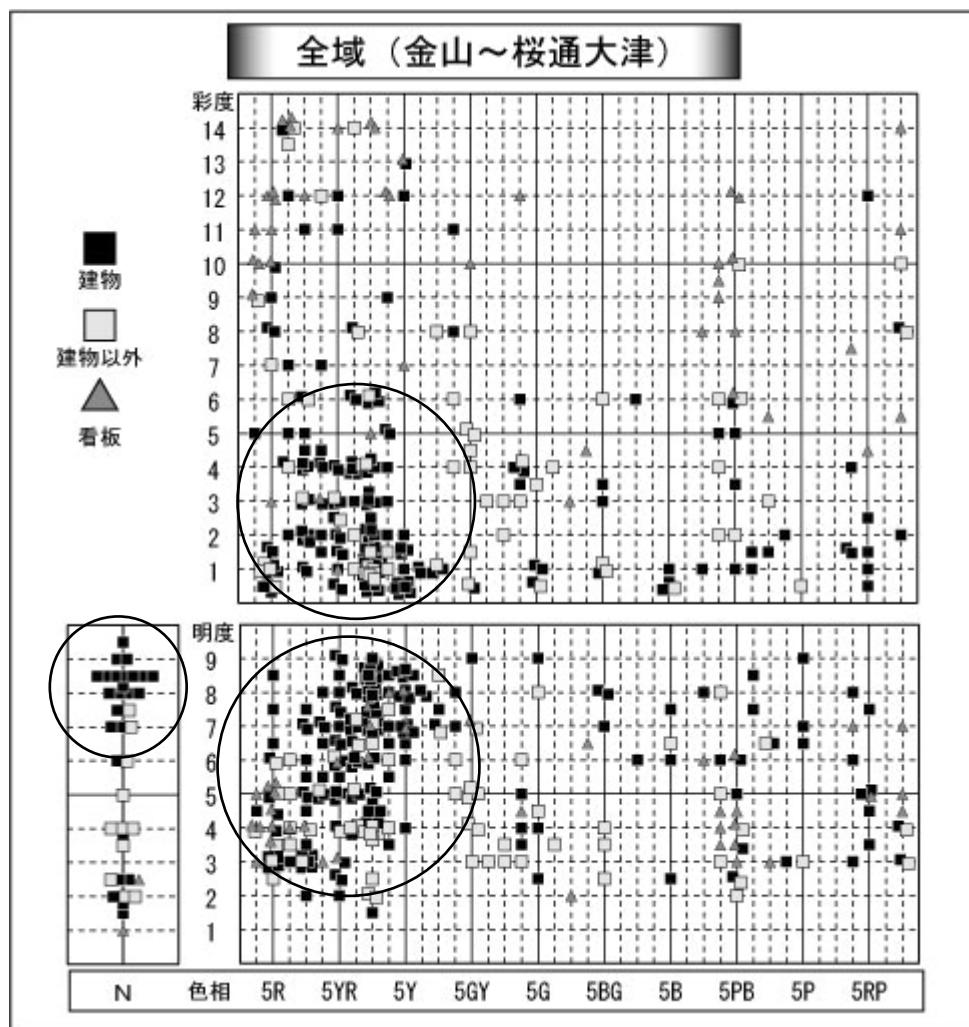
分布図からの分析結果		エリアの印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 7. 5 R ~ 5 Yの領域、Nに分布している。暖色系のグレーが多い。 ■明度 低明度もあるが、中～高明度中心である。 ■彩度 ほぼ低彩度でまとまっている。 	建物は、全体的に色調がまとまっており都会的である。その分、自動販売機、パーキングなどの派手な色彩のものが気にかかる。洗練されたブランドショップにはさまれた居酒屋が、外壁・看板も含め異質な印象を受け、周囲と馴染んでいない。
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 色相にばらつきがある。 ■明度 ほぼ中明度である。 ■彩度 低彩度～中彩度。一部高彩度のものもある。 	
看 板	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 R ~ Y・B ~ R Pに分布。青系のものが多い。 ■明度 ほぼ中明度である。 ■彩度 彩度の高いものがほとんどである。 	

■エリア7の特徴 →エリア6と同様、低彩度でまとまっている



分布図からの分析結果		エリアの印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 10R～5Y、N中心に分布している。暖色のグレー系が多い。 ■明度 高明度が多いが、低～中明度もある。 ■彩度 Yの高彩度が突出している。RPも高彩度があるが、全体的には低彩度でまとまっている。 	外壁は彩度が低く抑えられていて、ビジネス街らしい落ちていたイメージである。また“セパレーションカラー”に近い配色や、オブジェのようなアーチで高彩度色を使用した“アクセントカラー”的な配色もあり、洗練された都会的な印象も受ける。
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■色相 ばらつきがあり、BG・P以外の領域に広がっている。 ■明度 2～7で、ほぼ中明度である。 ■彩度 低～中彩度である。 	コンビニエンスストアの高彩度色が、形状ともに気にかかる。

■エリア全域の特徴→各エリアの特徴によりばらつきはあるが、建物は纏まりがある



分布図からの分析結果		エリア全域の印象
建 物	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 R～Y、Nが中心。5R～5Yに集中し、ほとんどが暖色系である。 ■ 明度 中～高明度が中心である。 ■ 彩度 低彩度が多いが、彩度の高いものも少なくない。 	<p>通り全体を通してのまとまりや、繋がりがあまり感じられない。</p> <p>建物の外壁には統一感やまとまりを感じるが、看板が景観を損ねさせているケースが多い。海外ショッピングの洗練された見やすい看板に比べ、地元店のごちゃごちゃして見づらい看板が非常に残念である。</p>
建物以外	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 広範囲に分布している。建物や看板には少ないG Y～Gも多い。 ■ 明度 低～高明度まで広く分布している。 ■ 彩度 低～中彩度が中心である。 	<p>街路樹の緑や、植栽の色がもう少しあってもよい印象を受ける。</p>
看 板	<ul style="list-style-type: none"> ■ 色相 赤系、青系が中心である。 ■ 明度 中明度が中心である。 ■ 彩度 高いものが多い。 	

(3) 調査結果の分析

調査対象総数 325 件（無彩色 38、有彩色 287）、うち建物 238 件（無彩色 25、有彩色 178）、看板 45 件（無彩色 2、有彩色 43）、その他（工造物・植栽・歩道）77 件（無彩色 11、有彩色 66）。有彩色の割合は 88%（建物 88%・看板 96%・その他 86%）となる。

直接対象物に測色用のカードをあて、実物のものの色を測ることを主としたため大半が 1 階部分である。よって目に見えている景観の色とは差異があり、対象物はそれのごく一部にしか過ぎない。しかし様々な角度とくに色相・明度・彩度の三属性から結果をみると各エリア様々な特徴が表れる。

①建物

（色相）顕著な違いが見てとれるのは金山エリアである。他のエリア全てが建物の中心が YR であるのに対し、このエリアは PB の割合が多く 3 割を超える。分布図からもわかるように色相にもばらつきがみられる。全エリアのじつに 75% が 5R～5Y の暖色系に集中していることを考えると突出した結果といえる。

75% の内訳をもう少し細かくみてみると、各エリア色味に若干の偏りはあるものの 10 YR がピークにあたり 16.9%、ついで 5YR 11.2%、2.5Y 9.0% と続く。

（明度）色相ほど顕著な違いはみてとれないが、金山エリアは他エリアに比べて最も低い。全エリアの半数がバリュー 7 以上であるのに対しこのエリアはその数が 3 割ほどしかなく、平均値もバリュー 5.53 でありエリア全体に低め（暗め）であることがわかった。

逆に最も高いのは平均値で上前津（大須）と矢場町エリアでバリュー 6.48。このエリア明度だけを比較すると、上前津（大須）エリアはバリュー 7 以上が 60% で、7～8.7 で全体の 54% を占める。一方矢場町エリアはバリュー 7 以上が 55% で前者を下回るが、8 以上のものが 40% を占めていて、前者の 33% をしのぐ。また、パルコ・松坂屋の外壁がいずれも高く、パルコ北館 9・南館 8、松坂屋 8.5・南館 7 でこの四つの建物が占める面積比を考えると全エリアで一番高いと思われる。

（彩度）顕著な違いがみられるのは上前津（大須）エリアである。建物の平均値がクロマ 4.38 もり、樹木を加えた植栽の平均値クロマ 4.15 を超えている。このエリアは看板化している外装が多いため、本来の外壁の数値とは差異があることは充分に推測されるが他エリア全てクロマ 3 以下（最低は東別院エリアのクロマ 2.28）と比較すれば、きわめて高い数値である。このエリアは明度の平均値も高いため、一番賑やかな建物自体が派手なエリアである。

建物全体の平均値は 10YR 6.14/3.0（灰黄）であった。

②看板

(色相) 中心はRで33%。ついでP B 21%、Y R 14%と続き、G Y～Bは全体の一割程度であった。各エリア対象件数の違いも大きいが、栄南エリアはRが無く他エリアには見られないGが存在したことが特徴といえる。

(明度) 平均値はバリューアイデア4.82。各エリア明度による大きな違いはみてとれない。結果として金山エリアがバリュー4.10で最も低く、栄北エリアがバリュー5.05で最も高い。

(彩度) 平均値はクロマ9.63。金山・東別院・上前津(大須)エリアの平均値がいずれもクロマ10以上なのに対し、都市景観形成地区でもある矢場町・栄南・栄北・久屋大通エリアの平均値は最も高い栄北でもクロマ9であった。

建物

	2.5R-	5R-	7.5R-	10R-	2.5YR-	5YR-	7.5YR-	10YR-	2.5Y-	5Y-	7.5Y-	10Y-	GY-	G-	BG-	B-	PB-	P-	RP-	合計	
エリア1		1	2	1			3									1	6	1	3	18	
	0.0%	5.6%	0.0%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	33.3%	5.6%	16.7%	100.0%	
エリア2		3	6	1	6	5	7	8	5	1			2		2	1	2	49			
	0.0%	6.1%	0.0%	12.2%	2.0%	12.2%	10.2%	14.3%	16.3%	10.2%	2.0%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%	0.0%	2.0%	4.1%	100.0%	
エリア3	1	2	3	2	1	3	5	8	4	2		2		3	1	1	2	2	42		
	2.4%	4.8%	7.1%	4.8%	2.4%	7.1%	11.9%	19.0%	9.5%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%	7.1%	2.4%	2.4%	4.8%	0.0%	4.8%	100.0%	
エリア4		2	1	1	1	4	1	2		3			1		2		1	19			
	0.0%	10.5%	5.3%	5.3%	5.3%	21.1%	5.3%	10.5%	0.0%	15.8%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	100.0%	
エリア5		3	1	2	1	3	1	5	1	1		2	2				1		24		
	0.0%	12.5%	4.2%	8.3%	4.2%	12.5%	4.2%	20.8%	4.2%	4.2%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	100.0%		
エリア6			1		2	1		3	1	3									11		
	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	18.2%	9.1%	0.0%	27.3%	9.1%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
エリア7				2		3	1	2	2	1						1		1	2	15	
	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	20.0%	6.7%	13.3%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	100.0%	
合計	1	11	6	15	7	20	13	30	16	15	2	2	3	7	4	4	8	4	10	178	
	0.6%	6.2%	3.4%	8.4%	3.9%	11.2%	7.3%	16.9%	9.0%	8.4%	1.1%	1.1%	1.7%	3.9%	2.2%	2.2%	4.5%	2.2%	5.6%	100.0%	

10R～5Y 65.2%

5R～5Y 74.7%

建物

明度

彩度

	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値
エリア1	9	2.5	5.53(5.39)	8	0.5	2.78(2.85)
エリア2	9	2	6.15(6.26)	9	0.5	2.28(2.29)
エリア3	9.3	1.8	6.48	14	0.5	4.38
エリア4	9	2	6.48(6.83)	11	0.5	2.89(3.00)
エリア5	9	1.5	5.87(5.97)	11	0.5	2.83(2.68)
エリア6	8.5	2.5	5.96	12	0.5	2.68
エリア7	9	1.5	6.03(6.04)	13(4)	0.5	2.97(1.67)
合計	9.3	1.5	6.14(6.20)	9.3	1.5	3.05(2.98)

()内は外壁の平均値 看板化したものも含む

明度	8以上	7以上
エリア1	31.6%	31.6%
エリア2	25.9%	46.6%
エリア3	33.3%	60.0%
エリア4	40.0%	55.0%
エリア5	28.0%	48.0%
エリア6	12.0%	50.0%
エリア7	33.3%	42.9%
全体会	29.6%	49.3%

エリア1以外8以上29.3% 7以上51.1%

彩度	3以下
エリア1	61.1%
エリア2	79.6%
エリア3	47.6%
エリア4	63.2%
エリア5	75.0%
エリア6	72.7%
エリア7	73.3%
全体会	66.9%

エリア3以外の全体会は72.8%

看板

明度

彩度

	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値
エリア1	4.5	3.5	4.10	14	9	12.60
エリア2	7	1	4.83	14	7	11.20
エリア3	8	2.5	5.00	14	1	10.14
エリア4	5	3	4.33	11	4.5	8.50
エリア5	7	2	4.88	12	3	6.38
エリア6	8	3	5.05	13	3	9.00
エリア7	4.5	4.5	4.50	3	3	3.00
合計	8	1	4.82	8	1	9.63

3-3. アンケート調査

(1) アンケート調査概要

① 調査目的

対象地の「まちのいろ」を探るため、市民が景観に対して抱く「まちのいろ」をアンケートにより導き出すことを目的とする。尚、調査は各設定エリアにて行うものとし、ヒアリング内容については現在感じている「いろ」と今後目指すべき「いろ」のそれぞれが把握できるよう設問に配慮するものとした。また、分析は景観の変化による「まちのいろ」の相違を集計数とイメージスケールによる2手法によって分析することで、より感覚的な「まちのいろ」を掴むことをねらいとした。

② 実施概要

【実施日】2009年9月13日・10月24日（2日間）

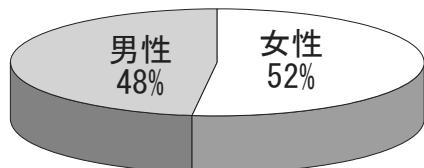
【実施場所】測色調査を行なった大津通（金山～桜通大津）沿線の以下のところで行なつた。

- エリア1（金山）：高座橋（名鉄金山駅東口）付近
- エリア2（東別院）：東別院交差点付近
- エリア3（大須）：万松寺交差点付近
- エリア4（矢場町）：矢場町交差点・パルコ付近
- エリア5（栄南）：三越前付近
- エリア6（栄北）：サンシャイン前付近
- エリア7（桜通大津）：桜通大津交差点付近

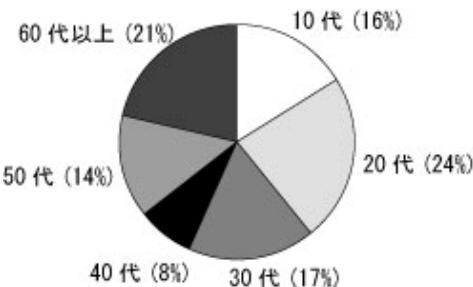
【調査方法】通行者に対して研究員が質問用紙《資料1》に沿って口頭で質問し、回答を用紙に書き込む方法をとる。有効回答数200件を目標として行なった。

《回答者属性（性別・年齢）》

有効回答者数303人



《性別》



《年齢別》

（註）回答者の属性として、その場所を通る回数と目的についても調査したが、回答者数が少なかったため、「回数・目的別」の分析は行わなかった。なおアンケートの全体集計は、巻末資料を参照されたい。

【質問内容と質問意図】

[名古屋に関する質問：市民が名古屋全体をイメージする色を把握するため]

質問 1：名古屋をイメージする色は？

質問 2：1の理由

[各エリアに関する質問]

(質問 3～5：街に対して市民が抱く現在のイメージと好感度を把握するため)

質問 3：この街をイメージする色は？

質問 4：この街の雰囲気を一言で言うと？

質問 5：この街の景観は好きですか？

(質問 6～8：街に対して市民が抱く将来のイメージと方向性を把握するため)

質問 6：この街の優れたところ、守りたいところは？

質問 7：この街の足りないところ、変えたいところは？

質問 8：7が改善された時にイメージする色は？（この街を何色にしたいか？）

《資料 1：調査票》

名古屋市都市センター 調査研究アンケート (街並みと色彩について)				
9月13日(日) 時 分		天気	調査員	
エリア	性別	年齢		
金山	男・女	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代		
ここを通る回数	はじめて	今までに数回	何度か通る	ほぼ毎日通る
ここを通った目的	住民	通勤・通学	その他（ ）	
1 名古屋をイメージする色は？	赤、だいだい、ベージュ、茶色、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫、ピンク 白、灰色、黒、ゴールド、シルバー、 色を感じない			
2 1の理由				
3 この街をイメージする色は？	赤、だいだい、ベージュ、茶色、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫、ピンク 白、灰色、黒、ゴールド、シルバー、 色を感じない			
4 この街の雰囲気を一言で言うと？				
5 この街の景観は好きですか？	好き　どちらかと言えば好き　普通　どちらかと言えば嫌い　嫌い			
6 この街の優れたところ、守りたいところは？	特になし			
7 この街の足りないところ、変えたいところは？	特になし			
8 7が改善された時にイメージする色は？ (この街を何色にしたいか)	赤、だいだい、ベージュ、茶色、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫、ピンク 白、灰色、黒、ゴールド、シルバー、 色を感じない			

《調査実施風景》



(2) アンケート調査結果および分析

①名古屋をイメージする色

名古屋は以前より『白い街』と表現されてきたが、それは石原裕次郎の『白い街』という歌によってそのような印象が持たれるようになったといわれている。しかし、今でも名古屋は白い街なのだろうか。近年、名古屋では 1989 年（平成元年）に名古屋の市政 100 周年記念事業として「ひと・夢・デザイン—都市が奏でるシンフォニー」をテーマとした世界デザイン博覧会が開催され、2005 年（平成 17 年）の「愛知万博」開催に合わせた都市整備がなされた。このように大きなプロジェクトの実施により名古屋の街づくりにも影響を及ぼしていると推測できる。アンケート調査においては、対象地以外に現在の名古屋をイメージする色を確認するためのアンケート項目も加えることとした。

【分析】

アンケート調査の結果で名古屋をイメージする色については計 21 色の回答があった。多い順に [灰]・[青]・[黄]・[緑] となり《資料 1 参照》、この 4 色でほぼ半数になる。次いで [だいだい]・[色を感じない]・[白]・[ゴールド]・[赤] という回答があり 8 色と「色を感じない」と合わせ 80% を超える。これらの色を選んだ理由と共に考えていくことにする。色が選ばれた理由として「象徴的なものを回答」「街を構成するものを回答」「感情を表現する語句を回答」に分類し考えたい。

まずは色を選んだ理由に象徴的なものを回答した色は [ゴールド] である。理由として「金鯱」という回答が 9 割を超え、その 9 割が 30 代以下であった。次に [ゴールド] 同様に「金鯱」という回答があったのが [黄] である。他には「ドラゴンズカラー」の [青] グランパスカラーの [赤] が多くあった。少数ではあるが [青] に「市バスの色」 [赤] に「名鉄の色」というものもあった。最後に [白] はやはり「歌のイメージ」といった回答が多くあり、回答者の年齢は 50 代以上が 8 割を占めた。

次に街を構成するものを色の理由とした色は [灰] と [緑] である。[灰] という回答は名古屋をイメージする色で最も多い色という結果がでた。[灰] は「ビル」「コンクリート」「道路」からイメージされていることが多い。[緑] は「街路樹が多い」「自然が多い」「緑が多い」という回答からイメージされている。

次に感情を表現する回答であるが、先に出た色もこの分類に含まれる。「明るい」「活気がある」「元気」「賑やか」といったプラスイメージの回答からイメージされたのは [だいだい] [赤] [黄] がある。特に [だいだい] はこの理由がほとんどであった。次に「清涼感がある」「スッキリ」といったイメージからは [青] があり、「ホッとする」「落ち着く」では [緑] がイメージされている。

多くの回答があった [色を感じない] については「未回答」が多く、「わからない」「なんとなく」などはつきりとした理由はない。少数だが「特徴がない。中途半端」「色を感じない街だから」という回答があった。

性別での特徴は男性では [灰] 《資料 3 参照》が突出して多いが、女性は 4 色 ([黄] [だ

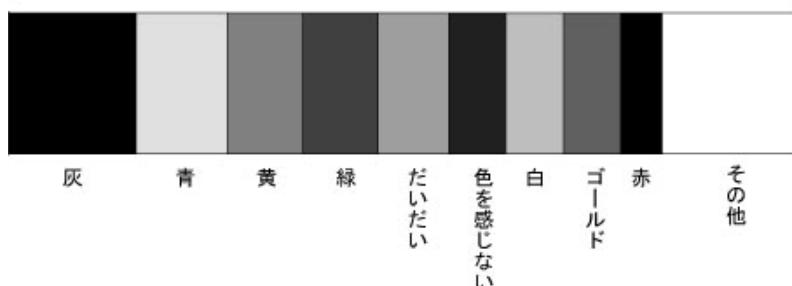
いだい〕〔灰〕〔青〕) 『資料 2 参照』が少差で選ばれた。また、男性は〔灰〕・〔色を感じない〕・〔白〕・〔黒〕など色味を持たない〔無彩色〕と〔色を感じない〕という回答が 40% もになり女性では 20% 程度に留まっている。男女共に上位色はほとんど変わらないが、年代別で 10 代が〔黄〕、20 代が〔灰〕、30 代が〔灰〕、40 代が同数で〔緑〕・〔青〕・〔灰〕、50 代が〔白〕、60 代以上が〔青〕であったが、〔灰〕は各年代の上位 3 番以内には入っている。

【まとめ】

名古屋をイメージする色は以上のような結果がであった。しかし、アンケート調査区間が金山から桜通大津間ということもあり、名古屋全域で行なえば違った結果が得られるかもしれない。今回、回答者が色を選んだ理由の 2/3 が感情を表現する語句を理由にしていて、中には今の社会情勢を反映して「不景気だから」という回答もあった。したがって、街の色は単に建物の色や看板の色や洋服の色などだけで決まるものではなく、そこで生活する人の感覚というものが大きく影響を与える。名古屋の色は〔白〕ではなかったが〔灰〕という色味のないものが選ばれたのは残念である。しかもこの色を選んだ理由でビル・コンクリート・道路のような目に見えるものではなく、感覚的な理由ではマイナスイメージが多く、汚い感じ・くすんだ感じ・暗いなどであった。

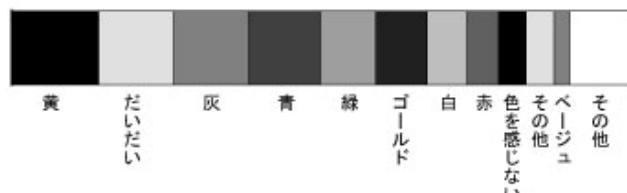
◆アンケート参考資料◆ 『名古屋をイメージする色』

資料 1: 名古屋をイメージする色



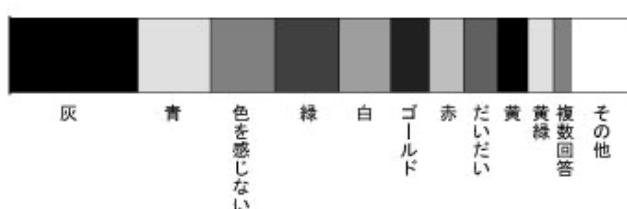
資料 2: 女性が選ぶ名古屋をイメージする色

1	黄	14%
2	だいだい	12%
	青	12%
3	灰	11%



資料 3: 男性が選ぶ名古屋をイメージする色

1	灰	21%
2	青	12%
3	色を感じない	10%
	緑	10%



②アンケート結果に基づくエリアの現状分析

◆エリア1（金山）の現状分析

<エリアの概要>

金山エリアは、JR・名鉄・地下鉄が乗り入れる金山総合駅の設置（1989年）や地下鉄名城線環状化（2004年）に伴い、ますます利用者が増えている名古屋の副都心である。それに伴い駅前の再開発も進んでおり、「名古屋ボストン美術館」、「アスナル金山」などの文化、商業施設が生まれている。また駅周辺には飲食店などが多く、歓楽街の側面も持っている。

この街をイメージする色は？（右頁資料1参照）

[だいだい]の回答が最も多かった。性別でいうと女性に最も多く選ばれているのに対し、男性は[灰]が一番多い。[だいだい]に次いで[色を感じない][黄][灰]が続く。

この街の雰囲気を一言で言うと？（右頁資料2参照）

プラスイメージとしては「賑やか」が最も多く、次いで「活気」「楽しい」「華やか」「元気」と続いている。街をイメージする色として[だいだい][黄]を選んだ人は、雰囲気として「賑やか」を選んでいる傾向がみられる。マイナスイメージとしては「汚い」「ゴミゴミ」「治安が悪い」など、繁華街の雰囲気の悪さが挙げられ、「統一感がない」という景観的観点からの指摘もあった。街のイメージ色として[色を感じない][灰]を選んだ人からは、こういったマイナスイメージの回答が多い。

この街の景観は好きですか？（右頁資料3参照）

「好き」「どちらかというと好き」の回答を合わせても39%と少なく、「嫌い」「どちらかというと嫌い」の合計は26%に達し、全体的に好感度が低い。性別では、「好き」「どちらかというと好き」は男性が3%多く、「嫌い」「どちらかというと嫌い」は女性の方が6%多いことから、より男性に好まれる傾向が少しうかがえる。

この街の良いところと悪いところ（右頁資料4参照）

良いところとしては、「交通便利」「買い物に便利」と生活の利便性を挙げた人が3割以上で最も多かった。変えたいところとしては、「治安の悪さ」「雰囲気の悪さ」「ゴミの多さ」などが挙げられ、繁華街の環境の悪い面を改善したいという要望が見て取れる。また「放置自転車の問題」も指摘された。

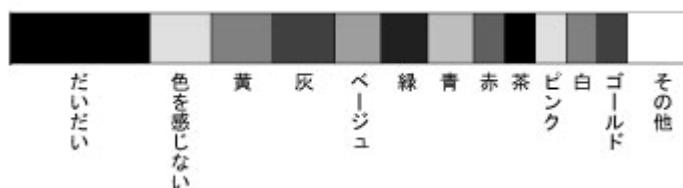
この街を何色に変えたいか？（右頁資料5参照）

[緑][青]が最も多く、性別では男性がこの2色を最も多く希望している。現状のイメージ色の回答と比較してみると、[色を感じない][灰]が減少して[緑][青]が増加し、[水色][スカイブルー]という回答が登場している。ここからは、環境や治安の悪さ、雑然とした現状を改善してすっきり爽やかな街に変えたいという希望や、樹木の潤いや安らぎを求める気持ちなどを推測出来るであろうか。改善後の色としても[だいだい][黄][ゴールド]が比較的多いのは、金山の「賑わい」イメージを残したいということであろう。

◆アンケート参考資料◆ 《エリア1（金山）》

資料1:この街をイメージする色

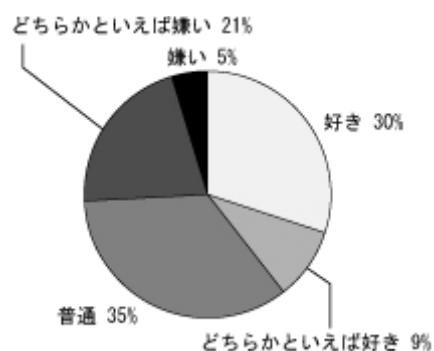
1	だいだい	20%
2	色を感じない	9%
	黄	9%
	灰	9%



資料2:この街の雰囲気

主なプラスイメージ	主なマイナスイメージ
賑やか	汚い
活気がある	ゴミゴミしている
楽しい	統一感がない
華やか	治安が悪い
元気	汚い
庶民的	
若い感じ	

資料3:この街の景観は好きですか？



資料4:この街の優れたところ、守りたいところおよび足りないところ、変えたいところ

優れたところ、守りたいところ	足りないところ、変えたいところ
交通の便の良さ	放置自転車を整備して
店が多くて買い物が便利	治安を良くして
道路の広さ	ゴミを減らしてきれいな街に
街すぎないところ（適度に田舎）	雰囲気を悪くする施設を減らして
生活しやすさ	緑を増やして
ボストン美術館	公園が欲しい

資料5:この街を何色に変えたいか

1	緑	14%
	青	14%
2	だいだい	9%
	黄	9%
	ゴールド	9%



◆エリア2　（東別院）の現状分析

＜エリアの概要＞

東別院エリアは、名古屋テレビの社屋がある他は、オフィスや低層の商店が並ぶ閑静なエリアである。江戸時代に置かれた東別院（真宗大谷派名古屋別院）には現在も参拝者が多く、旧東別院の庭園であった下茶屋公園も深い緑を湛えている。交通機関としては地下鉄名城線の東別院駅がある他、名古屋都市高速都心環状の出入口もある。

この街をイメージする色は？（右頁資料1参照）

圧倒的に【緑】を答えた人が多く、男女とも一番多く選んでいる。次いで【ベージュ】が多く選ばれているが、この色が上位に来るのは他のエリアにはない特徴であり、選んだのはすべて女性であった。

【えんじ色】【もみじ色】【モスグリーン】という伝統色を想わせる回答もあった。

この街の雰囲気を一言で言うと？（右頁資料2参照）

プラスイメージとしては、「落ち着いている」「静か」が最も多いが、これらのイメージを抱いている人は、街のイメージ色として【緑】を選んでいる場合が多い。他には「住みやすそう」「環境が良い」など、安心感を示す言葉が並んだ。マイナスイメージとしては、「人・店が少ない」「殺風景」など、活気を欠くイメージが挙げられた一方で、「車が多い」「騒々しい」など、名古屋高速の関係か、車の通行量の多さを憂う回答が見られた。

この街の景観は好きですか？（右頁資料3参照）

全体で「普通」と答えた人が最も多く、男性も女性もこの回答が一番である。「好き」「どちらか」というと好き」の合計は44%であり、特に愛好者の多いエリアではないが、「好き」と答えた人は、年代的には30代以上が多い。

この街の良いところ悪いところ（右頁資料4参照）

良いところとしては、3割程度の人が「緑・公園」を挙げ、「歩道の広さ」「環境の良さ」「テレビ局」が続いた。変えたいところとしては「もっと緑が欲しい」が多かった。「コンビニ」「カフェ」「ベンチ」が欲しい、というのは、「人通りが少なく淋しい」「会話の場が欲しい」という意見に対する具体的な改善案を示すものと言えるであろうか。

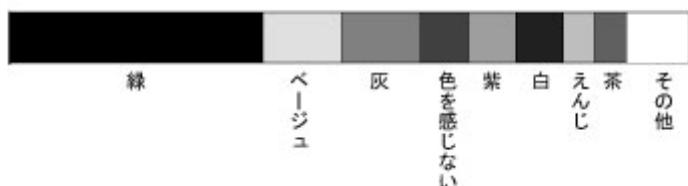
この街を何色に変えたいか？（右頁資料5参照）

【緑】が圧倒的に多く、男女共に最も多く選んでいる。【黄緑】【青緑】も同類とみなすと、回答者の半数近くが【緑】を希望していることになる。またこの街のイメージ色として【緑】を選んでいる人の多くが、改善後も同じ色を回答している。【だいだい】【黄】が増加しているのは、「賑わい」を求める気持ちの表れであろうか。【空色】【カラフル】という回答もあった。

◆アンケート参考資料◆ 《エリア2（東別院）》

資料1:この街をイメージする色

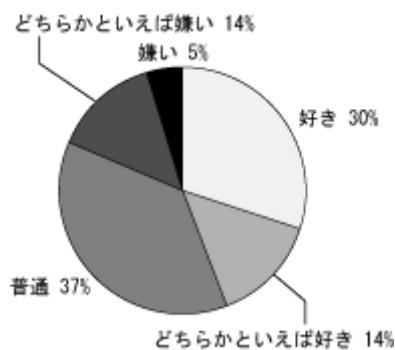
1	緑	37%
2	ベージュ	12%
	灰	12%



資料2:この街の雰囲気

主なプラスイメージ	主なマイナスイメージ
落ち着いている	騒々しい
静か	殺風景
住みやすそう	がさがさしている
昔ながらの雰囲気	落ち着かない
ゴミゴミしていない	
のんびりしている	
環境が良い	
賑わい	

資料3: この街の景観は好きですか？

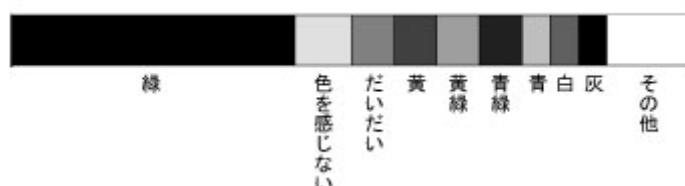


資料4:この街の優れたところ、守りたいところおよび足りないところ、変えたいところ

優れたところ、守りたいところ	足りないところ、変えたいところ
東別院・神社	昔の雰囲気
静かなところ	テレビ局
緑・公園	
歩道の広さ	人通りを増やしたい
安全で住みやすいところ	ベンチが欲しい
	樹木と花を増やして
	新しい建物を
	立ち寄る場所（カフェ等）が欲しい
	高速道路をなくして

資料5:この街を何色に変えたいか？

1	緑	37%
2	色を感じない	12%
3	だいだい	6%
	黄	6%
	黄緑	6%
	青緑	6%



◆エリア3（大須）の現状分析

＜エリアの概要＞

大須エリアは、江戸時代は大須觀音、萬松寺、西別院（本願寺名古屋別院）などがある城下南の寺町であった。明治・大正期には演芸場や映画館がある名古屋の歓楽街として栄えたが、現在では、若者向きの家電店やパソコンショップの集まる電気街や古着衣料品店などの立ち並ぶアーケード商店街があり、新旧入り混じった庶民の街である。

この街をイメージする色は？（右頁資料1参照）

〔赤〕が最も多く、男女とも同じように一番に選んでいる。この色はすでに街の色として認知され、定着している感がある。〔赤〕に次いで〔だいだい〕・〔黄〕と、暖色が続いているのが特徴的であり、伝統を想わせる〔茶〕も多い。〔レインボー〕〔ミックス〕〔原色〕という多色回答もあった。

この街の雰囲気を一言で言うと？（右頁資料2参照）

プラスイメージとしては「賑やか」が最も多く、「活気」「多国籍」「庶民性」が続く。「変化がある街」「新しさと古さの融合」という回答もあり、新旧・老若・国籍など様々なものが混じり合ったイメージがうかがわれる。マイナスイメージとしては、「雑然」「雑多・ごった煮」などが挙げられたが、“マイナス”というよりこの街の“強烈な個性”を象徴するイメージと言えるものもある。

この街の景観は好きですか？（右頁資料3参照）

「好き」「どちらかといえば好き」は62%と多く、性別では男性の支持が女性より13%高い。どの年代からも幅広く支持されている傾向である。反対に「嫌い」「どちらか」と「嫌い」の合計は17%と比較的多い。

この街の良いところ悪いところ（右頁資料4参照）

良いところとしては、「古い街並」という言葉が最も多く、次いで「個性的な個人商店」「電気街」「本屋」「専門店」「商店街」など、店舗関係の言葉が並ぶ。「縁日・お祭り」「人が集まるところ」「活気のあるところ」「ごちゃごちゃ感」「国際色」など、人の集うパワーを大切にしたいという気持ちもうかがわれる。「国際色」というのは、他のエリアにはない特徴である。要望としては「古い雰囲気を残してほしい」「もっと年配者が来やすい店を」というものが多かった。具体的な問題としては、「自転車問題」「歩道の拡幅」なども挙げられた。

この街を何色に変えたいか？（右頁資料5参照）

現状で赤をイメージする人の割合よりは減少しているが、やはり〔赤〕が一番多かった。〔赤〕〔だいだい〕〔黄〕〔ゴールド〕などが希望色としても多いのは、現在の「賑わい」を持続させたいという気持ちの表れであろうか。また現在のイメージとして〔緑〕を挙げた人はいなかつたが、希望する色としては、〔赤〕〔だいだい〕に次いで〔緑〕が多くなっているのは、植栽の潤いを求める声が大きいということであろうか。

◆アンケート参考資料◆ 《エリア3（大須）》

資料1:この街をイメージする色

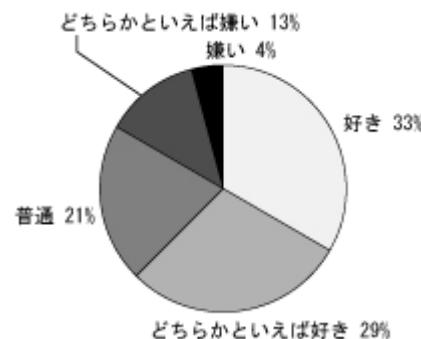
1	赤	35%
2	だいだい	11%
	黄	11%



資料2:この街の雰囲気

主なプラスイメージ	主なマイナスイメージ
賑やか	雑然
多国籍、アジアの雰囲気	アンダーグラウンド
若い	若い人にはいいが
庶民的	雑多・ごった煮
明るい	
楽しい	
元気	
お祭り感	
活気がある	
雑然としていい	

資料3:この街の景観は好きですか？

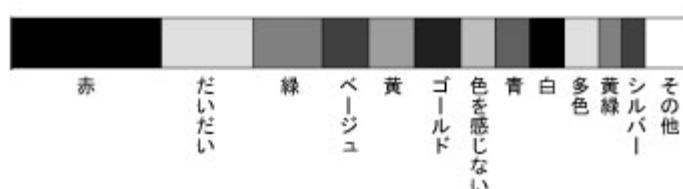


資料4:この街の優れたところ、守りたいところおよび足りないところ、変えたいところ

優れたところ、守りたいところ	足りないところ、変えたいところ
古い街並	活気のあるところ
個性的な商店	ゴチャゴチャ感
国際色	縁日・お祭り
大須観音	
	放置自転車問題の解決
	もっと古い雰囲気を残してほしい
	もっと年配者が来やすい街に
	休める場所・ベンチが欲しい
	歩道をもっと広く
	ゴミを減らしてきれいな街に

資料5:この街の色を何色に変えたいか

1	赤	22%
2	だいだい	14%
3	緑	10%



◆エリア4（矢場町）の現状分析

<エリアの概要>

矢場町エリアは、栄に隣接する名古屋の中心的なショッピング街・オフィス街であり、名古屋市の都市景観形成地区に指定されている。大津通りの東側には、パルコ・松坂屋と大規模店舗が並ぶが、西側には、寺院や古い個人商店、老朽化した長屋式店舗もみられる。若宮大通りと交差する矢場町交差点は車の交通量が多く、名古屋高速高架下スペースには、時計台や噴水などのモニュメントやミニスペースも設置されている。

この街をイメージする色は？（右頁資料1参照）

[灰（コンクリート色を含む）]が最も多く、次いで[色を感じない]という回答が多かった。性別では、男性が全体と同様[灰][色を感じない]が上位であるのに対して、女性は[灰]と[紫]がトップであり、[ゴールド]という回答もあった。[紫]と[ゴールド]は、女性のみの回答である。全体的に色を感じづらいエリアのようであるが、女性はファッションの艶やかなイメージを抱いているのかもしれない。

この街の雰囲気を一言で言うと？（右頁資料2参照）

プラスイメージとして「賑やか」が最も多いが、女性からの回答が多かった。この雰囲気を感じている人が選んだ街の色は様々であった。マイナスイメージとしては「ゴチャゴチャ」「ごみごみ」が多かったが、この回答をした人は街の雰囲気を[灰]や[黒]と無彩色に捉えている。「中途半端」「印象が薄い」という回答は、栄と大須の中間地点として独自の個性が見えにくいという傾向を示すものであろうか。

この街の景観は好きですか？（右頁資料3参照）

全体で「普通」と答えた人が最も多かった。「好き」「どちらかといえば好き」と答えた人は合計で52%であったが、この割合は女性の方が少し多い。また「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えたのはすべて男性であった。ファッションに関心のない男性にとっては魅力の少ない街ということであろうか。

この街の良いところ悪いところ（右頁資料4参照）

良いところとしては、流行を感じられるショッピングエリアとして「ショップが沢山あるところ」「華やかさ」などが多く挙げられたが、「高架下の雰囲気」や「緑の多さ」という回答もあった。また「新しいものが次々誕生するところ」という一方で「伝統文化」という意見もあった。問題点の指摘としては「車が多い」「ゴミが多い」などがあった。

この街を何色に変えたいか？（右頁資料5参照）

[緑]が最も多く、[緑]と[黄緑]を合わせると45%にのぼる。性別・年齢別でも、すべて[緑]が1番に選ばれている。またこの街をイメージする色として[灰]を選んだ人の多くが、[緑]を回答している。

◆アンケート参考資料◆ 《エリア4（矢場町）》

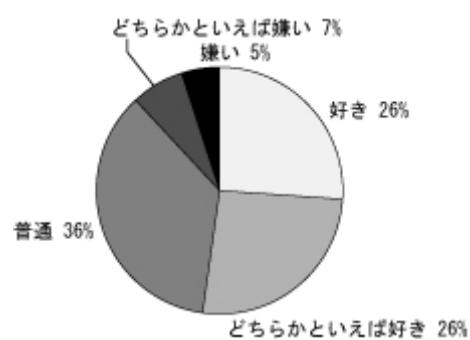
資料1:この街をイメージする色



資料2:この街の雰囲気

主なプラスイメージ	主なマイナスイメージ
賑やか	ゴチャゴチャ
活気がある	ごみごみしている
都会的	色がない
オフィス街	暗い
ファッションの街	少し怪しげ
きれい	うるさい
元気	中途半端
古い街	印象が薄い
栄えている	

資料3:この街の景観は好きですか？



資料4:この街の優れたところ、守りたいところおよび足りないところ、変えたいところ

優れたところ、守りたいところ	足りないところ、変えたいところ
ファッションの店が多い	車が多くすぎる・騒音を減らして
華やかさ	青信号の時間をもっと長く
ぶらつきくなる雰囲気	カフェなどの休憩場所が欲しい
新しい物が次々誕生するところ	ゴミを減らして
緑の多さ	緑を増やして
高架下の雰囲気	路上生活者問題

資料5:この街の色を何色に変えたいか？



◆エリア5（栄南）の現状分析

<エリアの概要>

栄南エリアは三越・丸栄スカイル・ラシックといったデパートが集中し路面店舗も多い。名古屋の中心的な繁華街でありショッピングストリートである。ここは名古屋市の景観計画地域にも指定されている地区でかなり整備された地区である。商業地区のため看板や広告が多く、歩道・街路樹が整備されていて車道も整備されている。しかし、久屋大通りと同様に車が多く混雑が多い。

この街をイメージする色は？（右頁資料1参照）

[緑]が最も多く、[赤]・[だいだい]・[黄]・[白]・[色を感じない]・[灰]と少差で回答を得た。性別でみると特徴があり女性では〔緑〕が最も多いが、男性では〔白〕が多い。また女性が男性よりも多くの色を回答している点では女性の感性をくすぐる街であるということか。

この街の雰囲気を一言で言うと？（右頁資料2参照）

「元気」・「活気」・「賑やか」・「いきいき」という繁華街らしい雰囲気を感じられる。この回答をした人はこの街の色で〔赤〕・〔だいだい〕・〔黄〕を回答している傾向がある点では、雰囲気と街の色が結びついている結果となる。「若さ」と回答した人は〔白〕と回答した人が多い。「ゴミゴミ」・「混雑」・「雑然」というマイナスイメージを回答した人は〔色を感じない〕・〔灰〕と回答している傾向がある。

この街の景観は好きですか？（右頁資料3参照）

好感度は[好き]または[どちらかといえば好き]という回答は65%であるが、「好き」という回答だけでも約50%あるのは特徴的である。もっと特徴的なのは女性では73%の人が好感を持ち男性の55%に比べかなり多い。女性には年代を問わず好まれる街である。

この街の良いところ悪いところ（右頁資料4参照）

このエリアの良いところとしてはデパートや店舗が多く「買い物が便利」であるという回答が多く、「道路が整備され広い」という回答も多い。また、「緑の多さ」も多く回答された。他に「きれい」「整備されている」といったキーワードも多かった。足りないところは「もっと緑を」という回答が最も多い。「歩道の歩きやすさ」・「路上駐輪」・「自転車道の拡充」・「喫煙場所」という回答もあった。「のぼりの旗は不要」などは「歩道の歩きやすさ」にもつながる回答であり、商業地であるだけに広告・看板のあり方も注意が必要である。

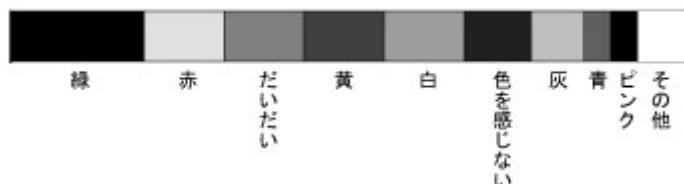
この街を何色に変えたいか？（右頁資料5参照）

[緑]という回答が突出して多いことがわかる。この街の色で〔緑〕と回答した人の1.7倍に増えている。次に〔黄緑〕・〔だいだい〕・〔青〕という回答が多い。これは「賑やか」や「活気」も欲しいがそればかりではなく、成熟したゆとりある空間を求めている。

◆アンケート参考資料◆ 《エリア5(栄南)》

資料1:この街をイメージする色

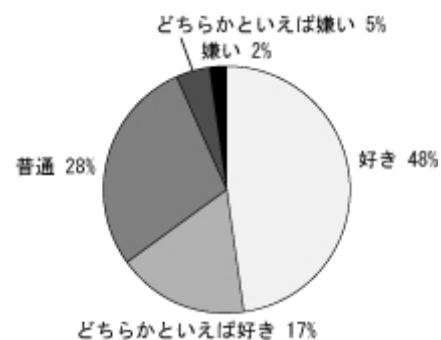
1	緑	20%
2	赤	12%
	だいだい	12%
	黄	12%
	白	12%
3	色を感じない	10%



資料2:この街の雰囲気

主なプラスイメージ	主なマイナスイメージ
元気がある	ゴミゴミしている
若者の街	雑然としている
活気がある	混雑している
賑やか	活気が乏しい
華やか	
楽しい	
おしゃれ	
明るい	
都会	
すっきりしている	

資料3:この街の景観は好きですか?

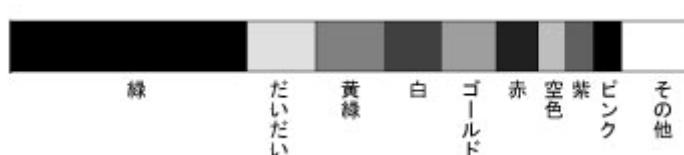


資料4:この街の優れたところ、守りたいところおよび足りないところ、変えたいところ

優れたところ、守りたいところ	足りないところ、変えたいところ
買い物便利なところ	緑を増やして
流行の最先端が見られるところ	店を増やして（原宿のように）
緑が多いところ	もっと大人の街に
歩道・車道の広さ	
道が整備されてきれいなところ	
三越のライオン像	

資料5:この街の色を何色に変えたいか?

1	緑	35%
2	だいだい	10%
3	黄緑	10%



◆エリア6（栄北）の現状分析

<エリアの概要>

栄北エリアは錦通との交差点を中心とした地区で、大津通りの西側にはサンシャインがありその北側が名古屋最大の歓楽街になっている。ビルの形状もペンシルビルが多く建ち並び大小の看板が目につく街である。東側はオフィスビルや商業施設、公園があり、西側と違った景観を見ることができる。

この街をイメージする色は？（右頁資料1参照）

[灰]・[緑]・[色を感じない]・[ゴールド]・[だいだい]という順の回答であったが大きな差はないため大きな特徴として色をあげにくいため、色の特徴が見えにくいエリアということになる。性別では女性は[だいだい]・[灰]が同数で多く、男性は[色を感じない]・[灰]が同数で多かった。男女ともこの2色の次に[緑]という回答が多かった。[だいだい]は女性にしかない回答で、20代の女性に多いというのが特徴である。

この街の雰囲気を一言で言うと？（右頁資料2参照）

「賑やか」・「活気」・「人が多い」が多く、このエリアならではの「夜の街」という回答もある。「賑やか」・「活気」の回答者に[だいだい][赤]言葉と結びつく色を選んだ人がいないことで街の色と雰囲気に直接結びついていない。マイナスイメージは「ゴミゴミ」・「混みあっている」がある。

この街の景観は好きですか？（右頁資料3参照）

好感度は「好き」または「どちらかといえば好き」という回答が56%で若干低めである。「普通」という回答が37%と多いが「嫌い」・「どちらかといえば嫌い」という回答は10%以下と多いわけではない。特に女性が「普通」と回答した人が最も多いが、悪い印象をもっている人は少ない。街の変化によっては「好き」にも「嫌い」にもなる要素が大きい。男性については「好き」という回答が最も多く、男女での好感度は10%ほど男性が多い結果となる。

この街の良いところ悪いところ（右頁資料4参照）

良いところは「交通の便がよい」・「買い物が便利」・「店が多い」（地下街や栄南地区のデパート群があること）といった『便利さ』を良い点として回答がある。

足りないところはで最も多かったのが「特になし」という回答であった。他に「駐輪場の不足」「ゴミ」や「禁煙区域の拡大」という回答がある。これらの要素を改善していくれば印象の良い町になっていくのでは。

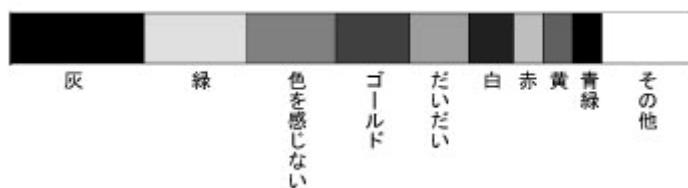
この街を何色に変えたいか？（右頁資料5参照）

[緑]・[だいだい]が多く[だいだい]では賑やかな街をイメージしているのだろうか。しかし、この2色も突出しているわけではなく[青]・[黄]・[黄緑]・[白]と続き街の好感度で「普通」が多かったように、変えたい色でも特徴が出にくく街である。はっきりとした特徴がある街ではあるが、街の色として見えてこないようだ。

◆アンケート参考資料◆ 《エリア6(栄北)》

資料1:この街をイメージする色

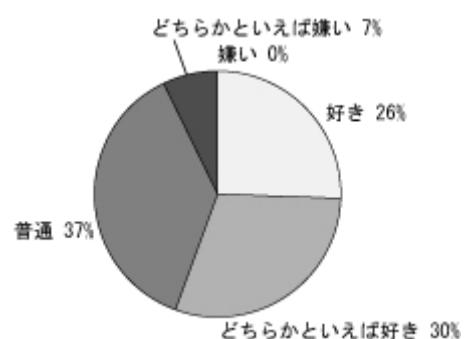
1	灰	20%
2	緑	15%
3	色を感じない	13%
4	ゴールド	11%
5	だいだい	9%



資料2:この街の雰囲気

主なプラスイメージ	主なマイナスイメージ
賑やか	落ち着きがない
活気がある	どんよりしている
明るい	混み合っている
華やか	ちょっとうるさい
都会的	ゴミゴミした
	夜の雰囲気

資料3:この街の景観は好きですか?

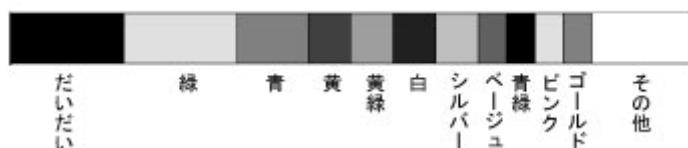


資料4:この街の優れたところ、守りたいところおよび足りないところ、変えたいところ

優れたところ、守りたいところ	足りないところ、変えたいところ
道の広さ	違法駐輪問題の解決
店が多くて買い物便利なところ	夜間環境の悪さの改善を
交通便利なところ	映画館が欲しい
テレビ塔・オアシス	派手な看板の整備
公園	植栽の花を増やして
イベントが多くて楽しいところ	

資料5:この街の色を何色に変えたいか?

1	だいだい	17%
	緑	17%
2	青	10%
3	黄	6%
	黄緑	6%
	白	6%
	シルバー	6%



◆エリア7（桜通大津）の現状分析

<エリアの概要>

桜通大津エリアは桜通と大津通りが交差し、大津通りに面してオフィスビルが建ち並ぶビジネス街である。東側の久屋通りにはセントラルパーク、テレビ塔、アネックスなど若者が集まる商業施設もあり、西南には飲食店などの商業施設がある。交通機関は市バスをはじめ地下鉄の名城線および桜通線の久屋大通駅がある。

この街をイメージする色は？（右頁資料1参照）

〔灰〕が最も多く次に〔緑〕という回答が多く、この2色で50%を超える結果である。この傾向は男女ともに〔灰〕・〔緑〕の順であり、共に50%を超えこの街をイメージする色ということになる。この2色以外に男女共通で上がった色は〔だいだい〕・〔黄〕・〔青緑〕という回答がある。

この街の雰囲気を一言で言うと？（右頁資料2参照）

「オフィス街」・「賑やか」・「静か」・「整然としている」という回答があり、中でも「賑やか」・「オフィス街」が多い。「オフィス街」と類似する回答として「都会的」・「ビル群」という回答がある。この街の色に〔灰（グレーを含む）〕が多かった理由にもなる。他には「賑やか」という語句のマイナスイメージとして〔ごちゃごちゃ〕・「やかましい」・「人が多い」・「ゴミゴミ」といった回答があった。それぞれの生活圏の違いや感じ方によって印象として出る言葉が変わる。

この街の景観は好きですか？（右頁資料3参照）

「好き」と「どちらかといえば好き」と「普通」のすべてが32%で同じである。「好き」と「どちらかといえば好き」まとめると64%となり好感度の高いエリアとなる。このエリアでは男女別でもほぼ60%強が「好き」または「どちらかといえば好き」と回答し男女差はない。

この街の良いところ悪いところ（右頁資料4参照）

良いところは公園や街路樹など緑が多いという回答が多く、道路と歩道の広さや整備状況に関する回答も多かった。これも〔灰〕と〔緑〕が上位であることに結びつく結果である。他には「整理されたところ」・「落ち着いている」といった回答もあった。足りないところは「緑を増やしたい」「公園」という解答があったがこれは大津通沿いにということだろうか。他に「自転車道」・「駐輪場」が足りないといった回答も多く、「コンビニ」「屋外カフェ」「おいしい飲食店」といった回答もある。

この街を何色に変えたいか？（右頁資料5参照）

男女とも〔緑〕が最も多い回答である。ビジネス街の色濃いこのエリアでは「やすらぎ」や「安息」を求めての選択か。男女共通で回答があった色は〔黄緑〕・〔だいだい〕・〔赤〕・〔青〕の回答がある。〔緑〕と回答した人の半数は、現状も〔緑〕を感じている人である。

◆アンケート参考資料◆ 《エリア7（桜通大津）》

資料1:この街をイメージする色

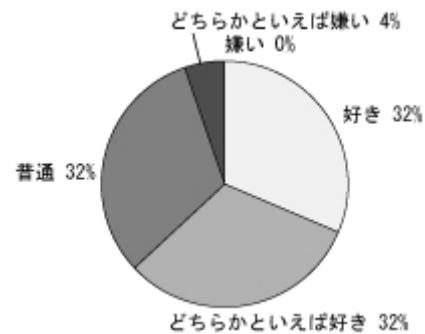
1	灰	31%
2	緑	21%
3	だいだい	10%



資料2:この街の雰囲気

主なプラスイメージ	主なマイナスイメージ
賑やか	くすんだ感じ
静か	ゴミゴミしている
オフィス街	ごちゃごちゃ
楽しい	暗い
明るい	汚い
整然としている	やかましい
都会的	
親しみのある感じ	
開けた感じ	

資料3:この街の景観は好きですか？



資料4:この街の優れたところ、守りたいところおよび足りないところ、変えたいところ

優れたところ、守りたいところ	足りないところ、変えたいところ
大人の街の落ち着き	子供が安心して遊べる場所を
緑・公園・桜	高齢者向けの店を
車道・歩道の広さ	屋外カフェ・ベンチ
楽しいところ	車が多い・・・
買い物便利なところ	緑を増やして
明るさ	美味しい飲食店が欲しい
治安の良さ	自転車問題の整備を

資料5:この街の色を何色に変えたいか？

1	緑	34%
2	黄緑	13%
3	だいだい	11%
	青	11%



③イメージスケールによる分析

アンケート調査において「各エリアに対して人が持つイメージ」に関する回答結果から、言語イメージスケールにプロットしエリアの特徴分析を試みた。「イメージ」を「言葉」に置き換えることによって、市民の抱く現状のエリアイメージを明確にすると共に、各エリアの持つ「感性」や「表情」を探っていこうとしたのである。アンケート調査の結果では数値を基に分析を行なったが、このイメージスケールではアンケート調査結果から得た言葉を基に街の雰囲気を導き出すことを目的とする。

具体的には、アンケートの「質問4：この街の雰囲気を一言で言うと？」および「質問6：この街の優れたところ、守りたいところは？」の回答として挙げられた「エリアのプラスイメージ」の言葉を、エリア別にイメージスケール上の言葉に当てはまる場所にプロットして、各エリアの特徴的なイメージラインを作成した。

[イメージスケールとは]

「イメージスケールシステム」は、(株)日本カラーデザイン研究所が開発したシステムで、元来は、人が色に抱くイメージの共通感覚を心理学的観点からスケール化したものであるが、この共通感覚を形容詞で表し、色との関係を研究してスケール化した「言語イメージスケール」を感性の心理スケールとして応用することにより、「言語を仲介したイメージの方向性」を捉えることが出来る。今回は、言語イメージスケールの中でも日本の風景をイメージしやすいワードを配置した「景観イメージスケール」に基づいて作業を行った。

[イメージスケールの見方]

言語イメージスケールではメリットイメージの言葉のみを扱っているため、「アンケート調査結果のプラスイメージ」の言葉をプロットする作業をおこなった。今回は横軸 WARM/COOL と縦軸 SOFT/HARD を使用しプロットをおこなう事とした。スケールの左側 (WARM 側) ははなやか、中央部分はおだやか、右側 (COOL 側) はさわやかというように五感イメージの違いにより大きく分けられている (図1参照)。スケール上で離れて

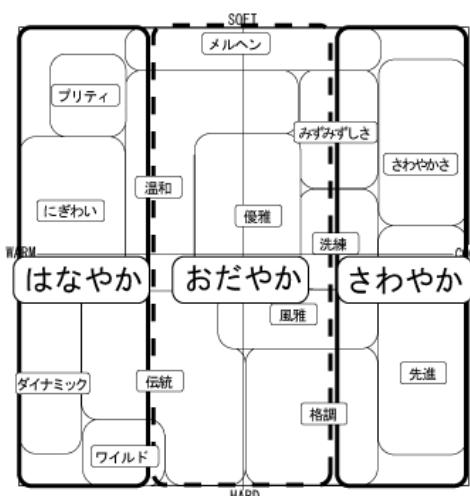


図1 基本イメージパターン

*図1は小林重順著「カラーリスト」より引用

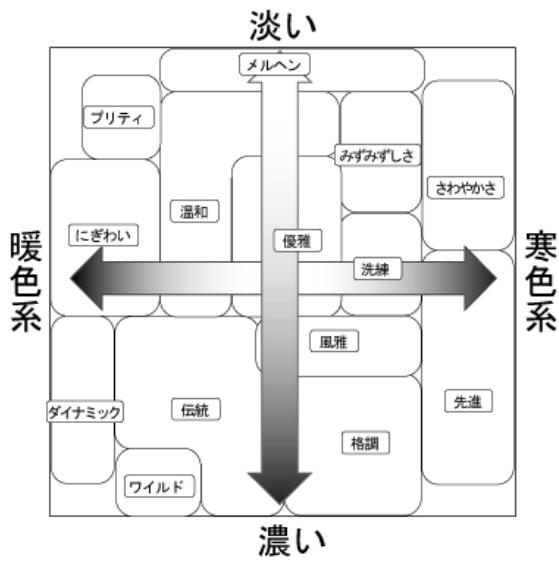


図2 縦軸と横軸による色の目安

*図3は改訂版「カラーイメージスケール」小林重順著から引用

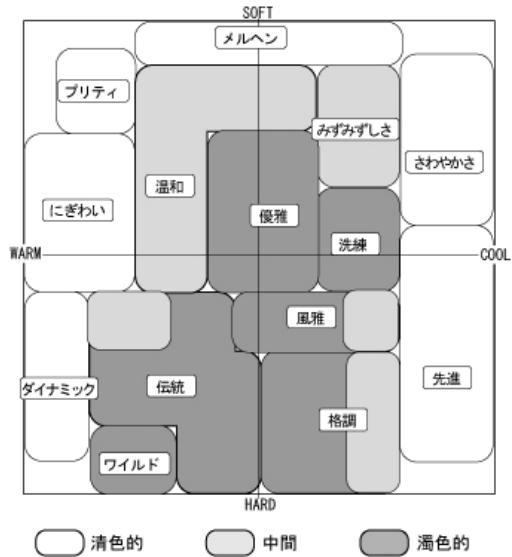


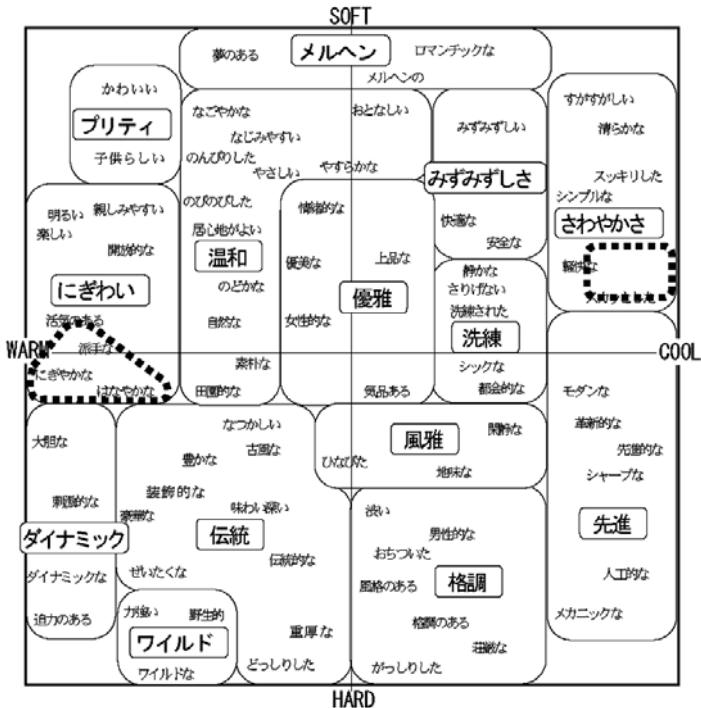
図3 清色・濁色の目安

● イメージスケール分析

ここで使用する景観イメージスケール図は日本カラーデザイン研究所著「地域のイメージを活かす景観色彩計画」より引用した。

《エリア1（金山）》

《イメージスケール》

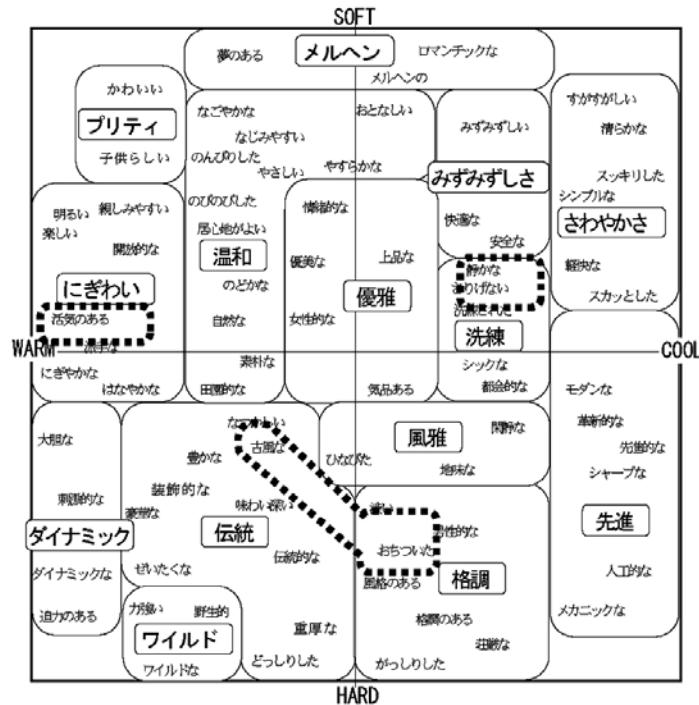


このエリアのイメージはにぎわいとなり、さわやかさの要素を持つ。プロットワードはにぎやかな（にぎわい）・活気のある（にぎわい）・はなやかな（にぎわい）が多く、若々しさ（さわやかさ）がある。

WARM の傾向が強く伺えるが、COOL の傾向もあり、共に清色的要素である。

《エリア2（東別院）》

《イメージスケール》



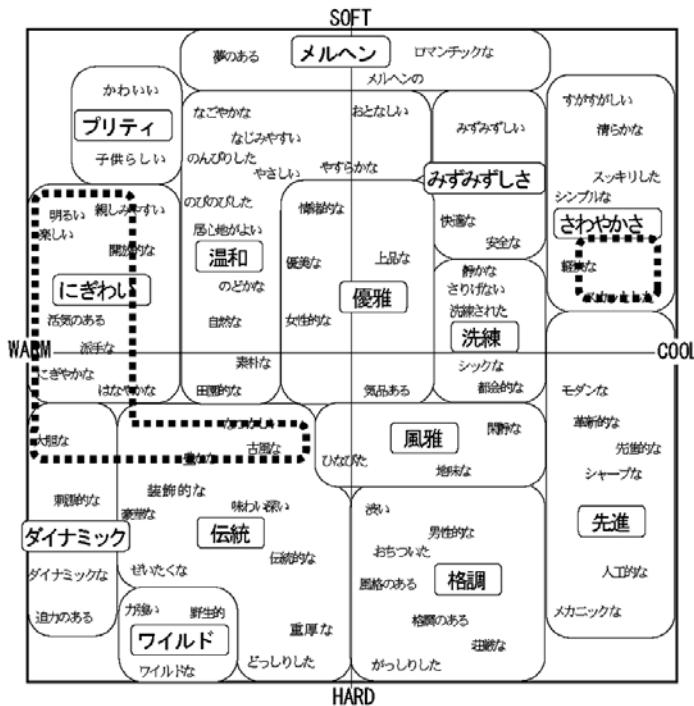
このエリアのイメージは洗練と格調となり、伝統とにぎわいの要素を持つ。

プロットワードは静かな（洗練）・おちついた（格調）が多く、古風な（伝統）、活気のある（にぎわい）がある。

HARDとCOOLの傾向がうかがえる。濁色的要素が中心で、アクセントのように清色的要素がある。

《エリア3（大須）》

《イメージスケール》



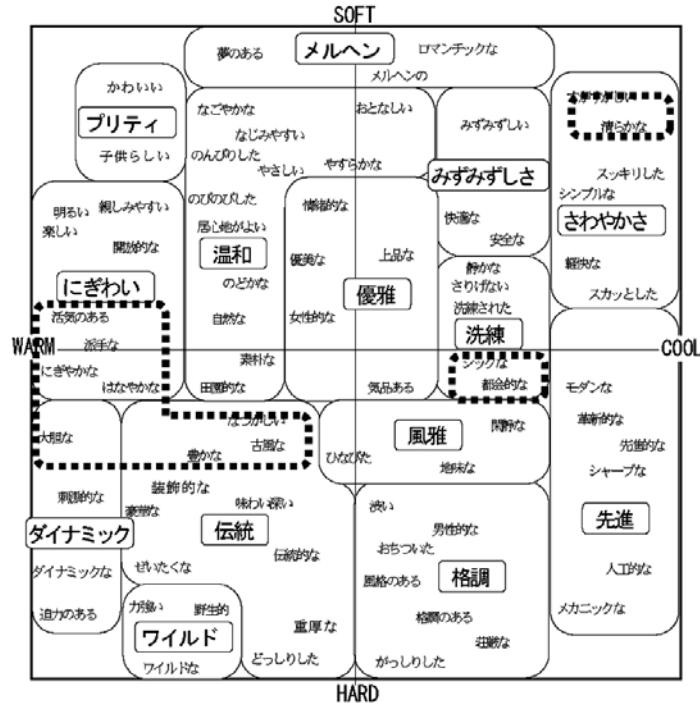
このエリアのイメージはにぎわいとなり、伝統・さわやかさの要素を持つ。

プロットワードとしては、にぎやかな（にぎわい）・古風な（伝統）・若々しい（さわやかさ）・明るい（にぎわい）・活気のある（にぎわい）がある。

WARMの傾向が強く伺える。清色的要素と濁色的要素が混在している。

《エリア4（矢場町）》

《イメージスケール》



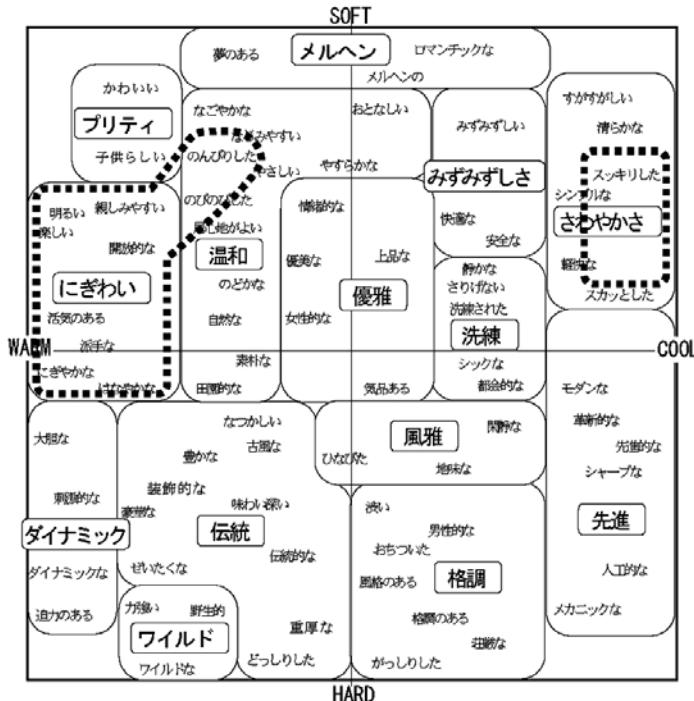
このエリアのイメージはにぎわいとなり、伝統・洗練・さわやかさ・ダイナミックの要素を持つ。

プロットワードとしては、にぎやかな（にぎわい）・活気のある（にぎわい）・古風な（伝統）・都会的な（洗練）・さっぱりした（さわやかさ）・アクティブな（ダイナミック）がある。

WARM傾向が強く伺える。清色的要素と濁色的要素がある。

《エリア5（栄南）》

《イメージスケール》

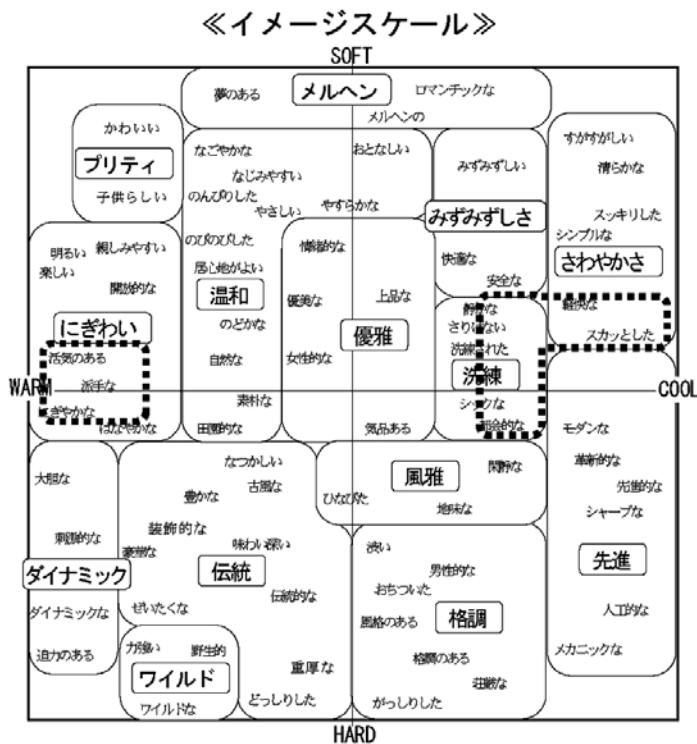


このエリアのイメージはにぎわいとなり、さわやかさ・温かの要素を持つ。

プロットワードはにぎやかな（にぎわい）・若々しい（さわやかさ）・元気な（にぎわい）・活気のある（にぎわい）・明るい（にぎわい）・スッキリした（さわやかさ）・のんびりした（温か）・はなやかな（にぎわい）・楽しい（にぎわい）がある。

WARMの傾向が強く、WARM/ COOL共にSOFTの傾向が強く伺える。清色的要素でまとまっている。

《エリア 6 (栄北)》

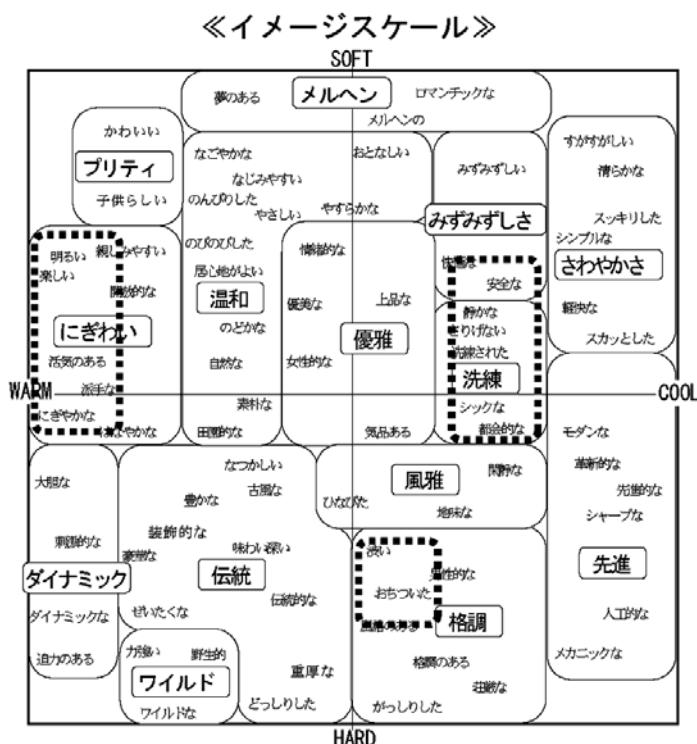


このエリアのイメージはにぎわいとなり、洗練・さわやかさの要素を持つ。

プロットワードはにぎやかな (にぎわい)・都会的な (洗練)・若々しい (さわやかさ)・活気のある (にぎわい)がある。

WARM の傾向が強く伺える。清色的要素が強いが、濁色的要素も伺える。

《エリア 7 (桜通大津)》



このエリアのイメージはにぎわいと洗練となり、格調・みずみずしさの要素を持つ。

プロットワードはにぎやかな (にぎわい)・都会的な (洗練)・静かな (洗練)・おちつい (格調)・安全な (みずみずしさ)・楽しい (にぎわい)・明るい (にぎわい)がある。

WARM の傾向が強く、WARM /COOL 共に SOFT の傾向が伺える。HARD 傾向も伺え、いろんな要素がある。清色的要素と濁色的要素が混在する。

(3) アンケート調査まとめ

アンケート調査のまとめとして、これまで行ってきたアンケート調査の結果を街の好感度、街の色、街の雰囲気という視点から、人の感情と色とを関連付けて、それぞれの街（エリア）において維持していくところや改善していくところを考えていく。

エリア1（金山）のまとめ

この街は好感度項目では「嫌い（どちらかと言えば嫌いを含む）」の回答が7エリア中最も多く、「好き（どちらかと言えばを含む）」は7エリア中最も少ない。金山はターミナル駅のためか、歩道上の迷惑駐輪自転車が多く街が整理されておらず雑然とした印象が強い。繁華街の特徴もあり治安に対し不安を感じる声が多くあった。街が雑然としていることは不安を感じさせる要因になっているのではないかと考えられる。緑については特徴的で「木が多い」と「緑が少ない」という、相反する回答があった。これを基に街をみると金山交差点以北には街路樹があり市民会館・古沢公園など緑は感じられるが、金山交差点から金山橋間では東側の歩道には街路樹がないことわかった。

今の金山エリアの色を代表するのは〔だいだい〕であり、イメージスケールのプロットから導き出された鮮やかな暖色系という結果に一致する。今後のこの街が改善された時にイメージする色では〔緑〕・〔青〕という結果であった。

アンケート調査の結果として、賑やかさを残しつつも安心して過ごせる洗練された街で利便性が兼ね備わった街になればという方向性が伺える。

エリア2（東別院）のまとめ

この街の好感度項目ではエリア1（金山）に次いで悪い。しかし、「嫌い（どちらかと言えば嫌いを含む）」と回答した人で街の雰囲気を良いと評価している回答もある。この街を歩く多くの人がこの街を目的に来ることは少ない。この街の良さには緑が多いことや公園が多いことを回答する人が多くあった。下茶屋公園や東別院など公園・神社仏閣などが多く落ち着きのある印象も良い印象を与えていた。逆に静かすぎて人気がなく寂しいなどの印象もありカフェ、コンビニなどがあればという回答もある。

今の東別院エリアを代表する色は〔緑〕であった。イメージスケールでも濁色的寒色系の静かさに多くのプロットがあり、緑という結果に関連付ける事ができる。また、色相影響は少なく灰味のおちつい色にも多くのプロットがある。今後のこの街が改善された時にイメージする色も〔緑〕という結果になった。

アンケート結果からは、緑はこのエリアには欠かせないアイテムであり、緑をベースに落ち着きのある雰囲気を守りながらも、寂しい街の印象を払拭し人を感じる街になればという方向性が伺える。

エリア3（大須）のまとめ

この街は好感度では「普通」と回答した人が7エリア中最も少なく、好きと嫌いがはつきり分かれる街であるという結果が伺える。かつてはお年寄りの街という印象が強かったが、パソコンショップや古着ショップなどが増え若者が集まってきた。今では外国籍の人も増え国際色豊かな街になっている。アンケートではそういった部分も多く回答され「ふるい町並み」「個性豊か、いろんな人がいる」「多国籍」といったものである。

今の街を代表する色は〔赤〕であった。イメージスケールでも鮮やかな暖色系の位置へのプロットが多くあり、街の色とイメージスケールから導き出された色の範囲が一致している。また、濁色的暖色系へのプロットも多く、街の色に〔茶〕が選ばれていたのは古い街のイメージと重なるところもある。今後のこの街が改善された時にイメージする色は〔赤〕であった。現在も今後も〔赤〕が大須エリアを象徴する色であるようだ。この大須エリアほど〔緑〕を期待する声が少ないエリアは珍しい。

アンケート結果からは、多少の雰囲気もプラスに考えられるのが特徴で、都会的な繁華街ではなく下町的商店街の賑やかさを感じる街になればという方向性が伺える。

エリア4（矢場町）のまとめ

この矢場町エリアは好感度では「普通」が最も多かった。ここは広小路・大津通都市景観形成地区に指定されているが、大津通りの東側と西側の印象が大きく違う。東側は大型店舗が並び、西側は小規模店舗が並び歩道も通行の不便を感じるのはA型看板や置き看板が多いのがわかる。「賑わっている」「ごちゃごちゃしている」の回答で、ごちゃごちゃ感は街が整然としていない様子を表している。以外な結果としては東別院では嫌いの原因となった高速道路がここでは高架下のスペースに対して印象がよかつたことである。

今の街を代表する色は〔灰〕であった。僅少さで〔色を感じない〕という回答であり、色味を感じないという特徴が見える。しかし、鮮やかな色の袖看板などが多く見受けられ外見は鮮やかな印象である。イメージスケールのプロットから導き出された清色的鮮やかな暖色系という結果とは大きな違いが見られる。濁色的暖色系の範囲にもプロットが見られ、お寺や古いものがあり今後のこの街が改善された時にイメージする色では〔緑〕という結果であった。

アンケート結果からは、洗練されたショップが並ぶ賑やかな街の印象は強く、それが街の色には結びついていないのが現状である。都会的な部分と古風な部分を併せ持ち、緑を増やす事で両者を街としてなじませて共存させ、ゆったりとした街になればという方向性が伺える。

エリア5（栄南）のまとめ

ここは広小路・大津通都市景観形成地区に指定されている中心的な街である。その効果もあってかこの街の好感度は7エリア中一番良く、積極的に好き（どちらかと言えば好きを含まない）と答えた人は7エリア中突出した結果となった。特に女性には圧倒的支持を得ている街であり、男性との差の大きさが見えてくる。この栄南エリアは大きな商業施設が建ち並ぶ街ではあるが街路樹が大きく存在感があるためか、賑わいの中にものんびりとした印象を持たれている。

今の街を代表する色は〔緑〕であったが、イメージスケールの結果からは清色的な暖色系にプロットが多くみられ、賑やかさの印象の強さが伺えるが、清色的な寒色系の位置へのプロットも多く心地よさを感じられているのか。いずれにしろ清色的な澄んだイメージが強く出ている。今後のこの街が改善された時にイメージする色でも〔緑〕が特に多く回答された。

アンケート結果からは、緑はこのエリアでは有れば良いというものではなく、なくてはならないものとなっている。賑やかで便利な楽しい街というだけではなく、ユニバーサルデザインの観点からもゆとりのある成熟した街なればという方向性が伺える。

エリア6（栄北）のまとめ

この栄北エリアの一部（錦三丁目）は都市景観協定の締結地区であり、南側は大津通都市景観形成地区に指定されている。しかし、好感度では「普通」という回答が東別院と同様に最も多く、また栄南とは逆転して男女別では男性に好まれる傾向が強く出た。この結果は歓楽街という夜の街の印象が強く影響しているのであろうか。栄北エリアは他の6エリアと違い、いろいろな顔を持つことがわかる。錦通の交差点で4分割するとそれぞれ違った特徴をもっている。

今の街を代表する色は〔灰〕であった。イメージスケールでは鮮やかな暖色系にプロットされており、はなやかな印象が持たれている。清色的寒色系の若々しさにもプロットがある。部分では濁色的の都会的な部分にプロットが見られる。今後のこの街が改善された時にイメージする色は〔だいだい〕・〔緑〕という結果で、〔灰〕は0件になった。

暖色系の代表色でもある〔だいだい〕では親しみやすさや明るさをあらわし、「どんより」「込み合っている」と回答をしていた。

アンケート結果からは、現在の栄北エリアは歓楽街という特徴を持っているが、それゆえゴミゴミ感を払拭した賑やかさを感じ、整理された安全で親しみのある街になればという方向性が伺える。

エリア7（桜通大津）のまとめ

桜通大津エリアは栄南エリアと同様に好感度の高い結果がでている。「嫌い（どちらかと言えば嫌いを含む）」という回答が7エリア中最も少ないエリアである。この桜通大津エリアはオフィス街という印象が強いが、東側にあるセントラルパークや久屋大通の緑の印象を回答する人も多くいた。また、大津通の街路樹は印象が薄いが、桜通の街路樹の大きさや多さのインパクトは大きい。大型商業施設が並ぶ栄南エリアとオフィス街を中心とした桜通大津では街の性質は違うが、どちらも好感度が高くバリアフリーなどユニバーサルデザインを取り入れた街づくりを期待する声を聞くことができた。

今の街を代表する色は〔灰〕であるが、イメージスケールでは鮮やかな暖色系のやや柔らかな色と寒色系寄り中間にプロットが多く単色イメージでは緑系が多く存在する位置である。今の色で〔灰〕の次に多かった〔緑〕に一致するところである。今後のこの街が改善された時にイメージする色には〔緑〕であった。

アンケート結果からは現状への不満は少なく、整然としたビジネス街に緑を増やし、ユニバーサルな観点からも人にやさしい、そして高齢者にも居心地のよい街になればという方向性が伺える。

3-4 調査・分析のまとめ

「まちのいろ」を探るべく実施した2つの調査について、以下の通り整理する。

(1) 「まちのいろ」は“見えるいろ”と“見えないいろ”

市民が「まちのいろ」を感じる理由の約2/3を<活気がある><落ち着く>などの“街が持つ雰囲気”が占めていた。また<金シャチ>や<ドラゴンズ>などの“モノの色”であっても、その場の色ではなく、名古屋を象徴するもののイメージカラーで回答する意見が見受けられた。

「まちのいろ」は“見えるいろ”（モノの色）だけでなく、その街を象徴するものや、街が持つ雰囲気“見えないいろ”（街の文化）からイメージされるものであることが分かる。

(2) “見えるいろ”と“見えないいろ”的関連性

各エリアの景観の好感度については栄南、桜通大津が高く6割の人が好きと回答している。逆に好感度の低かったエリアは金山となり、要因となっているマイナスイメージ「統一感のなさ」は測色調査の結果からも伺える。

東別院については現在のイメージ色及び理想のイメージ色とともに「緑」であるにも関わらず好感度が低い。理由として、「騒々しい」などまちの雰囲気と矛盾している要因が挙げられていることなどから、調査ポ

エリア別「好き」と「どちらかといえれば好き」と回答した人の比率		
順位	エリア名	好きの比率
1	栄南	65%
2	桜通大津	64%
3	大須	62%
4	栄北	56%
5	矢場町	52%
6	東別院	44%
7	金山	30%

イントを高速高架下としたことが大きく影響しているのではないかと考えられる。

のことから、“見えないいろ”を大きく阻害する“見えるいろ”について市民は嫌悪感を抱くのではないかと推測される。

矢場町においては同じ高架下空間であるにもかかわらず、そのイメージが肯定的に受け止められている結果や、大須エリアでは高彩度の看板が多いといった測色調査結果にも拘らず好感度が比較的高い傾向が伺えることからも“見えないいろ”と“見えるいろ”的乖離や融合が「まちのいろ」に大きく影響を与えていていることを裏付けている。

(3) まとめ～「まちのいろ」を感じること～

2つの調査を通して、単純に測色の結果から「まちのいろ」を見出すことはできないものと考える。「まちのいろ」は景観と文化から構成されており、まちによって大きく異なる。当然「まちのいろ」がないと感じられる場所も存在するが、それ

は必ずしもマイナスではなく、景観と文化ともにバランスのとれたニュートラルな状態という場合もあるのではないだろうか。むしろマイナスなのはその街の“見えるいろ”と“見えないいろ”が乖離していることであって、「まちのいろ」の整合性が取れていないことである。

(4) 今後にむけて

今後の景観形成においては「まちのいろ」の“見えないいろ”を読み解き、“見えるいろ”的ルールを決めて「まちのいろ」のバランスを保つことが重要であると考える。

「まちのいろ」は画一的に決められるものではないため、広範囲の画一的なルール設定が結果的に「まちのいろ」をなくしていく要因となる可能性があることが今後の課題と考えられる。

4-1. 景観への提案

(1) いろ（色彩・特徴・味わい）のあるまちとは

景観を構成する“見えるいろ”とそのまちの文化にあつた“見えないいろ”両者のバランスが整い、色彩に彩られた街を私たちは良いまちと考える。

“いろのあるまち”は、住む人や訪れた人の心を潤わせ、愛着を持たせてくれる。

(2) いろのあるまちへ

ここでは“いろのあるまち”に変えていくための手法として以下の三つを提案する。

① “見えないいろ”を読み解く

その街に住む市民の声を聞くことや、歴史や文化を探ることで、その街の持つ“見えないいろ”を読み解き、“見えるいろ”とともに検討し、街のカラーコンセプト（エリアカラー）を導き出す。

② “見えるいろ”で表現する ⇒手法提案「4-2. エリアカラーを表現する」参照

⇒手法提案「4-3. エリアカラーをよりよく見せるには」参照

景観の色には、街の基調色としてなじませた方がいいものと、アクセントとして目立たせた方がいいものがある。海外の街並みが美しいのは、そうした色の役割がきちんと守られているからである。建物の屋根や外壁などは、地域の風土や伝統に合った色で統一され、ウィンドウディスプレイや季節の花など変化するもので色のアクセントをつけている。

日本の街並みも色彩のルールに従い、地域全体が美しく育つように考えていくば、より良い景観になる。建物や道路、看板の色を抑えれば、生活に欠くことのできない公共サインなどの情報や、生活に潤いや季節感を与えてくれる花の色がはっきりと感じられるようなる。

	馴染ませる色	←	→	目立たせる色
分類	低彩度	中彩度	高彩度	
景観要素の例	建物の屋根・外壁 歩道・車道 歩道橋 ストリートファニチャー 看板の地色（文字色）	樹木の緑 建物の1階部分のアクセント モニュメント 看板の文字色（地色）	変化するもの 一時的なもの 小さな面積のもの アクセントとなるもの 動的なもの	交通標識 公共サイン 祭事の色 花 店舗のディスプレイ

③ “いろ” の価値を引き出す

“見えるいろ”をより良く表現し、魅力あるまちづくりをするには、色の秩序を保ち、エリアにあった推奨色を打ち出すとともに、市民に豊かな色彩感覚を育てていくような働きがけが大切である。

4-2. エリアカラーを表現する（表現手法の一例）

本項では4-1. (2)②にて提案した“見えるいろで表現する”手法を研究対象エリアである大津通りにおいて実践するための提案を行う。

ここではエリアカラーを表現するための一手法として「植栽」を用いることとした。

⇒次頁『大津通りにおける植栽提案』（エリアカラーを表現するための提案）

4-3. エリアカラーをよりよく見せるには（景観要素のコントロール手法を提案）

季節の草花など、街のアクセントをより良く魅せるために、街の景観要素となる建物・屋外広告物・道路の色や、植栽のあり方について具体的に提言していく。⇒P.60

- ⇒『(1) 建物』 →①「周囲の建物との調和について」
②「高彩度の壁面について」
③「名古屋市における建物の色彩基準について」
- ⇒『(2) 屋外広告物』 →①「安全性について」
②「大きさについて」
③「色やデザインについて」
- ⇒『(3) 道路景観』 →①「路面のカラー舗装について」
②「道路付属物（歩道橋等）について」
- ⇒『(4) 植栽』 →①「街路樹について」
②「歩道のコンテナ・ハンギングバスケットについて」
③「花壇について」
④「民有地の植栽について」
⑤「植栽提案資料」

『大津通りにおける植栽提案』（エリアカラーを表現するための提案）

エリアカラーの提案

→草花の色別具体例についてはP82.4-3(4)⑤植栽提案資料 参照

◆ ピンク系の植物

桜通にふさわしい“しだれ桜”の木がシンボル的に植えられているので、花色を〔ピンク〕・〔白〕・〔赤〕を用い、ピンク系の植栽とし、桜通大津らしさを演出する。

◆ 黄緑、白斑の植物、シルバープランツ

矢場町から桜通大津間は、調査結果から「賑わい」の中にも都会的な洗練されたイメージが感じられている。黄緑や白系の葉物（グリーン）で、都会らしい洗練された雰囲気をプラスする。

◆ 黄・橙色系の植物

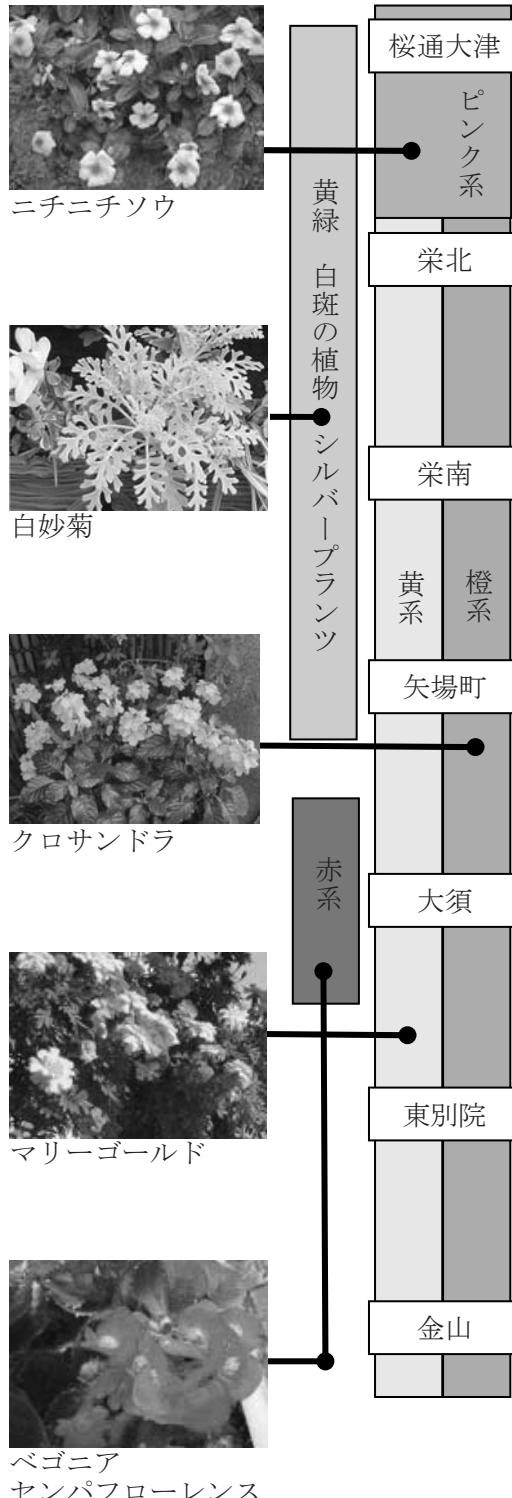
イメージスケール分析で東別院以外は、すべて、「賑わい」がエリアイメージとなった。そして、この街を何色にしたいか？の問には、緑が最も多かったが、緑以外では橙と黄がどのエリアでも上位に上がり、大津通全体の花色は橙と黄を共通色とする。

矢場町の高架下の「はなとも」花活動の例に見られるように、治安の良い街を作ることもできる。これを雑多な印象の金山に取り入れ、整然とした街の印象にしたい。

東別院は、もの静かで寂しいという印象があり、楽しく明るい雰囲気作りのため黄や橙の花色で「賑わい」を演出したい。

◆ 赤系の植物

大須は、調査結果により赤の印象が強いので、ベースとなる橙、黄に加えて赤系の花を特長としてプラスする。



※記載した草花の種類は代表例

(1) 建物

建物は都市景観の中で大きな面積を占めるため、景観に及ぼす影響が非常に大きく、様式やデザイン、規模や形状、高さ、色、素材などにより、街並みの印象は随分変わる。

美しい街並みを形成するには、街の基調色として景観に穏やかに馴染ませることが大切である。気になる事例を探り上げながら、建物のあり方について提言する。

(1) ① 周囲の建物との調和について

課題A ⇒ 建物の色相がバラバラで統一感がない（エリア1）

エリア1（金山）がアンケートで最も好感度が低い一因として、建物の色や形状、高さなどがバラバラでまとまりがないことが挙げられる。測色結果や写真1、2からもわかるように、一般的には少ない寒色系の建物が多い。彩度の高い暖色系の建物も目立つため、色相にまとまりがなく騒々しくなっている。

平均的な建物（高明度・低彩度のグレイッシュ系）に比べ、明度が低く彩度が高いため、色のインパクトが強くなり、個々の建物の個性が一層強調される。自己主張が強い建物がバラバラに混在することにより、威圧感や雑然とした印象を受ける。



写真1 エリア1



写真2 エリア1

提案A-① ⇒ 建物の色相は10YRを中心とした暖色系にする

街並みの色彩には共通性や連続性をもたせることが大切である。

そのためには昔から建物の外壁に慣例的に用いられている色に揃えるとよい。日本の建物の外壁色に最も多いのは、10YRを中心とした暖色系であるが、大津通で行った測色調査でも同じだった。これらの色は私たちの心を落ち着かせてくれる。

写真3は平成14年に名古屋市都市景観賞を受賞したリアルスタイルである。ベージュの外壁は街路樹の背景として緑を美しく魅せる。写真4は現地踏査後のワークショップ(P10)で「古くて落ち着きのある建物」として良い印象に挙がっている。



写真3 エリア2



写真4 エリア3

提案A-② ⇒ 建物の高さを揃える

色を揃えるのも重要だが、高さを揃えることで景観は更に良くなる。

エリア2（東別院）の一角に、木造2階建ての建物が並び、レトロな雰囲気を感じさせるところがある。低層で高さが揃っているため見通しが良く、圧迫感を感じさせない。市電が通っていた頃の大津通は2階建住居が多く、港や熱田で打ち上げられる花火が見られ、街には風情や情緒があふれていた。



写真5 エリア2



写真6 エリア2

(1) ② 高彩度の壁面について

課題A ⇒ 壁面を原色で彩色している（エリア1、エリア3）

色みの強い建物が多いエリア1の中でも、パチンコ屋の外壁の色は特に際立っている（写真7）。最も鮮やかな原色（彩度14）を広範囲に塗り、周囲の景観を著しく損ねている。



写真7 エリア1

エリア3も建物の外壁を鮮やかな色で彩色しているものが多い。写真8は、明るいグレーの壁面にオレンジと黄色でボーダーラインを描き、広告の色とあわせカラーコーディネートしているが、鮮やかな色の割合が多いことと、原色のラインが強いコントラストを放つことにより、非常にけばけばしく感じる。

周囲から突出した色を使って自分の建物を目立たせようとするケースはよく見られるが、景観はまちの財産であるということを忘れてはならない。

周囲との調和を考えず好き勝手に色を選べば、落ち着きのない雑然とした景観になり快適性が失われる。



写真8 エリア3

提案A-① ⇒ 壁面を2色以上で配色する場合も低彩度にする

建物の外壁の色は、街の基調色として、できるだけ落ち着いた色であるのが望ましい。自然景観では大きな面積を占める大地の色は、土や砂や岩など落ち着いた低彩度色である。それらの色は木や花などの背景となり、移り行く季節の色を美しく魅せる。街の街路樹は春に芽吹くときの明るい黄緑から、夏に向かって次第に濃くなりグリーン系に移行する。秋には鮮やかな黄金色やもみじ色に染まり、やがて枯れ葉となって散っていく。背景となる建物の外装色は、自然の色の変化を妨げないためにもその彩度より低くするのが基本である。2色以上で配色する場合もこのことに注意し、全ての色を低彩度にするとよい。

提案A-② ⇒ 鮮やかな色は変化を楽しむところで用いる

鮮やかな色は周囲に与える影響が強いため、使う際には十分な注意が必要である。大きな面積で使用すれば騒々しくなるが、アクセントとして小面積に用いれば、活気が得られる。ウィンドウディスプレイやオーニングなど変化を演出する部分に上手く取り入れると、街は華やぎ、楽しくなる。統一感ある街並みの中で、少量を適切に用いることで、まちの個性を表現することや活力を生み出すことができる。

(1) ③ 名古屋市における建物の色彩基準について

課題A ⇒ 「大規模建築物」と「都市景観形成地区」以外は外壁の色は自由自在である

名古屋市では、建物を建てるときや外観の色彩変更をする際に届出を義務付けているが、対象となる建物は、「大規模建築物」(高さが31mを超えるか、延べ面積が10,000m²を超えるもの)と、「都市景観形成地区内における建築物」だけである。

これらに該当しないほとんどの建物は色彩を自由に決められる。

提案A ⇒ 外壁色としてふさわしくない色は用いないよう誘導する

大規模建築物でなくても、色の使い方によっては、周囲の景観を著しく損ねるため、色彩のルールを定め、突出した色を使わせないようにすることが大切である。

課題B ⇒ 「大規模建築物」の彩度の基準がゆるい

表1 大規模建築物の形成基準

【外観】

1. 外壁の色彩は、低彩度色（JIS Z 8721に定める彩度で、6以下を目途）を使用する。
ただし、以下の場合は、この限りでない。
 - ・アクセントとして壁面ごとに10%以下の面積で使用する場合
 - ・自然素材に彩色を施さず使用する場合
2. 外壁に複数の色を使用する場合は、色の組み合わせや配色に注意する。

提案B ⇒ 彩度の基準を色相ごとに設けるとよい

彩度6以下を目指して低彩度色としているが、建物の色として考えた場合、彩度6は高彩度に値する。煉瓦の色（彩度6）を基準とすれば、R、YR系などの暖色系はまだよいが、それ以外の色相も一律同じにするのは問題がある。

特に外壁の慣例色ではない寒色系は注意を要する。また、JISの彩度は数値が同じでも寒色系の方が鮮やかに見えるため、色相ごとに取り決める必要がある。

他都市のケースを見ると、R、YR系は彩度6以下、Y系は彩度4以下、その他は彩度2以下というのが一般的である。

(2) 屋外広告物

屋外広告物は、建物と同様、街並みを形成する重要な景観要素である。

有用な情報を与えたり、活気や賑わいを演出するなど、その役割は大きいが、景観に悪影響を及ぼし、安全で快適な生活を妨げているものも見られる。

気になる事例を紹介しながら、街の品格を高め、名古屋の魅力が伝わるような屋外広告物のあり方について提言する。

(2) ① 安全性について

課題A ⇒ 公共のサインが目立たない

広告・看板類に彩度の高い鮮やかな色を使うことで、小さな交通標識や公共サインなどが目立たず、重要な情報が伝わりにくくなっている。

名古屋市屋外広告物条例では、信号機や道路標識などに用いられるJIS安全色と類似したものを禁止広告物に挙げられているが、街中では多く見かける。



写真1 エリア2



写真2 エリア1

提案A ⇒ 安全色の近くでは鮮やかな色を禁止する

人々が安全に過ごせるよう、JISの安全色に類似する高彩度色を大きな広告物の地色には使用しないなどの取り決めが必要である。

表1 JIS安全色のマンセル値と使用箇所

色彩	マンセル値	使用箇所
赤	7.5R 4/15	防火、禁止、停止、高度の危険
黄	2.5Y 8/14	注意
緑	10G 4/10	安全、避難、衛生・救護、進行
青	2.5PB 3.5/10	指示、用心

(全8色のうち看板の色で特に問題となる4色を表示。他に黄赤、赤紫、白、黒がある。)

(2) ② 大きさについて

課題A ⇒ 巨大な広告物

建物と変わらぬ巨大な広告物は存在そのものが威圧感を与え、良好な景観を阻害する。色ばかりでなく文字が拡大されることにより、街並みの中で強い違和感を感じる。写真3や写真8は、キャッチフレーズまでもが他の看板の文字より大きい。写真4は、色彩には問題ないが周囲の建物に比べ突出して高いため、街並みの中で浮き立っている。ステンレスで縦のラインを強調しているのも脅威を感じる。



提案A-① ⇒ 広告物の大きさの制限をする

街並み景観の中で、屋外広告物は適度な大きさでなければならない。広告物の数や大きさ、高さなどを定めることで、街の景観は大きく変わる。

提案A-② ⇒ 原色の使用面積は最小限にとどめる

巨大な広告塔や看板は、建物と同様、大きな面積を占めるため、基調色として落ち着いた色でなければならない。
派手な高彩度色は、小規模な広告物にセンスよく用いれば、活気や賑わいを演出できるが大きな面積で使用すると、大変うるさく感じる。

提案A-③ ⇒ ランドマークとなるような視覚的クオリティの高い広告物を考える

派手な色や大きさに依存した広告物は、注目はされるが好感度が低い。
広告物は、目立つことより好感をもってもらうことが大切である。
良好な街並み形成に貢献する優れたデザインが、企業のイメージアップになり顧客増につながる。ラスベガスでは広告をアートと捉え、巨大な看板がランドマークとして街の顔になっている。

(2) ③ 色やデザインについて

課題A ⇒ 質の低い壁面広告

建物の外壁全体を広告物のように扱い、鮮やかな原色を用いたり、キャッチコピーや商品名を入れたものが多々見られるが、外壁が広告チラシ化することで周囲の景観を著しく阻害する。周囲の人が不快に感じるようなケバケバしい色や奇異な配色は、快適な生活を妨げるだけでなく、街の品格を下げる。

魅力ある景観形成のためには、氾濫する広告物の色彩規制が不可欠である。



写真5 エリア2



写真6 エリア4



写真7 エリア6～7



写真8 エリア3

提案A-① ⇒ 建物と一体化した優れたデザイン

写真9～14は、建物の色と看板が一体化し、上質で洗練されたデザインである。

ラグジュアリーなブランドショップはほとんどが建物と一体化しており、重厚感や高級感を生み出している。建物の色と調和させることで、街は落ち着き、品格が高まる。

突き出し広告の地色も外壁の色に合わせることで、建物との一体感が得られる。(写真12)



写真9 エリア5

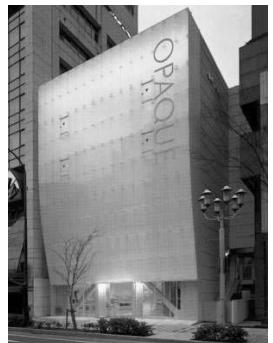


写真10 エリア5



写真11 エリア6



写真12 エリア1～2



写真13 エリア1～2



写真14 エリア6～7

提案A-② ⇒ 白地の広告物

白地の看板は空や建物の色に馴染み、高い位置にあってもうるさく感じられない。特に屋上広告や突き出し広告は、背景の空に溶け込み、眺望を妨げない白地は好ましい。広告物の地色にコーポレートカラーなど鮮やかな色を用いると（写真15）、景観を損ねることになりかねないが、配色を反転し、文字やロゴマークに用いると（写真16、17）、色彩のイメージを保ちながら、周囲との対比を和らげることができる。

都市景観形成地区など景観に配慮された地域では、反転した広告物が多く見られる。



写真15



写真16



写真17

提案A-③ ⇒ トーンを抑えた広告物 (低彩度～中彩度の奨励)

季節感ある花を目立たせたり、街路樹など生きた緑（一般的に彩度6以下。写真18, 19）が映えるよう、広告物の地色は彩度6以下にするのが望ましい。



写真18 右の葉を測色

写真19

彩度を抑えた看板は、環境保護への姿勢と景観への配慮が感じられ、企業のイメージアップにつながっている。

文字色を白にすることで地色との間にコントラストができ、視認性も高まる。



写真20 エリア4



写真21 エリア7



写真22 エリア4

提案A-④ ⇒ 地域の特性にあったコンセプトを作り、広告物の方向性を定める

広告景観に優れた拉斯ベガスでは、地域の特性にあわせゾーニングを行い、それぞれのゾーンごとに広告の方向性を定め、賑わいを演出しながらも街の美観を保っている。

名古屋でも地域ルールを作り、広告・看板の意匠をコントロールしていくと街が楽しくもっと魅力的になる。

写真23, 24のように、地域の個性やお店の特色を生かした良好な看板が増えるとよい。



写真23 エリア4



写真24 エリア4



写真25 エリア4

MCDecaux の広告パネル付きバスシェルター（写真25）は、地域性を考慮し、都市の表情にあわせたデザインやカラーを提案し、街に美観とアクセントを与えていている。

都市景観の美化に配慮された質の高い広告は、多くの人から高い支持を受けている。

(3) 道路景観

道路は、まちの基調色として周囲の景観に馴染むよう、できるだけ低彩度にするのが望ましい。しかし、鮮やかなカラー舗装により季節の草花や交通標識より目立っているケースがある。ここでは路面のカラー舗装、および道路付属物の色について提言する。

(3) ① 路面のカラー舗装について

<A. 歩道>

課題A ⇒ 鮮やかな緑色のカラー舗装

エリア1(金山)からエリア2(東別院)へ行く途中、西側に抜ける歩道一面に鮮やかな緑色のカラー舗装が施されている。伏見通りに突き当たるまで続いているが、スーパーの駐輪場で塗られるような鮮やかな緑色は、街並みの中で浮き立っており、歩いていても不快である。道路は主役ではない。主役は通り行く人であり、四季変化する樹木や花などである。周囲の景観との調和を考えず、歩道空間の整備を鮮やかな色彩でアピールするのは好ましくない。



写真1 エリア1周辺 緑色のカラー舗装



写真2 エリア3周辺 弁柄舗装

提案A ⇒ カラー舗装にするなら弁柄舗装がよい

鮮やかな色は、交通規制など必要なポイントでラインとして用いるのは良いが、広い範囲でカラー舗装するのは、心理的にも景観的にも好ましくない。

道路はもともと土や石であり、街の基調色として、通り行く人々やウィンドウディスプレイ、植栽の美しさなどを引き立たせる背景の役割を担っている。土の色はその土地のカラーであり、街並みの景観と自然に調和する。交差点などに塗られる弁柄舗装は、自然の赤土の色に近く、景観に良く馴染む。カラー舗装をするなら、弁柄舗装が好ましい。

< B. 車道 >

課題 A ⇒ 国道の鮮烈なカラー舗装

車道に塗られた真っ赤や真っ青のカラー舗装が大きな問題になっている。

国土交通省と警察庁が安全対策のため行っているものだが、きわめて彩度の高いカラー舗装のため道路ばかりが目立ち、信号機や前方の車への注意がそがれてしまう。危険性が伴ううえに、良好な景観を著しく阻害している。国は景観法を施行し、建物や看板の色規制を可能にしながら、一方で安全対策として、自らが景観を損ねる行為をしているのには矛盾を感じる。



写真3 赤や青のカラー舗装



写真4 赤や青のカラー舗装

提案 A ⇒ 彩度を落すか、ラインにする

ドライバーに注意喚起をするために、ここまで鮮やかな色にする必要はない。彩度を下げ、色みを落ち着かせるか、ラインにするとよい。

<C. 自転車専用通行帯>

課題A ⇒ 自転車専用通行帯の鮮烈な青色舗装

国土交通省が推奨する「自転車専用通行帯」における鮮やかな青色舗装が、景観を著しく阻害している。

柵や縁石などで車道と分離される「自転車道」(写真5左)と異なり、「自転車専用通行帯」(写真5右)は車道と分離されないため、カラー舗装などでドライバーに注意喚起しなければならないが、これほど鮮烈な色にする必要はない。安全性を確保しながらも景観を損ねないように工夫することが大切である。

A 自転車道



物理的に分離されている

B 自転車専用通行帯(自転車レーン)



物理的に分離されていない

写真5 渋谷区幡ヶ谷地区における計画（国土交通省HPより）

名古屋でも近く「自転車道」が整備されるが、物理的に分離され安全性が確保されるにもかかわらず、「自転車専用通行帯」と同じ鮮やかな青色のカラー舗装がされるのに危機感を感じている。モデル地区だからといって、青色に合わせるのは景観に対する意識が低すぎる。

提案A ⇒ 地道色にする

自然の道路の色とかけ離れた鮮やかな青は、色相にも彩度にも問題がある。物理的に分離される「自転車道」には色をつける必要はないが、つけるとしたら弁柄色か地道色がほしい。

(3) ②道路付属物 (歩道橋等)について

照明灯、防護柵、歩道橋、変圧器など道路付属物の色がバラバラに配されることで、道路景観が不調和になるケースも多い。

< A. 歩道橋 >

課題A ⇒ 比較的彩度の高いブルーの歩道橋

調査地にはブルー系の歩道橋が二つあるが、ブルーは周りの色と反対色であり、またアクセントカラー（2.5PB5/8）が鮮やかすぎるため周辺環境に馴染まず、浮き立っている。空の色より鮮やかなブルーは、晴天日の青空をどんよりとして見せる。

提案A ⇒ 彩度を下げるか o r 10YRを中心とした暖色系にする

名古屋市ではデザイン博の後、都市景観の向上を目指すため、歩道橋の色マニュアルが作られた。ゾーンや周辺環境に合わせて塗装色を選択できるようになっているが、20年近く経過しているため、環境や色に対する考え方方が変わってきていると思われる。

この場合は、ブルーの彩度を下げるか、ベージュ系にするとよい。

ベージュは建物の平均色相 10YR と同系色のため、周辺の景観によく馴染む。

一本西側の伏見通りはベージュ系であり、周辺の建物とも調和している。

色を決める場合は、計画地周辺の測色調査を行い、立面図に着色して数種類の配色案の中から、周りの色と調和するかどうか検討する必要がある。



写真6 伏見通 ベージュの歩道橋



写真7 大津通 鮮やかなブルーの歩道橋

<B. 防護柵・照明灯等のポール>

国土交通省が策定した「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」には、10YR2/1、10YR6/1、10YR3/0.2 の3色が推奨されている。10YR系の色彩は日本の建築外装色の基調になっており都市景観の中で自然に溶け込む。防護柵に限らず照明灯や信号等、通信鉄塔など道路付属物の標準色を10YRとする傾向がある。群馬県高崎市など歩道橋の色彩を10YRと決めて塗りなおす都市も出てきている。

<C. 変圧器>

中部電力の変圧器の標準色は、防護柵の推奨カラーと同じ、10YR6/1のベージュである。大津通もこの色がメインだが、エリア6～7にかけての通りは濃紺で都会的な雰囲気が感じられる。ベージュ系でなくても彩度が抑えてあり、通りの雰囲気に合っていれば、アクセントとして街に賑わいや潤いをもたらす。

吹上から桜本町1丁目までの通りは、街のコンセプトにあわせたシンボルカラーがあり、変圧器や歩道橋が街のアクセントとして歩く人を楽しませてくれる。



写真8 エリアカラーに合わせた
歩道橋と変圧器



写真9 植栽の色ともコーディネートされている

<D. ネットフェンス>

アンケートの回答に、ブルーグリーンのネットの色がよくないという意見があった。ブルーグリーンはネットフェンスの定番色になっているが、自然の緑より青みが強く、鮮やかな色であるため好ましくない。最近はメッシュフェンスが多くなり、ダークブラウンが使われるようになってきたが、ネットフェンスの色も周辺の色を調べて決めることが大切である。自然界の移り変わる色を美しく見せるために低彩度の色が好ましい。

(4) 植栽

街の色について市民にアンケートをした。「この街を色で言うと何色か?」、また、現状の不足、不満を解消したら「今後、何色になるか、何色にしたいか?」その回答の中に、現状も今後も「緑」という色の回答が非常に多かった。

街には「緑」が大切な色や要素であると、思われている証であろう。

都会の植栽を推奨することは、ビルの連なる殺伐とした灰色の印象の中に潤いが生まれ、道行く人々の心を和ませる。また、メンテナンスの行き届いた植栽は、その街の文化的な側面の高さを無言のまま人々へ伝えている。このように、都会における植栽は、心理的、文化的にもとても重要な景観要素である。

2010年は、名古屋市でCOP10も開催され、ますます環境への関心も高まることであろう、そして名古屋を訪れる海外および国内の人々から、名古屋の文化的な評価も含め、植栽には、今以上に気遣いをすべきところである。

本項では大津通りの魅力をより高める為の植栽に関し、アンケート調査、現地踏査にもとづき、具体的な提案を行う。

(4) ①街路樹について

課題A : 街路樹が少ない

全体的に街路樹が少ない。大きな街路樹が連なる通りは、そのまちの伝統や威厳を感じるが、エリア2(東別院)、エリア4(矢場町)、エリア5(栄南)以外は大津通の街路樹は少なく、殺伐とした印象を受ける。特に金山橋近辺は街路樹がほとんどなく、エリア6(栄北)以北の街路樹は小さく目立たず、非常に殺風景な光景である。



写真1 緑のない金山橋付近

提案A-① : 奨励する樹種

● 高木について

「名古屋市みどりの年報」により、大津通りのある中区の高木の樹種ごとの数の変遷を、過去20年間追ってみた。上位に、トウカエデ、イチョウ、アオギリがあり、ここ20年間、この3種が3位までを占めている。中でもイチョウは10年毎に1、2、1位と、トウカエデは3、2、1位と変わる。これらの木はこの地域の環境に合い、育ちやすい。強剪定に耐え、樹勢も強く、大気汚染にも強い。さらに、春の新緑、夏の緑、秋の紅葉と四季の変化も美しい。歩道の高木にトウカエデ、イチョウは推奨したい樹種である。

現在の大津通りの高木はマンサク科フウ属のアメリカフウが多い。樹勢も良く、樹形・幹及び葉もきれいで、紅葉も見事である。また、矢場町～栄間はケヤキで、新緑が美しい。

しかし、最近の温暖化のせいか、この、アメリカフウ、ケヤキも紅葉の時期、落葉の時期がずれきっている。しっかり落葉してこそ次年の新緑を期待出来るのである。今後の樹木の様子を観察し続ける必要があると考えられる。

● 花の咲く樹

また、同様に市内全体では、ハナミズキ・ヤマボウシ・サルスベリ・ヒトツバタゴ・ソメイヨシノ・サトザクラなど、花の咲く樹が増加している。これらは、暑さにも強く、大気汚染にも耐える。大阪市が盛んに桜を植えて市を活性させていることを思うと、名古屋市のあちらこちらで、これらの花の並木をふやしていくことも奨励したい。



写真2 ハナミズキ



写真3 サルスベリ

● 緑のライン（歩道の中木、低木、中央分離帯の常緑樹）

冬に緑は少なく、周りのビルの色・灰色・白・ベージュが街のイメージ色となる。だが、歩道の中木・低木、中央分離帯には常緑樹が多く、高さは低いが「緑のライン」としての効果をあげている。しかし、現状では、この「緑のライン」の管理不足も目につく。これは、最近の温暖化と、また街路における管理のし方の困難さが原因と考えられる。

- キャラボク（イチイ科）・・常緑針葉・日陰強し・公害強し○シャリンバイ（モチノキ科）、
- トベラ（トベラ科トベラ属）・・潮風・乾燥・大気汚染に強い。開花は5・6月。
- ツバキ科の植物。・・・など、過酷な条件に強い植物を選ぶと良い。

また、ハーブ類、特にローズマリー、チェリーセージなどは、条件を選ばず旺盛に生育した姿を市内随所で見かける。今後も選んでいきたい種類である。



写真4 緑のライン



写真5 中央分離帯の緑



写真6 ハーブ

提案 A-②：植栽マスの工夫を工夫する

交差点の歩道で、幅がある場合、大きな植栽マスの利用を奨励する。これにより、土表面を広くし、保水力を高め、乾燥に因る植物のダメージを減らし、管理し易くする。歩道の幅が狭い場合でも、長い植栽マスを利用し、幅は狭くても面積を多く取る事で、乾燥を防ぐことができる。

また、植物も乾燥や大気汚染にも強い種類、常緑低木や常緑這い性植物、ハーブ類、宿根草を多用することで、植え替えや水遣りの手間を減らし管理を楽にする。

ゴミが捨てられ、雑草も一杯、と美しくない状態が多い。是非、管理体制を確立したい。



写真7 植えっぱなしの植栽マス



写真8 大きなマスと桜の木(桜通大津)

提案 A-③：車からの目線で見た植栽についても考慮する

街を、快適な心地良い場所（景観）にする為には、車からの目線でも植栽を考える必要がある。視界を妨げる植栽は避けるべきだが、運転する人の心理に効果的に働く植栽とはなんだろうか？走る車から、植栽はどのように見えるのだろうか？中央分離帯の植栽の高さは、目線よりも高い位置で連続すると、壁のようでかなりの圧迫感がある。閉塞的で周りの景観からも分断され、運転者の気持ちにゆとりがなくなる。一方、広い道幅に低い植栽の連続は、視界に広がりを感じ、気持ちにゆとりが生まれる。

人と車を分断せずに、共生し、植栽をうまく使う、高さを押さえ、その幅・連続性を工夫したカタチでの植栽のデザインが必要である。歩道側の植栽の高さを考える事はもちろん、特に中央分離帯の植栽を低くすると大きな効果が得られる。



写真9 高い植栽は圧迫感がある



写真10 歩道と道路を低い植栽で分ける

(4) ②歩道のコンテナ・ハンギングバスケットについて

大津通り全体を通し、コンテナ、花壇に関しては、現状十分とはいえない状況である。

さらに、平成 22 年 1 月 14 日中日新聞朝刊、名古屋市の予算案拝見という記事によると、予算削減の影響で“花壇では、一部の花を手間がかからないコケなどに植え替える”と書かれている。

名古屋市の緑政土木局に問い合わせたところ、市内の中心的な場所の花壇は今まで通りで草花を減らさず、周辺地域の公園等の花壇は、一部減らすという回答であった。予算が厳しい昨今においては、真っ先に予算が削られる傾向にある草花ではあるが、手間がかかる分、美しく管理された植栽は、その街の文化的側面を物語る。

また、今回のアンケート調査において、どのエリアでも緑や植物を求めている声が非常に多く、是非とも減らさない方向にしたい。

花のメンテナンスは、花に関わる人々のやり甲斐を上手く引き出し、自発的活動の支援が重要である。花は単なるモノではなく、そこに人が関与する背景を人は無意識に感じる。美観だけではなく、温もりや、癒し等の心理的な効果、また、花のボランティア活動を通してコミュニティーがうまれ、近年希薄になりがちな人とのつながりも強くなる効果をもちあわせている。

課題A : 草だけが生えるコンテナ（金山橋中央分離帯）

コンテナの中には何も植えられておらず、草だけが生えている。（写真 11）

提案A : 手入れの楽な植栽をする

草花は管理が大変であるので、オカメヅタのような手入れの少なくとも良い常緑の地被植物、花の咲くピペリカム、冬場も赤い葉が鮮やかに映えるオタフクナンテン、通年黄金の葉が美しいフィリフィアオーレアなどのカラーリーフの低木類を奨励する。特に、黄金色は、金山のイメージにも調和する。



写真 11 何も植えられていない殺伐としたコンテナ（撮影 5 月 9 日）



写真 12 黄金色のフィリフィアオーレア

課題B：治安に悪影響を及ぼすコンテナ（金山周辺歩道）

何も植えられておらず、草だけが生えているコンテナがかなり目立つ。（写真13）

このようなコンテナの脇には、放置自転車が何のためらいもなく置かれ、雑然さ、治安の悪さを増している。荒れた景観は、人の心も、荒れさせてしまう恐れも感じられる。

提案B：花で美観と放置自転車対策を兼ねる

コンテナに手入れされた花を飾ることは、そこに、人が関与している温かさを人は無意識に感じ、放置自転車も少なくなる二次的な効果も期待できる。草花を飾ることで美観とともに、放置自転車対策を兼ねたい。



写真13 草のみ生えるコンテナ



写真14 花あふれるコンテナ

課題C：ペットボトル入りハンギングバスケット（金山南口の広場）

ハンギングバスケットに給水用にペットボトルが挿してある。（写真15）

水遣りの機能面は理解できるが、金山駅玄関口の美観としては、ふさわしくない。

ハンギングバスケット器材の大きさに対して、花のボリュームが少なすぎて、麻の器材が丸見えで、寂しい。

提案C：自動灌水システムを設置する

駅前でもあり、ホテルグランコート、ボストン美術館、名古屋都市センターを訪れる人々の通る場所でもあり、ここは見栄えの良い花で道行く人々を迎える。ハンギングバスケットの器材が見えない花あふれるハンギングバスケットは、駅前の景観にふさわしく、街の品格が上がる。水の心配があるのであれば、自動灌水システム等を設置する。



写真15
ペットボトルが
興ざめのハンギ
ングバスケット



写真16
駅前にふさわ
しい美しいハ
ンギングバス
ケット

課題D：目立たないハンギングバスケット（栄交差点）

様々な色彩の様々な種類の花が植えられているため、予算をかけているわりに目立たず、効果的でない。

提案D：“色の群れ”で見せる

開花期の長い丈夫な植物で、予算をかけずに、色の固まりで見せる。写真18は、マリーゴールドとグリーンのみの単純ではあるが、“色の群れ”が美しいハンギングバスケットである。この場所は、名古屋の中心となる重要な場所であるので、改善が必要である。



写真17
栄交差点のハンギングバスケット



写真18
“色の群”のハンギングバスケット

提案E：治安にも効果のある花飾りの好例（矢場町高速道路高架下）

矢場町高架下のハンギングバスケット活動「はなとも」は、美観目的だけではなく、治安の目的で飾られた好例である。

この場所は、ゴミの不法投棄などがあり、治安防護の為に人の気配を感じられるハンギングバスケットをボランティア活動で飾り、効果を出している。このように花を美しく飾ることは、街の美観と治安の両面の効果がある。



写真19 治安対策の花飾り

補足C、D

植物の植えられない場所や、街の中心部等において立体的な花飾りを施し、ビューポイントを作る場合、ハンギングバスケットは効果的である。

美しいハンギングバスケットを維持するには、適切な品種選びとメンテナンス（自動灌水システム、ボランティア活動など）が必須である。

十分なメンテナンスが出来ない中途半端なハンギングバスケットは、景観において逆効果となるケースも多いので、ハンギングバスケットの導入には慎重になるべきである。

(4) ③ 花壇について

課題A : 草丈が低く目立たない（栄交差点の花壇）

栄交差点は、花壇にパンジーが植えられ、この辺りの景観に良い印象を与えていた。また、黄色のパンジーは暖かさを感じられ、この季節（冬）の花色としても良い。

しかし、コンテナの花に高さがなく、全く目立たない。器の大きさに対して植えられている花の高さが低すぎる。（写真 20）

提案A : 高さのある植物を植える

高さのある鉢には、高さのある植物を植えるとバランスが良い。

草花では、予算がかかるということであれば、コルジリネやコニファーのような樹木をコンテナの中心に植え、周りの花壇との高低さをつけ立体的に飾ることで、遠目からでも目立つ花壇となる。この場所は、名古屋の中心となる重要な場所であるので、改善が必要である。



写真 20 コンテナの花が低く、目立たない



写真 21 高低差のある立体的な花壇

補足A : ボランティア活動による花壇の好例（桜通大津）

ここは、桜通と交差する場所であり、交差点の四隅には、桜通にふさわしい“しだれ桜”的木が植えられている。そして、この花壇は、「花のおもてなし運動」という活動を中部経済同友会が、ボランティア活動で行っている。手入れされた花壇は、この辺りの景観の印象を良くしている好例である。



写真 22 桜通大津の花壇

(4) ④ 民有地の植栽について

特に大きな建築物に関しては、民有地の植栽は必須である。樹木の植栽だけでなく玄関先などには花壇やコンテナで、季節の草花を植栽することにより温かさや潤いが生まれ、企業や店舗のイメージやマンションの価値が高まる。

課題A : 民有地の植栽は十分とは言えない

大津通りの民有地の植栽は、ビルが目立ち、十分とは言えない。

提案A-① : 店舗ファサードでの植物の利用

緑豊かな空間は人を引き込む効果があり、また、通りの美観にも繋がる。

それぞれの店舗のイメージにあう植物を飾ることにより、来店してほしい顧客（ターゲット）を呼び込むことに一役かっている。商業地域の活性にも植栽は心理的な効果がある。



写真 23 店舗の個性を引き立てる植栽（大須）

提案A-② : 壁面緑化、緑のカーテン

室内の気温降下、美観、CO₂削減、温暖化対策ともに効果的である。

ヘデラなどのつる性植物をトレリスなどへ誘引した緑化や、緑化建材を利用した緑の壁は、都会の景観に調和しやすく、緑の心地よさや、美観等により緑への関心を深める。



写真 24 都会の景観に映える緑の壁

提案A-③ : 植栽を利用したコンペの実施（矢場町～栄北）

植物を美しく保つには、日ごろの管理、メンテナンスが必須である。大津通りの矢場町、栄南、栄北の一部の区間が都市景観形成地区に指定されていることの意識付けと維持管理をより充実感をもって臨めるよう「大津通り 緑化・花飾りコンテスト」などを行う。

店舗に関しては、お店の認知度UPにも繋がる。

(4) ⑤植栽提案資料

【四季の草花の色別具体例】

◆ピンク系植物の具体例

春	プリムラ、パンジー、デージー、キンギョソウ、リナリア
夏	ペチュニア、インパチェンス、ニチニチソウ、センニチコウ、ペントス、ベゴニアセンパフローレンス、ランタナ、ポーチュラカ
秋	ケイトウ、コスマス、シュウメイギク
冬	ガーデンシクラメン、キンギョソウ、デージー、パンジー、ハボタン

◆黄緑、白斑の植物、シルバープランツ植物の具体例

初 夏 ～秋	コリウス（ライム）、デュランタライム（花木）、リシマキア、ブレクトランサス、パイナップルミント 夏：ガーデンカラジウム（白）
冬	白妙菊

周年	フィリフィアオーレア（樹木）、オカメヅタ、ヘデラ、ベアグラス、カラレックス、ヤブラン、ツルニチニチソウ、コルジリネ（白斑）、ニューサイラン、ヘリクリサム
----	--

◆橙色系植物の具体例

春	パンジー、ビオラ、チューリップ
夏	クロサンドラ、マリーゴールド、ランタナ、ガザニア
秋	マリーゴールド、ポットマム、ケイトウ、ジニア
冬	パンジー、ビオラ

◆赤系植物の具体例

春	パンジー、プリムラジュリアン
夏	ペチュニア、ハイビスカス、インパチェンス、ニチニチソウ、ペントス、ベゴニアセンパフローレンス、バーベナ、サルビア
秋	コリウス、ポットマム、トウガラシ、ケイトウ
冬	オタフクナンテン（樹木）、ガーデンシクラメン

◆黄色系植物の具体例

春	パンジー、ビオラ、水仙、プリムラジュリアン、チューリップ
夏	マリーゴールド、ヒマワリ
秋	マリーゴールド、ポットマム、ケイトウ、ジニア
冬	パンジー、ビオラ、ユリオプシスデージー、 フィリフィアオーレア（樹木）

4-4. まとめ

(1) “見えるいろ（景観色彩）”と“見えないいろ（文化）”のバランス

名古屋の都市景観には数多くの“見えるいろ”が存在し、まちなみを構成している。色彩によってそのまちなみをコントロールすることは可能であるが、そのまちなみには“見えないいろ”が存在し、息づいていることを忘れてはならない。

文化をないがしろにした“見えるいろ”的コントロールだけでは良い結果をもたらさず、また“見えないいろ”だけでは日々進化する技術や時代の流れに追従し、変化することはできない。重要なのは“見えるいろ”と“見えないいろ”的バランスである。

今回対象地として選んだ大津通りでは古くから商業が栄え、“にぎわい”的文化が息づいている。その中でも通り沿いの各エリアにおいて“見えないいろ”が存在し、それぞれ異なる“いろ”を持っていた。市民はそれを無意識に感じ取り、そのエリアに似つかわしくない色彩に不快感を表している。逆に一般的に特徴ある色彩であってもそれを許容するほどの文化がそのエリアにあれば、そこは良い景観となり得るのである。

(2) 良い景観を持続すること

都市景観をよりよいものにしていくためには、それぞれの“いろ”を読み解きバランスを整えることであるが、それを実現させるために必要なものは“いろ”的バランスを感じ取ることができるわれわれのバランス感覚である。

名古屋の都市景観をよりよいものとし、それを持続させるためには、“いろ”を感じ取ることができる良い環境を整えることだけでなく、変化していく社会環境の中でも“いろ”を見失うことのない市民感覚を育て、後世に伝えていくことである。

資料編

■アンケート調査集計結果

1/10

アンケート集計データ

卷末資料

エリア	性別	年齢	二年を通じた回数	二年を通じた目的	その理由	その理由	この街をイメージする
1 金山	男	10代	今まで何回も	名古屋市をイメージする	今見た黄の緑が印象的	この街の雰囲気をひとと言でいうと	にぎやか
2 金山	男	10代	今まで何回も	ゴールド	金シャチ	にぎやか	にぎやか、明るい
3 金山	男	10代	今まで何回も	ゴールド	味醂	白	白
4 金山	男	10代	今まで何回も	ゴールド	クール	白	白
5 金山	男	10代	今まで何回も	ゴールド	金シャチ	白	元気、活い、くさい、
6 金山	男	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	にぎやか、人多い
7 金山	男	20代	今まで何回も	ゴールド	金シャチ	白	人多い、食い、余しきりいいじゃない
8 金山	男	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	余しきりいいじゃない
9 金山	男	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	余しきりいいじゃない
10 金山	男	30代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	余しきりいいじゃない
11 金山	男	30代	今まで何回も	通勤・通学	市ハズの色だから	ネオ・シン街で華やかだから	華やか、自然が多い、2番目京都心
12 金山	男	30代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
13 金山	男	40代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
14 金山	男	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
15 金山	男	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
16 金山	男	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
17 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
18 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
19 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
20 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
21 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
22 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
23 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
24 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
25 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
26 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
27 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
28 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
29 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
30 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
31 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
32 金山	女	10代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
33 金山	女	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
34 金山	女	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
35 金山	女	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
36 金山	女	30代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
37 金山	女	30代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
38 金山	女	40代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
39 金山	女	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
40 金山	女	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
41 金山	女	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
42 金山	女	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
43 金山	女	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
44 金山	女	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
45 金山	女	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
46 金山	男	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
47 金山	男	20代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
48 金山	男	30代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
49 金山	男	30代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
50 金山	男	30代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
51 金山	男	40代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
52 金山	男	40代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
53 金山	男	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
54 金山	男	50代	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
55 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
56 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
57 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
58 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
59 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
60 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
61 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心
62 金山	男	60代以上	今まで何回も	通勤・通学	金シャチ	白	自然が多い、2番目京都心

卷末資料

アンケート集計データ

2/10

性別	年齢	ニーズを満たす回数	名古屋をイメージする理由	この街をイメージする理由
エリック	60代以上	ほぼ毎日通る	生民その他	人間を大切にしない僕は人
64 東京在住	今までに数回	その他の他	向くなく	商業のみで人が行き来り
65 東京在住	20代	今までに数回	目立たない	人が少ない。静か。
66 東京在住	女 20代	今までに数回	明るい、活気がある	店が少ない
67 東京在住	女 20代	今までに数回	落ち着き	車が多い
68 東京在住	今までに数回	その他の他	車が多い	車が多い
69 東京在住	女 20代	今までに数回	色を醸じない	車が多い
70 東京在住	30代	今までに数回	ソーシャルのみ	車がない
71 東京在住	女 30代	今までに数回	派手で、派手	車がない
72 東京在住	女 30代	今までに数回	派手で、派手	車がない
73 東京在住	女 40代	今までに数回	派手で、派手	車がない
74 東京在住	50代	今までに数回	派手で、派手	車がない
75 東京在住	女 50代	今までに数回	派手で、派手	車がない
76 東京在住	女 50代	今までに数回	派手で、派手	車がない
77 東京在住	60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
78 東京在住	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
79 東京在住	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
80 東京在住	60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
81 東京在住	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
82 東京在住	60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
83 東京在住	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
84 東京在住	60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
85 東京在住	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
86 東京在住	60代以上	今までに数回	派手で、派手	車がない
87 天空	10代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
88 天空	男 10代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
89 天空	男 20代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
90 天空	男 20代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
91 天空	男 20代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
92 天空	男 20代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
93 天空	男 30代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
94 天空	男 30代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
95 天空	男 30代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
96 天空	男 40代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
97 天空	男 40代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
98 天空	男 50代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
99 天空	男 50代	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
100 天空	男 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
101 天空	男 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
102 天空	男 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
103 天空	男 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
104 天空	男 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
105 天空	男 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
106 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
107 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
108 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
109 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
110 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
111 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
112 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
113 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
114 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
115 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
116 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
117 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
118 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
119 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
120 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
121 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
122 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
123 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手
124 天空	女 60代以上	今までに数回	派手で、派手	派手で、派手

アンケート集計データ

アンケート集計データ

二の街の景観は好きですか	この街の景観は好きですか	二の街の足りないところは?	この街を何色にしたいか
63 好い、どちらかといえは好き	いいえ、人間を守る木が多い	人間性(児人のサービス)	青緑
64 どちらかといえは好き	どちらかといえは好き	人通りが少なくて寂しい所	黄緑
65 普通	どちらかといえは嬉しい	人気が少なくて危険そう	黄緑
66 どちらかといえは嬉しい	どちらかといえは嬉しい	待二なし	黄緑
67 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	新色を設立しない
68 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	新色を設立しない
69 普通	どちらかといえは嬉しい	TV骨のある待二なし	待二なし
70 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
71 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
72 どちらかといえは好き	どちらかといえは好き	待二なし	待二なし
73 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
74 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
75 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
76 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
77 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
78 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
79 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
80 普通	どちらかといえは嬉しい	待二なし	待二なし
81 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道広く歩き易い、目障がある	交通事例少なくしたい
82 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
83 普通	どちらかといえは好き	歩道の見渡し	待二なし
84 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
85 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
86 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
87 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
88 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
89 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
90 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
91 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
92 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
93 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
94 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
95 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
96 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
97 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
98 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
99 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
100 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
101 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
102 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
103 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
104 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
105 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
106 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
107 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
108 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
109 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
110 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
111 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
112 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
113 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
114 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	待二なし
115 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
116 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	待二なし
117 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。
118 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。
119 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。
120 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。
121 普通	どちらかといえは嬉しい	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。
122 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。
123 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。
124 普通	どちらかといえは好き	歩道狭さ	歩道の自転車通行が気に入らない。

卷末資料

アンケート集計データ

10/10

この街の景観は好きですか	この街の歩けたところ、守りたいところは?	この街の足りないところ	この街を何色にしたいか
249 好き	公園・広場等の休憩場所	この街の量が多い	シルバー
250 好き	緑が豊かな場所	この街の量が多い	黄緑
251 どちらかといえまほ好き	地下が歩けているところ	車が多すぎると感じます	青
252 どちらかといえまほ好き	道が少ないところ	駐車場を広げてほしい	シルバー
253 好き	電柱がないところ	持こなし	だいぶぞい
254 好き	テレビ塔・公園	交通便の改善・駐車場料金値下	白
255 好き	色々なお店があるところ(セントラルハイツ)	地下駐車場を設立(リード入等)	朱
256 どちらかといえまほ好き	店が多く三段・仮設屋	持こなし	だいぶぞい
257 好き	久喜公園の緑	立飲食店がない。15-17時新規の飲食店が多い	コールド
258 好き	久喜公園の緑	市役所代替地輪場不足	青
259 好き	久喜公園の緑	駐車料金が高い	青
260 どちらかといえまほ好き	木目に象徴通り等で賑わうところ	各町会主催で歩き隊が出るところ	緑
261 どちらかといえまほ嫌い	交通便が良い	持こなし	シルバー
262 好き	公園	文化が足りない	茶色
263 好き	公園	持こなし	赤
264 好き	公園	文化を盛り入れてほしい	黄緑
265 好き	公園	便利がほしい	緑
266 好き	公園	昔の物が残っている	だいぶぞい
267 好き	公園	持こなし	青
268 どちらかといえまほ嫌い	明るいところ	美術館内部が分かる、もっと覗き	緑
269 好き	道が多く多いところ	車が多くなる、もつと覗き	青
270 どちらかといえまほ好き	道が多く多いところ。住みやすさ	持こなし	緑
271 どちらかといえまほ好き	歩道が多い	公園・水(川や噴水)を増やす	青
272 好き	歩道が多い	緑が少ないと、歩道者との共存が出来ていない。子供やペットが並べる場所	ビンク
273 好き	公園がきれい	公園をきれいに。国際化・若者・ワーキング	コールド
274 どちらかといえまほ好き	安心して歩ける治安の良さ	アーチ・オーバー・ワーキング	緑
275 好き	公園	持こなし	緑
276 どちらかといえまほ好き	公園の緑	コタハへの吸い寄せをなくす	緑
277 どちらかといえまほ好き	公園の便利なところ	自転車が便利	緑
278 好き	公園	自転車が使いやすい	コールド
279 好き	公園	交通の便がほしい	青
280 好き	公園	自転車道の整備	だいぶぞい
281 好き	公園	自転車道の整備を残す	青
282 好き	公園	持こなし	緑
283 どちらかといえまほ好き	公園	自転車道の整備	青
284 好き	公園	自転車道の整備	青
285 好き	公園	自転車道の整備	青
286 好き	公園	自転車道の整備	青
287 どちらかといえまほ好き	公園	自転車道の整備	緑
288 好き	公園	持こなし	緑
289 好き	公園	便利が多いところ	白
290 どちらかといえまほ好き	現在のきれいでないところ	公園の量が多いところへ多めに	緑
291 どちらかといえまほ好き	現在のきれいでないところ	公園の量が多いところへ多めに	緑
292 どちらかといえまほ好き	現在のきれいでないところ	公園の量が多いところへ多めに	緑
293 どちらかといえまほ好き	大人の街で歩きやすい	大人の街で歩きやすい	だいぶぞい
294 どちらかといえまほ嫌い	交通便の良さ	車が走り易い所	青
295 どちらかといえまほ好き	交通便の良さ	車道も広い	青
296 どちらかといえまほ好き	交通便の良さ	歩道が狭い	青
297 好き	公園	持こなし	だいぶぞい
298 どちらかといえまほ好き	公園(生踏跡樹)	高齢者向けの店舗を増やす	青
299 どちらかといえまほ好き	道路の小さいところ	毎日の買い物が不便	赤
300 好き	道路	個人商店	青
301 好き	道路	落ち葉あるところ	ハチ
302 好き	道路	緑はある	青
303 好き	道路	自転車とヨミの問題	青

平成21年度 市民研究Ⅱ報告書

色彩を通してみる都市環境と都市文化

発 行 平成22年3月
財団法人 名古屋都市センター
〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号
TEL 052-678-2200
FAX 052-678-2211
印 刷 名港印刷 株式会社

この印刷物は再生紙を使用しています。

